



平成26年度（平成25年度 実施事業）

上尾市教育委員会の事務に関する点検評価報告書



上尾市教育委員会

目次

I 点検評価制度の概要

1 点検評価制度の趣旨	1
2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策	1
3 平成26年度における点検評価	1
4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	2
◎平成26年度教育委員会点検評価 実施主要事業	3

II 教育委員会活動

1 上尾市教育委員会の組織と事務分掌	7
2 上尾市教育振興基本計画	9
3 平成25年度 教育行政重点施策	15
4 上尾市教育委員会の活動	
(1) 平成25年度 教育委員会会議の開催状況	23
(2) 平成25年度 教育委員会議決案件	23
(3) 平成25年度 教育委員会委員の主な活動	26
5 平成25年度 教育費予算額	
(1) 平成25年度 上尾市一般会計歳出予算(当初)【目的別】	29
(2) 平成25年度 教育費歳出予算内訳(当初)	30
(3) 平成25年度 教育予算主要事業概要	31
6 平成25年度 教育費決算額	
(1) 平成25年度教育費決算 節別内訳	37
(2) 平成25年度教育費決算 人件費等に関する調	39
(3) 平成25年度教育費決算 性質別歳出内訳及び財源内訳	41
(4) 一般会計・教育費決算額の推移	42

III 評価結果（施策評価）

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	45	施策4 特別支援教育の推進	50
施策2 時代の変化に対応した教育の推進	47	施策5 幼児教育の推進	52
施策3 進路指導・キャリア教育の充実	49		

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成	54	施策5 学校保健の充実	61
施策2 生徒指導の充実	57	施策6 食育の推進・学校給食の充実	62
施策3 人権教育の推進	59	施策7 児童生徒の体力向上	63
施策4 学校教育相談の充実	60		

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上	66	施策4 学校のICT化の推進	71
施策2 学校経営の改善・充実	67	施策5 学校安全の推進	73
施策3 学校施設・設備の整備・充実	69	施策6 就学支援の充実	74

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	76	施策2 家庭教育の充実	77
--------------------------	----	-------------	----

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実	79	施策4 人権教育の推進	82
施策2 生涯学習施設の整備	80	施策5 図書館運営の充実	83
施策3 生涯学習機会の提供	81		

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進	85	施策2 文化財の保護	86
---------------	----	------------	----

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ推進計画の策定	88	施策4 スポーツ指導者の育成	91
施策2 スポーツ施設の整備・充実	89	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援	92
施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実	90		

Ⅳ 評価結果（事務事業評価）

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

事業番号1 さわやかスクールサポート事業(学級支援)	95	事業番号9 中学生海外派遣研修事業	103
事業番号2 理科教育振興事業	96	事業番号10 小中学校ALT配置事業	104
事業番号3 教育に関する3つの達成目標推進事業	97	事業番号11 中学生社会体験チャレンジ事業	105
事業番号4 魅力ある学校づくり事業	98	事業番号12 中学生進路意識啓発事業	106
事業番号5 学力向上支援事業	99	事業番号13 特別支援学級補助員派遣事業	107
事業番号6 日本語指導職員派遣事業	100	事業番号14 特別支援教育推進事業	108
事業番号7 準教科書・副読本整備事業	101	事業番号15 幼稚園就園奨励費補助事業	109
事業番号8 英語弁論暗唱大会開催事業	102	事業番号16 私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業	109

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

事業番号17 学習支援事業	111	事業番号25 子どもの読書活動支援センター運営事業	119
事業番号18 さわやかスクールサポート事業 (学校図書館支援)	112	事業番号26 生徒指導推進事業	120
事業番号19 小中学校音楽会開催事業	113	事業番号27 さわやか相談室運営事業	121
事業番号20 小中学校図書整備事業	114	事業番号28 いじめ根絶対策事業(防止事業)	122
事業番号21 図書館資料整備事業	115	事業番号29 いじめ根絶対策事業(相談事業)	123
事業番号22 指導法改善事業	116	事業番号30 人権教育推進事業(指導課所管分)	124
事業番号23 中学校部活動支援事業	117	事業番号31 不登校児童生徒の学校適応指導事業	125
事業番号24 中学校吹奏楽演奏会開催事業	118	事業番号32 教育相談事業	126
		事業番号33 児童生徒体力向上推進事業	127

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

事業番号34 学校評議員制度運営事業	129	事業番号41 学校安全パトロールカー事業	136
事業番号35 元気な学校をつくる地域連携推進事業	130	事業番号42 通学路安全対策事業	137
事業番号36 小中学校教育教材整備事業	131	事業番号43 入学準備金・奨学金貸付事業	138
事業番号37 小中学校校舎改築事業	132	事業番号44 小中学校就学援助費補助事業	139
事業番号38 小中学校コンピュータ整備事業	133	事業番号45 小中学校特別支援教育就学奨励事業	140
事業番号39 小中学校電子黒板整備事業	134	事業番号46 要保護児童生徒医療費援助事業	141
事業番号40 児童生徒安全推進事業	135	事業番号47 準要保護児童生徒給食費援助事業	139

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

事業番号48 家庭教育推進事業	143
-----------------	-----

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

事業番号49 生涯学習指導者活動推進事業	145	事業番号53 公民館講座事業	149
事業番号50 学校施設開放(生涯学習)事業	146	事業番号54 人権教育推進事業(生涯学習課所管分)	150
事業番号51 成人式事業	147	事業番号55 人権教育集会所運営事業	151
事業番号52 子ども大学推進事業	148	事業番号56 ブックスタート事業	152

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

事業番号57 文化芸術振興事業	154	事業番号61 埋蔵文化財調査事業	158
事業番号58 美術展覧会事業	155	事業番号62 文化財保護啓発事業	159
事業番号59 市民音楽祭事業	156	事業番号63 歴史資料調査事業	160
事業番号60 文化財調査・保存事業	157		

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

事業番号64 学校施設開放(スポーツ振興)事業	162	事業番号66 子どもの体力向上地域連携事業	164
事業番号65 スポーツ大会・教室等開催事業	163	事業番号67 スポーツ活動推進事業	165

平成23年3月、上尾市教育委員会では「夢・感動教育 あげお」を基本理念とした「上尾市教育振興基本計画」を策定し、新しい時代への新たな一歩を踏み出しました。

この基本理念にある

「夢」という言葉は、知・徳・体の調和のもと、目標・志を持って自己実現を目指し、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践すること

「感動」という言葉は、人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践すること

を表し、教育委員会の願い、決意や、家庭・地域において“教育”に携わっていただいているすべての皆様の情熱、絆、希望が込められております。

昨今の社会情勢は、グローバル化、金融危機、さらには東日本大震災などにより、急速に変化し続けており、教育行政に着目すると、少子高齢化の急激な進行、家族形態の変容やライフスタイルの多様化等の社会変化に伴い、過去から社会問題化している いじめ問題、不登校をはじめ、学力・体力の低下、教職員の資質の向上、食の安全等、取り組まなければならない喫緊の課題が山積しております。

本年6月には地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育委員会制度が大きな転換期を迎えております。今後とも市民の皆様から真に信頼される教育行政を運営していくためには、単に施策を講じ、事業の成果だけを求めるのではなく、適切なコストで最大限の成果を得ることができるよう、より効率的で効果的な行政運営を心がけ、市民の皆様に対して説明責任を果たしていかなければなりません。

そこで、上尾市教育委員会では、平成20年度から毎年、教育に関する事務について、点検評価を実施してまいりました。7年目となる本年度も、平成25年度に実施した67の教育に関する事務事業と「上尾市教育振興基本計画」に体系付けられた全32の施策について、自ら点検及び評価を実施し、聖学院大学教授 小川洋様、元市立学校長 河原塚貴美代様、元さいたま市生涯学習部生涯学習振興課長 高見澤妙子様からも貴重なご意見を賜り、このたび本報告書を作成いたしました。

今般の自己の点検評価の結果、学識経験を有する先生からの評価、そして、市民の皆様から頂戴する貴重なご意見を真摯に受け止め、引き続き施策の効果の検証と改善を図りながら、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、より効率的で効果的な行政運営を行ってまいります。

平成26年12月 上尾市教育委員会

上尾市教育委員会委員

委員長	細 野 宏 道
委員長職務代理者	本 田 直 子
委員	甲 原 裕 子
委員	吉 田 る み 子
委員	岡 田 栄 一
教育長	岡 野 栄 二

I 点検評価制度の概要

1 点検評価制度の趣旨

平成18年12月の教育基本法の改正、平成19年3月の中央教育審議会答申等を踏まえ、平成19年6月、教育委員会の組織やその運営方法を定めた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正された。この法改正においては、大きな柱の一つとして『地方における教育行政の中心的な担い手である教育委員会が、より高い使命感をもって責任を果たすために、教育委員会の責任体制の明確化を図ること』が掲げられ、実現する一つの方策として、平成20年4月1日から、各教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に報告するとともに、公表しなければならないことが定められた。

この点検評価の実施にあたっては、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるなど、知見を活用することにより、教育委員会が行った点検評価結果の客観性を確保することが求められている。

2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策

平成23年3月に策定した「上尾市教育振興基本計画」であるが、「夢・感動教育 あげお」を基本理念として、「生きる力をはぐくむ」「生きる喜びをはぐくむ」「絆をはぐくむ」の3つの基本方針を掲げている。この基本理念及び基本方針を踏まえて、平成23年度から平成27年度の間に取り組む教育行政の7つの基本目標を定め、さらに、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、この7つの基本目標には、全32の施策が体系付けられている。

また、この計画の実効性をさらに高め、今日的教育課題に素早く対応し、適切に解決していくために、「平成25年度上尾市教育行政重点施策」を平成25年3月に策定をしている。この重点施策においては、計画の7つの基本目標とそれに体系付けられた施策を効果的に展開していくために、67の事務事業を体系付けている。

当該計画を効率的かつ効果的に推進していくためには、PDCA サイクルの考え方にに基づき、当該計画と点検評価を関連付け、計画の進捗管理を行っていく必要がある。

3 平成26年度における点検評価

平成26年度における点検評価については、平成23年度に策定された「上尾市教育振興基本計画」に掲げられた各施策の下に体系付けられた事業（平成25年度上尾市教育行政重点施策において決定）について、事業レベルでの「事務事業評価」を実施するとともに、事務事業評価をベースに、施策レベルでの「施策評価」についても実施する。

なお、事務事業評価及び施策評価とも、評価基準日は平成26年3月31日とする。

(1) 施策評価

施策評価については、各施策に体系付けられている事務事業の事務事業評価判定(S～D)、評価指標、決算額とともに、当該施策に係る成果指標を掲載している。また、「次年度以降の目標設定」を掲載し、計画の適切な進捗管理を行っていく。

(2) 事務事業評価

平成26年度の「事業評価判定」の基準については、次のとおりである。

評価	評価基準
S	極めて効果があり、他の事業にも影響を与えた。
A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。
B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。
C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。
D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。

4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法においては、点検及び評価を行うに当たり、点検評価結果の客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるなど、知見の活用を求めている。平成26年度においても、昨年同様に広範に亘る事業を網羅するため3人に第三者評価を依頼した。

◎教育に関し学識経験を有する者 ※50音順

聖学院大学教授 小川 洋 氏 (おがわ よう)

元上尾市立小学校長 河原塚貴美代 氏 (かわはらづか きみよ)

元さいたま市生涯学習部生涯学習振興課長 高見澤妙子 氏 (たかみざわ たえこ)

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）〔抜粋〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

◎平成26年度 教育委員会点検評価 (平成25年度実施事業の評価) 実施主要事業(全67事業)

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- 1 さわやかスクールサポート事業 (学級支援) 【再Ⅰ-4】
- 2 理科教育振興事業
- 3 教育に関する3つの達成目標推進事業 【再Ⅱ-1,Ⅱ-7】
- 4 魅力ある学校づくり事業 【再Ⅱ-7,Ⅲ-2】
- 5 学力向上支援事業

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- 6 日本語指導職員派遣事業 【再Ⅲ-6】
- 7 準教科書・副読本整備事業 【再Ⅱ-1,Ⅲ-3】
- 8 英語弁論暗唱大会開催事業
- 9 中学生海外派遣研修事業
- 10 小中学校ALIT配置事業

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- 11 中学生社会体験チャレンジ事業
- 12 中学生進路意識啓発事業

施策4 特別支援教育の推進

- 再掲 さわやかスクールサポート事業 (学級支援)
- 13 特別支援学級補助員派遣事業
- 14 特別支援教育推進事業

施策5 幼児教育の推進

- 15 幼稚園就園奨励費補助事業
- 16 私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業

※ 15・16については、1シートで評価

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成

- 再掲 教育に関する3つの達成目標推進事業
- 再掲 準教科書・副読本整備事業
- 17 学習支援事業
- 18 さわやかスクールサポート事業 (学校図書館支援)
- 19 小中学校音楽会開催事業
- 20 小中学校図書整備事業 【再Ⅲ-3】
- 21 図書館資料整備事業 【再Ⅴ-5】
- 22 指導法改善事業 【再Ⅲ-1,Ⅲ-2,Ⅲ-4】
- 23 中学校部活動支援事業 【再Ⅱ-7】
- 24 中学校吹奏楽演奏会開催事業
- 25 子どもの読書活動支援センター運営事業 【再Ⅴ-5】

施策2 生徒指導の充実

- 26 生徒指導推進事業
- 27 さわやか相談室運営事業
- 28 いじめ根絶対策事業 (防止事業) 【再Ⅱ-4】
- 29 いじめ根絶対策事業 (相談事業) 【再Ⅱ-4】

施策3 人権教育の推進

- 30 人権教育推進事業 (指導課所管分)

施策4 学校教育相談の充実

- 再掲 いじめ根絶対策事業 (防止事業)
- 再掲 いじめ根絶対策事業 (相談事業)
- 31 不登校児童生徒の学校適応指導事業
- 32 教育相談事業

施策5 学校保健の充実

施策6 食育の推進・学校給食の充実

施策7 児童生徒の体力向上

- 再掲 教育に関する3つの達成目標推進事業
- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 中学校部活動支援事業
- 33 児童生徒体力向上推進事業

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上

- 再掲 指導法改善事業

施策2 学校経営の改善・充実

- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 指導法改善事業
- 34 学校評議員制度運営事業
- 35 元気な学校をつくる地域連携推進事業 【再Ⅳ-1】

施策3 学校施設・設備の整備・充実

- 再掲 準教科書・副読本整備事業
- 再掲 小中学校図書整備事業
- 36 小中学校教育教材整備事業
- 37 小中学校校舎改築事業

施策4 学校のICT化の推進

- 再掲 指導法改善事業
- 38 小中学校コンピュータ整備事業
- 39 小中学校電子黒板整備事業

施策5 学校安全の推進

- 40 児童生徒安全推進事業
- 41 学校安全パトロールカー事業
- 42 通学路安全対策事業

施策6 就学支援の充実

- 再掲 日本語指導職員派遣事業
- 43 入学準備金・奨学金貸付事業
- 44 小中学校就学援助費補助事業
- 45 小中学校特別支援教育就学奨励事業
- 46 要保護児童生徒医療費援助事業
- 47 準要保護児童生徒給食費援助事業

※ 44・47については、1シートで評価

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上**施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進**

再掲 元気な学校をつくる地域連携推進事業

施策2 家庭教育の充実

48 家庭教育推進事業

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート**施策1 生涯学習体制の充実**

49 生涯学習指導者活動推進事業【再Ⅴ-3】

施策2 生涯学習施設の整備

50 学校施設開放（生涯学習）事業

施策3 生涯学習機会の提供

再掲 生涯学習指導者活動推進事業

51 成人式事業

52 子ども大学推進事業

53 公民館講座事業

施策4 人権教育の推進

54 人権教育推進事業（生涯学習課所管分）

55 人権教育集会所運営事業

施策5 図書館運営の充実

再掲 図書館資料整備事業

再掲 子どもの読書活動支援センター運営事業

56 ブックスタート事業

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護**施策1 文化芸術活動の推進**

57 文化芸術振興事業

58 美術展覧会事業

59 市民音楽祭事業

施策2 文化財の保護

60 文化財調査・保存事業

61 埋蔵文化財調査事業

62 文化財保護啓発事業

63 歴史資料調査事業

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちた**スポーツ・レクリエーション活動の推進****施策1 スポーツ推進計画の策定****施策2 スポーツ施設の整備・充実**

64 学校施設開放（スポーツ振興）事業

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

65 スポーツ大会・教室等開催事業【再Ⅶ-5】

66 子どもの体力向上地域連携事業

施策4 スポーツ指導者の育成

67 スポーツ活動推進事業

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

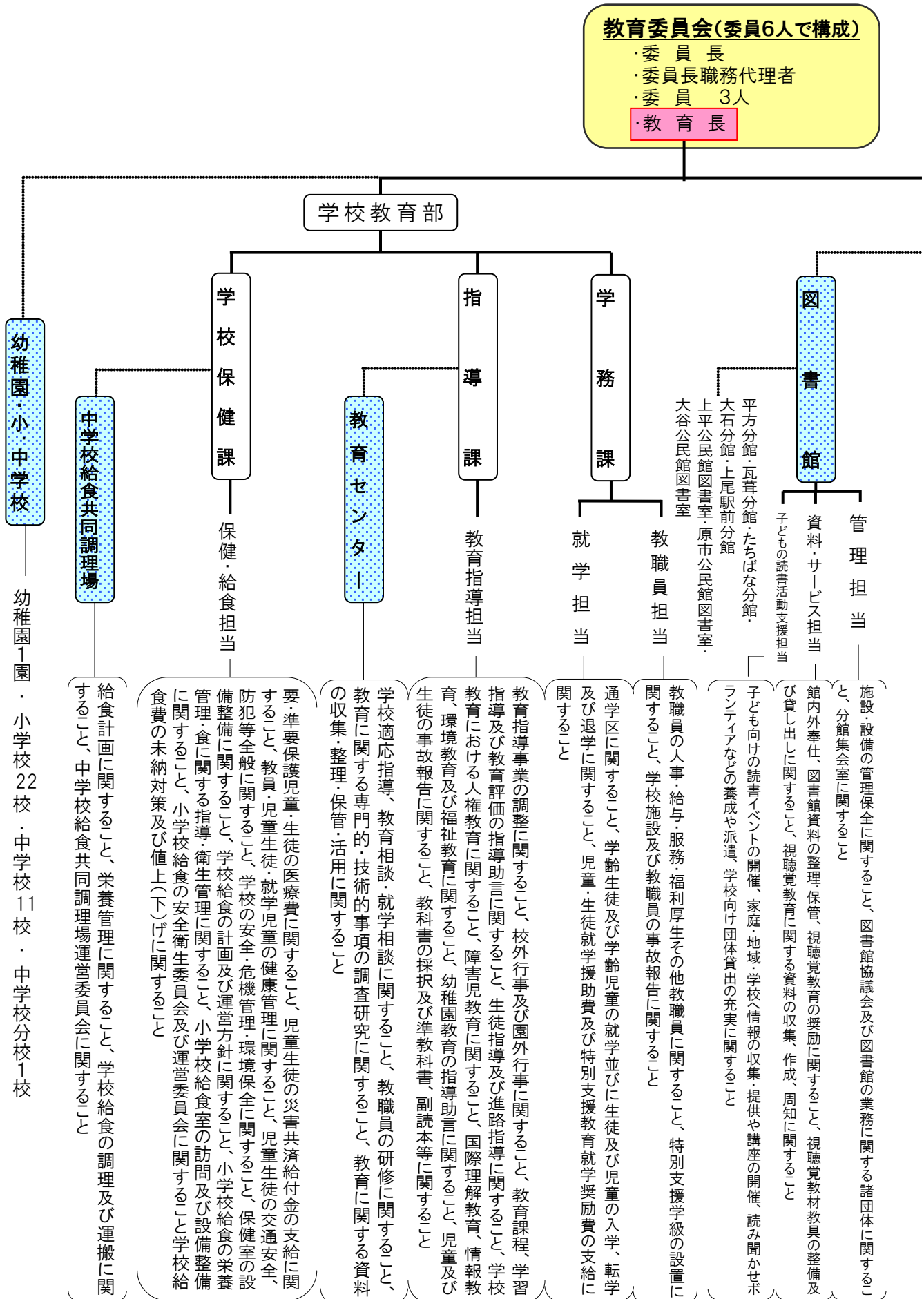
再掲 スポーツ大会・教室等開催事業



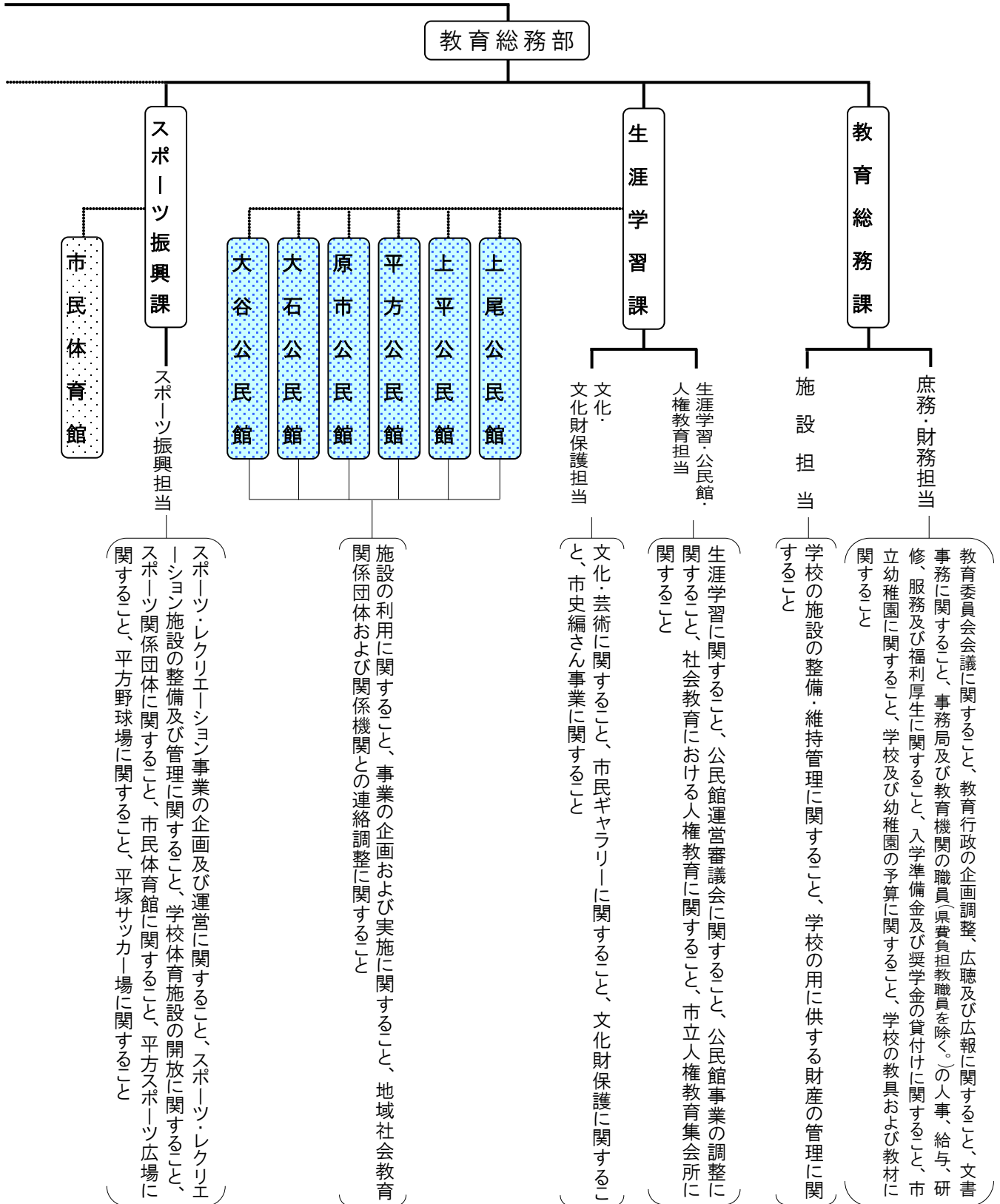
〔平方幼稚園〕

Ⅱ 教育委員会活動

1 教育委員会の組織と事務分掌



○○部○○課 …… 教育委員会事務局の組織
網掛け …… 教育機関
網掛け …… 指定管理施設
() …… 所掌事務
 【平成26年4月1日現在】



2 上尾市教育振興基本計画

(1) 基本計画の策定の趣旨

近年、急速に進む社会の少子高齢化、ICT（情報通信技術）の発達などに見られる高度情報化、さらには社会・経済のグローバル化、環境問題の深刻化などにより社会全体が大きく変化し、また地域では、地域コミュニティの希薄化が進行しています。一方、教育分野においては、子どもたちの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、さらには、社会全体における規範意識や倫理観の低下など、解決すべき多くの課題が指摘されています。



こうした中、平成18年12月、制定から約60年を経て教育基本法が改正されました。この改正教育基本法では、教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえた上で、新しい時代にふさわしい教育の実現のため、「人格の完成」や「個人の尊厳」などの普遍的な理念とともに、新たに達成すべき教育の目標を掲げるなど新しい時代の教育の理念が明確に示されました。

この改正教育基本法に基づき、国は教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育振興基本計画を策定し、また、地方公共団体においては、地域の実情に応じた教育振興基本計画を定めるよう努めなければならないと規定されました。

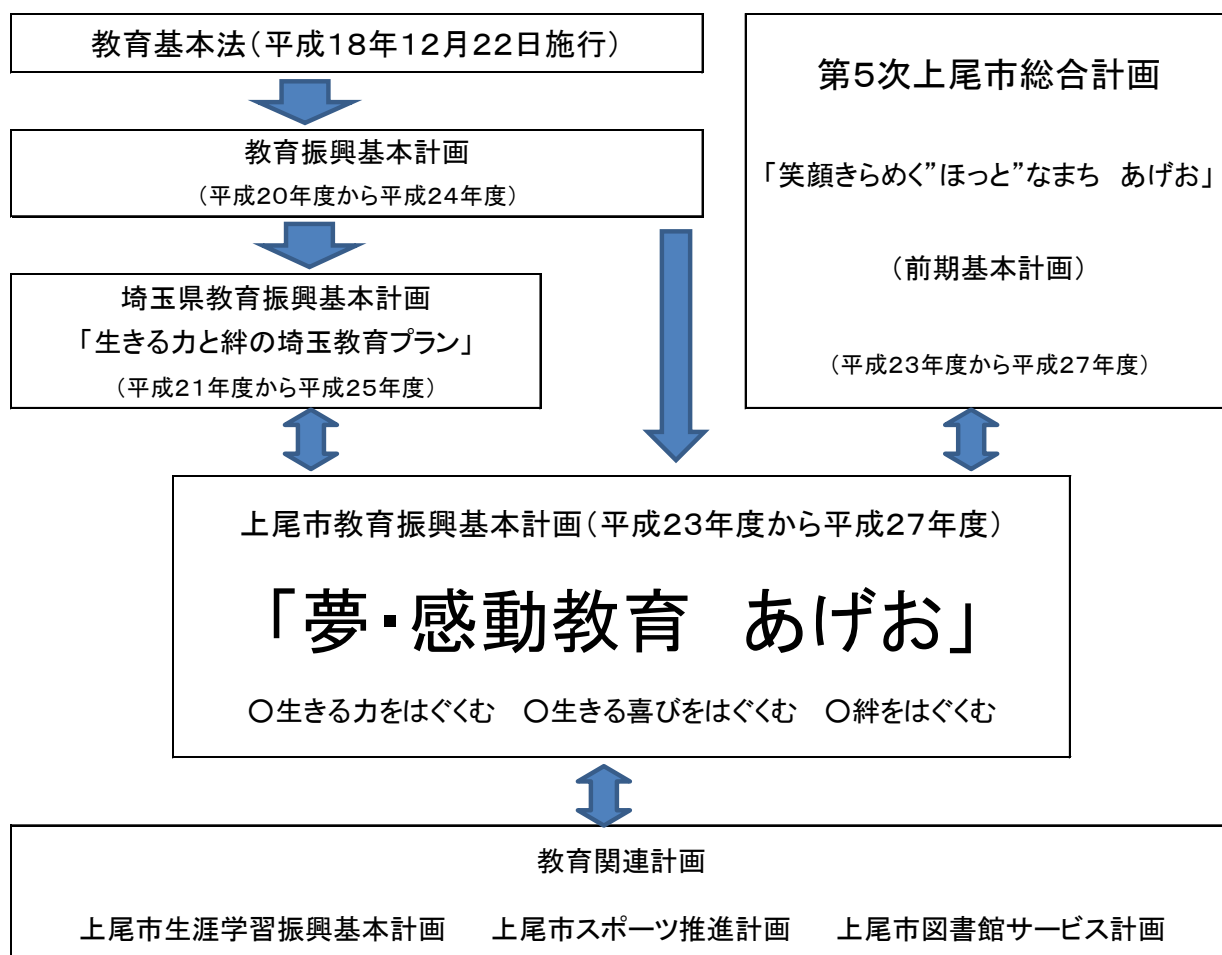
上尾市教育委員会では、これまで「第4次上尾市総合計画」に基づく総合的かつ計画的なまちづくりを進める中で、教育行政に関する施策を展開してきましたが、改正教育基本法の趣旨に鑑み、また、「第5次上尾市総合計画」を踏まえながら、市の教育が目指す理念としては、おおむね10年先を見通し、教育行政に関して中長期的視点から今後5年間に取り組むべき施策の体系をより明確にし、それらをさらに着実に推進していくために、改正教育基本法に基づく教育振興の施策に関する基本的な計画として、平成23年3月、上尾市教育振興基本計画を定めました。



（２）上尾市教育振興基本計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づき、平成20年7月に策定された国の教育振興基本計画（平成20年度から平成24年度）及び平成21年2月に策定された埼玉県教育振興基本計画（平成21年度から平成25年度）を参考にし、市の実情に応じた教育の振興のための施策に関して総合的かつ計画的な推進を図るために定める基本的な計画です。

また、本計画は「第5次上尾市総合計画」に示す上尾市の将来都市像「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」を実現するための教育分野における計画であり、本市の教育関連計画においては、最上位に位置付けられます。そして、平成23年度を初年度とする平成27年度までの5年間の計画として、上尾市教育委員会は、これに基づき年度ごとに重点施策を策定し、事業に取り組みます。



(3) 上尾市における教育の基本的な考え方

📍 基本理念


夢・感動教育 あげお

📍 3つの基本方針

生きる力をはぐくむ
 生きる喜びをはぐくむ
 絆をはぐくむ

📍 7つの基本目標

I 確かな学力と自立する力の育成	V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
II 豊かな心と健やかな体の育成	VI 文化芸術の創造と文化財の保護
III 安心・安全で質の高い学校教育の推進	VII 健康でに活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
IV 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	



●基本理念

上尾市教育振興基本計画では、本市の教育について、おおむね10年先を見通した基本理念を「**夢・感動教育 あげお**」とします。

夢・感動教育 あげお

夢

知・徳・体の調和がとれ、夢や目標・志を持って自己実現を目指す、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践します。

感動

人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践します。

●基本方針

基本理念を踏まえて、施策を実施していくにあたっては、次の3つの基本方針で取り組みます。

生きる力をはぐくむ

新しい学習指導要領が、小学校では平成23年度から、また、中学校では平成24年度から全面実施されます。この中においても、子どもたちの「生きる力」をはぐくむという理念が引き継がれています。

子どもたちを取り巻く社会や環境が激変する時代にあっては、個性を尊重するとともに能力を伸ばし、知・徳・体の調和を図りつつ、公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心などを尊ぶ社会の一員として、たくましく自立するための生きる力をはぐくむことが重要です。

生きる喜びをはぐくむ

多くの市民が、自己の充実・啓発や生活の質向上のため、スポーツや文化芸術活動など多様な学習機会を求めています。

市民一人一人が、いつでも、どこでも学べる環境を整え、誰もが生涯にわたって自己実現が可能な社会、笑顔いっぱいの社会の実現を目指し、生きる喜びをはぐくむことが重要です。

絆をはぐくむ

今日の様々な教育課題を解決するためには、学校や家庭、地域住民、行政はもとより、企業や大学、関係団体やNPOなど社会全体が連携・協働して一体となって取り組むことが必要です。

また、社会全体で連携・協働して教育に取り組むことは、地域学習や体験活動の充実など教育の質を向上させることにもつながります。

教育の振興を図り、郷土愛に満ちた次世代の人づくりやより良い社会づくりのためには、市民一人一人が教育に対する関心を高め、主体的に教育に参画し、すべての市民の絆をはぐくむことが重要です。

●基本目標

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえて、今後5年間（平成23年度～平成27年度）に取り組む教育行政の7つの基本目標を示します。

〔基本目標Ⅰ〕 確かな学力と自立する力の育成

創意工夫を生かして子どもたちの確かな学力を育成するとともに、社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

〔基本目標Ⅱ〕 豊かな心と健やかな体の育成

公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心など子どもたちの豊かな心をはぐくむとともに、いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組めます。

また、健康の保持・増進や体力向上などにより、健やかな体を育成します。

〔基本目標Ⅲ〕 安心・安全で質の高い学校教育の推進

子どもたちの教育環境を整備・充実するとともに、教職員の資質向上を図り、質の高い学校教育を推進します。

また、子どもたちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

〔基本目標Ⅳ〕 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む気運を高め、学校応援団など、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

〔基本目標Ⅴ〕 生涯にわたる豊かな学びのサポート

自己啓発や生活の充実のための学びの環境を整え、生涯にわたる自己実現をサポートします。

〔基本目標Ⅵ〕 文化芸術の創造と文化財の保護

多様な文化芸術活動を支援するとともに、貴重な文化財の保存・活用に取り組めます。

〔基本目標Ⅶ〕 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

生涯にわたり心身ともに健康で活かに満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供に取り組めます。



〔上尾市中学校吹奏楽演奏会（大谷中学校）〕

3 平成25年度 教育行政重点施策

「平成25年度上尾市教育行政重点施策」とは、平成23年度にスタートし、今後5年間で計画期間とした「上尾市教育振興基本計画」に位置付けられた7つの基本目標と施策に沿って、当該計画の実効性をさらに高めるために策定したものです。

市教育委員会では、「夢・感動教育 あげお」を基本理念とした当該計画とともに、本市教育の振興・充実に努めます。

〔基本目標Ⅰ〕 確かな学力と自立する力の育成

児童生徒の生きる力をはぐくむため、アップスマイルサポーターや中学1年生におけるアップスマイル教員の配置を行い、個々の児童生徒へのきめ細かな支援を推進するとともに、年間授業日数を5日間増加させ、充実した教育活動を行い、「確かな学力」を育成します。

また、今後さらに進展する国際化・情報化、科学技術の高度化などの社会の変化に対応するため、外国語指導助手(A L T)の配置による外国語活動・英語学習のより一層の質の向上を図り、学校ICT化の推進に取り組むとともに、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育てます。

特別支援教育については、すべての児童生徒が、障害の有無にかかわらず、ともに学ぶ機会を保障し、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進し、「多様な学びの場」として、通常学級、通級指導教室及び特別支援学級における教育の充実を図ります。

幼児期の教育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼保小の連携を図りつつ、幼児教育の質の向上に取り組むとともに、すべての子どもが質の高い幼児教育を受けられるよう保護者の経済的負担の軽減等の取組を通じて、幼児教育の振興を図る幼稚園への就園奨励に取り組めます。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- ① 確かな学力の定着と学力向上の推進 ③ 魅力ある学校づくりの推進
② アップスマイル教員の配置(中学校1年生35人学級の実施)

■主要事業

- さわやかスクールサポート事業(学級支援)(80,990千円) ○魅力ある学校づくり事業(6,814千円)
○理科教育振興事業(171千円) ○学力向上支援事業(7,553千円)
○教育に関する3つの達成目標推進事業(510千円)

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- ① 国際理解教育の推進 ③ 環境教育の推進
② ICT機器の活用と情報教育の推進 ④ 伝統文化に親しむ教育の推進

■主要事業

- 日本語指導職員派遣事業(2,981千円) ○中学生海外派遣研修事業(11,314千円)
○準教科書・副読本整備事業(14,594千円) ○小中学校ALT配置事業(104,900千円)
○英語弁論暗唱大会開催事業(61千円) ○緑のカーテン整備事業(600千円)

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- ① 進路指導・キャリア教育の推進 ② 進路指導体制の充実 ③ 異校種間の連携

■主要事業

- 中学生社会体験チャレンジ事業(651千円) ○中学生進路意識啓発事業(116千円)

施策4 特別支援教育の推進

- ① 特別支援教育体制の充実 ② ニーズに応じた支援の推進 ③ 交流及び共同学習の推進

■主要事業

- 特別支援学級補助員派遣事業(16,635千円) ○特別支援教育推進事業(254千円)
-
- (再掲)さわやかスクールサポート事業(学級支援)(80,990千円)

施策5 幼児教育の推進

- ① 保護者の経済的負担の軽減 ② 私立幼稚園への支援 ③ 市立幼稚園の適切な管理運営

■主要事業

- 幼稚園管理運営事業(4,115千円) ○私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業(68,136千円)
-
- 幼稚園就園奨励費補助事業(314,673千円) ○私立幼稚園委託事務補助事業(18,270千円)

〔基本目標Ⅱ〕 豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心をはぐくむため、道徳教育、人権教育、読書環境、体験活動を充実するとともに、アピースマイル学校図書館支援員を配置し、読書活動の一層の推進を図ります。

また、いじめや不登校など今日的な教育課題に対応するため、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を一層強化し、家庭・地域と一体となった生徒指導を推進するとともに、支援員や相談員を配置し、教職員と児童生徒の信頼関係を深め、児童生徒の心を支える教育相談を充実するなど積極的に学校をサポートします。

さらに、いじめ専用相談ダイヤルを設置し、児童生徒・保護者等の緊急相談等に対応し、いじめの早期解消を図ります。また、学校生活に関する児童生徒向けアンケート調査を行い、児童生徒個々の状況を的確に把握するとともに、教職員を対象とした専門的な研修を実施し、いじめの根絶を図ります。

学校保健活動や食育の充実、安心・安全な給食の提供に努めるとともに、児童生徒の体力向上に向けた取組を積極的に推進し、健やかな体を育成します。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 豊かな心の育成

- ① 道徳教育の充実 ④ 読書環境の充実と読書活動の推進
-
- ② 特別活動・部活動の充実 ⑤ ボランティア・福祉教育の充実
-
- ③ 体験活動の充実 ⑥ 幼・保・小連携の取組の推進

■主要事業

- 学習支援事業(214千円) ○(再掲)準教科書・副読本整備事業(14,594千円)
-
- さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)(18,139千円) ○指導法改善事業(15,533千円)
-
- 小中学校音楽会開催事業(919千円) ○中学校部活動支援事業(3,099千円)
-
- (再掲)教育に関する3つの達成目標推進事業(510千円) ○中学校吹奏楽演奏会開催事業(336千円)
-
- 小学校図書整備事業(16,369千円) ○中学校図書整備事業(11,976千円)
-
- 図書館資料整備事業(33,704千円) ○子どもの読書活動支援センター運営事業(8,408千円)

施策2 生徒指導の充実

- ① 生徒指導体制の充実 ③ いじめ・暴力行為防止対策の推進
-
- ② 総合的な不登校対策の推進 ④ 非行・問題行動防止対策の推進

■主要事業

- 生徒指導推進事業(4,684千円) ○【新規】いじめ根絶対策事業(防止事業)(6,335千円)
-
- さわやか相談室運営事業(17,882千円) ○【新規】いじめ根絶対策事業(相談事業)(732千円)

施策3 人権教育の推進

- ① 人権教育推進体制の充実 ③ 人権教育研修の充実
② 人権感覚育成プログラムの普及・活用 ④ 啓発活動の推進

■主要事業

- 人権教育推進事業(1,470 千円)

施策4 学校教育相談の充実

- ① 教育相談体制の充実 ③ 就学相談の充実
② 学校適応指導教室の充実 ④ 学校・教育センターの連携推進

■主要事業

- 教育センター管理運営事業(456 千円)
○不登校児童生徒の学校適応指導事業(4,671 千円)
○(再掲)【新規】いじめ根絶対策事業(防止事業)(6,335 千円)
○(再掲)【新規】いじめ根絶対策事業(相談事業)(732 千円)
○教育相談事業(11,502 千円)

施策5 学校保健の充実

- ① 保健教育の推進 ② 保健管理の推進 ③ 学校保健組織活動の推進

■主要事業

- 幼稚園環境衛生検査及び健康診断事業(364 千円) ○学校環境衛生検査事業(15,131 千円)
○学校健康診断及び健康管理事業(86,598 千円) ○保健室管理運営事業(5,027 千円)

施策6 食育の推進・学校給食の充実

- ① 食に関する指導の充実 ② 学校給食の充実 ③ 学校給食の衛生管理の徹底

■主要事業

- 小学校給食調理支援事業(115,818 千円) ○調理場備品等整備事業(45,923 千円)
○小学校給食室設備整備事業(38,840 千円) ○調理業務委託事業(197,400 千円)
○小学校給食食器更新事業(3,183 千円) ○献立作成事業(375 千円)
○小学校給食管理運営事業(36,670 千円) ○中学校給食共同調理場管理運営事業(64,501 千円)
○小学校給食室衛生管理推進事業(19,826 千円)

施策7 児童生徒の体力向上

- ① 体力向上の推進 ② 体育的行事・部活動の充実 ③ 体育・部活動支援の充実

■主要事業

- (再掲)中学校部活動支援事業(3,099 千円) ○(再掲)魅力ある学校づくり事業(6,814 千円)
○中学校全国・関東大会等補助事業(1,552 千円) ○児童生徒体力向上推進事業(3,744 千円)
○(再掲)教育に関する3つの達成目標推進事業(510 千円)

〔基本目標Ⅲ〕 安心・安全で質の高い学校教育の推進

様々な課題に対応し、質の高い教育を実現するため、学校経営の改善・充実や教職員の資質の向上に努めるとともに、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指して、教育課程を編成し、指導法の改善に積極的に取り組みます。

また、平成24年3月に改訂した学校安全マニュアル（防災編）を基にした安全管理・安全教育の充実、中央小学校の改築や耐震補強工事の実施、学校安全パトロールカー事業などのほか、通学路の安全対策の実施により児童生徒を災害・犯罪から守るための安全対策を講じるとともに、小学校、中学校の快適な学校環境整備を行います。

さらに、小・中学校への電子黒板の整備や学校ICT活用研修会、授業研究会の実施などにより、学校ICTを積極的に活用した教育を推進します。

また、経済的理由で、進学や就学が困難な世帯に貸し付けや就学援助費補助等を行うことにより、誰もが質の高い学校教育を受けられるよう支援します。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 教職員の資質・能力の向上

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ① 教職員の事故防止の徹底とサービスの厳正 | ④ 指導法研究の充実 |
| ② 教職員のライフステージに応じた研修の充実 | ⑤ 教職員の健康管理・メンタルヘルスの推進 |
| ③ 効果的な人事評価の推進 | ⑥ 教師力アップ講座の実施 |

■主要事業

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ○市費学校職員健康診断事業(443千円) | ○(再掲)指導法改善事業(15,533千円) |
| ○代替臨時教職員派遣事業(2,910千円) | ○教職員健康管理事業(16,175千円) |

施策2 学校経営の改善・充実

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 学校評価の実施・公表 | ④ 学校評議員制度の活用 |
| ② 地域の実態と学校規模に応じた教育活動の推進 | ⑤ 特色ある学校づくりの推進 |
| ③ 適切な教育課程の編成・実施・評価 | |

■主要事業

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| ○通学区域検討事業(255千円) | ○(再掲)指導法改善事業(15,533千円) |
| ○通学区見直し区域登下校サポート事業(7,138千円) | ○(再掲)魅力ある学校づくり事業(6,814千円) |
| ○教育関係団体振興推進事業(1,809千円) | ○元気な学校をつくる地域連携推進事業(438千円) |
| ○学校評議員制度運営事業(592千円) | |

施策3 学校施設・設備の整備・充実

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 校舎耐震化の推進 | ③ 老朽校舎の大規模改修と維持・保全 |
| ② 快適な学校環境の整備 | ④ 学校図書館図書・教材の整備・充実 |

■主要事業

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| ○学校環境美化等業務委託事業(43,818千円) | ○小学校校舎改築事業(587,996千円) |
| ○学校事務非常勤職員配置事業(37,313千円) | ○中学校管理運営事業(363,451千円) |
| ○(再掲)準教科書・副読本整備事業(14,594千円) | ○(再掲)中学校図書整備事業(11,976千円) |
| ○小学校管理運営事業(633,067千円) | ○中学校教育教材整備事業(11,153千円) |
| ○(再掲)小学校図書整備事業(16,369千円) | ○中学校校舎改築事業(111,699千円) |
| ○小学校教育教材整備事業(16,946千円) | |

施策4 学校のICT化の推進

- | | |
|------------|----------------|
| ① ICT環境の整備 | ② 教職員のICT研修の充実 |
|------------|----------------|

■主要事業

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ○(再掲)指導法改善事業(15,533千円) | ○中学校コンピュータ整備事業(49,318千円) |
| ○小学校コンピュータ整備事業(97,223千円) | ○中学校電子黒板整備事業(1,320千円) |
| ○小学校電子黒板整備事業(3,960千円) | |

施策5 学校安全の推進

- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 生活安全・防犯教育の推進 | ④ 学校安全管理の徹底 |
| ② 交通安全教育の推進 | ⑤ 学校安全パトロールカー事業の推進 |
| ③ 防災教育の推進 | |

■主要事業

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| ○児童生徒安全推進事業(25,206千円) | ○ 新規 通学路安全対策事業(8,488千円) |
| ○学校安全パトロールカー事業(3,333千円) | |

施策6 就学支援の充実

- | | |
|------------|------------|
| ① 進学に対する支援 | ② 就学に対する援助 |
|------------|------------|

■主要事業

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ○入学準備金・奨学金貸付事業(8,406千円) | ○中学校就学援助費補助事業(34,414千円) |
| ○(再掲)日本語指導職員派遣事業(2,981千円) | ○中学校特別支援教育就学奨励事業(3,347千円) |
| ○外国人学校児童生徒保護者補助事業(732千円) | ○要保護児童生徒医療費援助事業(285千円) |
| ○小学校就学援助費補助事業(20,904千円) | ○準要保護児童生徒給食費援助事業(74,545千円) |
| ○小学校特別支援教育就学奨励事業(3,105千円) | |

〔基本目標Ⅳ〕 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む機運を高め、学校応援団の活動をはじめ、上尾市教育月間、学校ファームなどの取組をとおして、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てる教育を充実します。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

- | | |
|----------------|----------------------|
| ① 学校応援団活動の充実 | ③ 学校・家庭・地域・関係機関の連携推進 |
| ② PTA活動の活性化の推進 | |

■主要事業

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ○(再掲)元気な学校をつくる地域連携推進事業(438千円) | ○社会教育団体等補助事業(1,997千円) |
|-------------------------------|-----------------------|

施策2 家庭教育の充実

- | | |
|--------------|----------|
| ①家庭教育推進活動の実施 | ②親の学習の推進 |
|--------------|----------|

■主要事業

- | |
|------------------|
| ○家庭教育推進事業(493千円) |
|------------------|

〔基本目標Ⅴ〕 生涯にわたる豊かな学びのサポート

いつでも、どこでも、自分が学びたいときに学べる体制を整備しながら、自己実現と地域参加を積極的に支援します。また、市民一人一人が人権を尊重し合う社会を実現するための施策を推進します。

図書館は、生涯学習の基盤施設として、暮らしに役立つ情報提供サービスの充実を図り、市民の生活をサポートします。

また、平成24年7月に開設した「子どもの読書活動支援センター」では、上尾市のすべての子どもを本好きにするために、読み聞かせやブックスタート事業などに取り組みます。さらに、学校・家庭・地域への情報の収集・提供等を行い、連携を強化する中で子どもの読書活動を推進します。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 生涯学習体制の充実

- ① 生涯学習振興基本計画の推進 ③ 学習グループの支援
② 生涯学習・社会教育情報の収集・提供 ④ 社会教育団体活動の支援

■主要事業

- 生涯学習指導者活動推進事業(1,300千円) ○(再掲)社会教育団体等補助事業(1,997千円)

施策2 生涯学習施設の整備

- ① 公民館の整備と管理運営 ② 学校施設開放事業の充実

■主要事業

- 学校施設開放(生涯学習)事業(2,064千円) ○公民館管理運営事業(264,855千円)

施策3 生涯学習機会の提供

- ① 公民館活動の充実 ② 多様な学習機会の提供

■主要事業

- (再掲)生涯学習指導者活動推進事業(1,300千円) ○生涯学習フェア・民俗芸能公演事業(2,742千円)
○成人式事業(1,170千円) ○公民館講座事業(3,649千円)
○子ども大学推進事業(60千円)

施策4 人権教育の推進

- ① 人権教育・啓発活動の推進 ③ 人権教育集会所の整備と管理運営
② 人権教育集会所活動の推進

■主要事業

- 人権教育推進事業(1,260千円) ○人権教育集会所管理事業(12,733千円)
○人権教育集会所運営事業(2,024千円)

施策5 図書館運営の充実

- ① 図書館資料の整備・充実 ③ 図書館施設の整備・充実
② 図書館サービスの充実 ④ 子どもの読書活動支援センターの推進・充実

■主要事業

- 図書館運営事業(153,692千円) ○視聴覚ライブラリー事業(3,685千円)
○図書館施設管理事業(28,517千円) ○(再掲)子どもの読書活動支援センター運営事業(8,408千円)
○(再掲)図書館資料整備事業(33,704千円) ○ブックスタート事業(2,701千円)

〔基本目標Ⅵ〕 文化芸術の創造と文化財の保護

広く市民に芸術活動の発表の場として利用されている市民ギャラリーの運営や、市美術展覧会や市民音楽祭の開催など、市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援し、市民が豊かな文化を享受し、発信ができるような環境づくりを行います。

また、伝統文化の継承、文化財の保存管理に努め、収集・整理を進め、学習活動を支援する環境を整えるために、古文書整理事業などにも取り組みます。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 文化芸術活動の推進

- ① 文化芸術活動の支援
- ② 新しい文化芸術を創造する活動の支援
- ③ 市民ギャラリーの運営・充実

■主要事業

- 文化芸術振興事業(2,137 千円)
- 美術展覧会事業(1,390 千円)
- 市民音楽祭事業(547 千円)
- 市民ギャラリー管理運営事業(20,560 千円)

施策2 文化財の保護

- ① 文化財の指定・登録と保存・管理
- ② 埋蔵文化財の保護
- ③ 無形民俗文化財の継承支援
- ④ 文化財の保存・活用
- ⑤ 歴史資料の収集・整理と保存・活用

■主要事業

- 文化財調査・保存事業(2,709 千円)
- 埋蔵文化財調査事業 (3,900 千円)
- 文化財保護啓発事業 (279 千円)
- 歴史資料調査事業(2,807 千円)
- 市史担当分室及び資料室維持管理事業(109 千円)

〔基本目標Ⅶ〕 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

スポーツ施設の整備・充実に努めるとともに、市民の継続的な生涯スポーツ活動の要となる団体や指導者・リーダーの育成、スポーツイベントやスポーツ推進委員を中心とした地域スポーツ活動の充実など、各種施策を推進するとともに、これらを体系的・計画的に推進していくために、上尾市スポーツ推進計画を策定します。

新たに、大学やスポーツ推進委員と連携した子どもの体力向上地域連携事業を実施し、今年度は子どもたちの体力を調査し、地域や家庭でもできる、体力向上に向けた事業に取り組みます。

また、市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点となる上尾市民体育館については、平成25年4月のリニューアルオープンに合わせ、指定管理者による管理運営を図り、利用者サービスの向上を図ります。

(施策と重点的な取組)

()内は当初予算額

施策1 スポーツ推進計画の策定

- ① スポーツ推進計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

- ① スポーツ施設の整備と管理運営 ② 学校体育施設の開放と設備の充実

■主要事業

- 学校施設開放(スポーツ振興)事業(4,357 千円) ○市民体育館管理運営事業(61,797 千円)
○屋外スポーツ施設管理事業(19,526 千円)

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

- ① スポーツ・レクリエーション大会の充実 ② スポーツ・レクリエーション教室の充実

■主要事業

- スポーツ大会・教室等開催事業 (19,116 千円) ○**【新規】** 子どもの体力向上地域連携事業(306 千円)

施策4 スポーツ指導者の育成

- ① スポーツ推進委員活動の充実 ② スポーツ指導者の育成・活用

■主要事業

- スポーツ活動推進事業(4,795 千円)

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

- ① スポーツ・レクリエーション団体の育成・支援 ② 総合型地域スポーツクラブの支援

■主要事業

- (再掲)スポーツ大会・教室等開催事業 (19,116 千円)

4 上尾市教育委員会の活動

(1) 平成25年度 教育委員会会議の開催状況

定例会・臨時会	開催日時		場 所	出席 委員数
平成25年 4月定例会	平成25年4月19日(金)	16:05～17:03	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 5月定例会	平成25年5月23日(木)	13:32～14:54	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 6月定例会	平成25年6月27日(木)	14:01～15:10	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 7月定例会	平成25年7月25日(木)	14:01～14:49	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 8月定例会	平成25年8月22日(木)	15:32～16:58	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 9月定例会	平成25年9月26日(木)	14:04～15:30	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 第2回臨時会	平成25年10月15日(火)	15:52～16:03	上尾市立 西小学校	5人
平成25年 10月定例会	平成25年10月24日(木)	10:00～10:46	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 11月定例会	平成25年11月28日(木)	14:02～14:42	上尾市役所 教育委員室	6人
平成25年 12月定例会	平成25年12月26日(木)	11:02～11:51	上尾市役所 教育委員室	6人
平成26年 1月定例会	平成26年1月30日(木)	15:30～17:03	上尾市役所 大会議室	5人
平成26年 2月定例会	平成26年2月20日(木)	14:09～15:55	上尾市役所 教育委員室	6人
平成26年 第1回臨時会	平成26年3月24日(月)	14:00～14:13	上尾市役所 教育委員室	6人
平成26年 3月定例会	平成26年3月27日(木)	14:00～15:15	上尾市役所 教育委員室	6人

(2) 平成25年度 教育委員会議決案件

議案番号	議 案 名	採決 結果	議決番号	議決 年月日
議案第15号	上尾市公民館運営審議会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第15号	平成25年 5月23日
議案第16号	上尾市図書館協議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第16号	
議案第17号	上尾市スポーツ推進審議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第17号	
議案第18号	上尾市立中学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第18号	

議案番号	議案名	採決結果	議決番号	議決年月日
議案第19号	平成25年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第19号	
議案第20号	工事請負契約の締結に係る意見の申出について（中央小学校北校舎）	全員一致 原案可決	議決第20号	
議案第21号	工事請負契約の締結に係る意見の申出について（中央小学校南校舎）	全員一致 原案可決	議決第21号	
議案第22号	上尾市社会教育委員の委嘱・任命について	全員一致 原案可決	議決第22号	平成25年 6月27日
議案第23号	上尾市立人権教育集会所運営委員会委員の委嘱・任命について	全員一致 原案可決	議決第23号	
議案第24号	上尾市図書館協議会委員の委嘱・任命について	全員一致 原案可決	議決第24号	平成25年 7月25日
議案第25号	平成24年度上尾市一般会計歳入歳出決算の認定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第25号	平成25年 8月22日
議案第26号	平成26年度当初教職員人事異動の方針について	全員一致 原案可決	議決第26号	平成25年 9月26日
議案第27号	平成25年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	全員一致 原案可決	議決第27号	
議案第28号	県費負担教職員の人事について	全員一致 原案可決	議決第28号	平成25年 10月15日
議案第29号	上尾市民ギャラリー条例の一部を改正する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第30号	平成25年 10月24日
議案第30号	上尾市立小・中学校通学区に関する規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第29号	
議案第31号	平成26年度当初給食調理員及び用務員人事異動方針について	全員一致 原案可決	議決第31号	平成25年 11月28日
議案第32号	平成25年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に係る報告書の提出について	全員一致 原案可決	議決第32号	
議案第33号	平成25年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第33号	
議案第34号	平成26年度以降の小・中学校給食費の改定について	全員一致 原案可決	議決第34号	平成25年 12月26日
議案第1号	上尾市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第3号	平成26年 1月30日
議案第2号	上尾市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第4号	
議案第3号	上尾市生涯学習推進市民会議条例を廃止する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第5号	

議案番号	議案名	採決結果	議決番号	議決年月日
議案第4号	スポーツ推進審議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第1号	
議案第5号	上尾市民ギャラリー管理規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第2号	
議案第6号	平成26年度当初教職員人事異動に係る内申について	全員一致 原案可決	議決第11号	平成26年 2月20日
議案第7号	平成25年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第9号	
議案第8号	平成26年度上尾市一般会計予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第10号	
議案第9号	上尾市社会教育指導員設置規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第6号	
議案第10号	上尾市スポーツ推進計画の策定について	全員一致 原案可決	議決第7号	
議案第11号	上尾市いじめの防止等のための基本的な方針案の策定について	全員一致 原案可決	議決第8号	
議案第12号	教育委員会事務局及び教育機関の職員の人事異動について	全員一致 原案可決	議決第12号	平成26年 3月24日
議案第13号	平成26年度上尾市教育行政重点施策の策定について	全員一致 原案可決	議決第13号	平成26年 3月27日
議案第14号	上尾市教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第14号	
議案第15号	上尾市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第15号	
議案第16号	上尾市文化財調査専門員設置規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第16号	
議案第17号	上尾市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第17号	
議案第18号	上尾市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第18号	
議案第19号	上尾市立小・中学校使用教科用図書採択に関する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第19号	
議案第20号	上尾市スクールソーシャルワーカー設置規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第20号	
議案第21号	上尾市教育相談員、学校適応指導教室指導員等設置規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第21号	
議案第22号	上尾市教育委員会の権限に属する事務の決裁に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	全員一致 原案可決	議決第22号	
議案第23号	上尾市文化財保護審議会委員の委嘱について	全員一致 原案可決	議決第23号	

(3) 平成25年度教育委員会委員の主な活動

月日	件名	場所
4月1日	小・中学校新採用・転入教職員等着任式	上尾小学校
4月5日	上尾市学校評議員委嘱式及び研修会	上尾市文化センター
4月8日	小・中学校入学式	市内小・中学校
4月19日	教育委員会4月定例会	上尾市役所
4月26日	上尾・桶川・伊奈教育委員会連絡協議会総会	上尾市役所
5月8日	埼玉県南部地区教育委員会連合会理事会・総会	川口市フレンドシア
5月23日	教育委員会5月定例会	上尾市役所
5月25・26日	上尾市立小学校運動会	市内各小学校
5月28日	埼玉縣市町村教育委員会連合会総会	秩父ミュージックパーク
5月31日	関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会	つくば国際会議場
6月1日	上尾市立中学校体育祭	上尾中学校
6月3日	埼玉縣市町村教育委員会教育委員研究協議会	さいたま商工会議所
6月27日	教育委員会6月定例会	上尾市役所
7月4日	上尾・桶川・伊奈教育委員会連絡協議会視察研修	東京都杉並区 ゆう杉並
7月23日	上尾市中学校吹奏楽演奏会	上尾市文化センター
7月25日	教育委員会7月定例会	上尾市役所
8月9日	中央小学校内覧会	中央小学校
8月22日	教育委員会8月定例会	上尾市役所
9月21日	中学校体育祭	市内各中学校
9月26日	教育委員会9月定例会	上尾市役所
9月14・18・22・28・29日	小学校運動会	市内各小学校
10月6日	平方幼稚園運動会	平方幼稚園
10月12日	東中学校向原分校体育祭	向原分校
10月13日	上尾市民体育祭	上尾運動公園
10月15日	西小学校委嘱研究発表、教育委員会第2回臨時会	西小学校
10月18日	西中学校委嘱研究発表	西中学校
10月23日	上尾市小学校連合運動会	上尾運動公園
10月24日	教育委員会10月定例会	上尾市役所
10月29日	平方小学校委嘱研究発表	平方小学校
10月31日	大石南中学校委嘱研究発表	大石南中学校
11月5日	平方北小学校委嘱研究発表	平方北小学校
11月13日	上尾市立小・中学校音楽会	上尾市文化センター
11月15日	上尾中学校委嘱研究発表	上尾中学校
11月17日	上尾シティマラソン	上尾運動公園
11月20日	原市中学校委嘱研究発表	原市中学校
11月28日	教育委員会11月定例会	上尾市役所
12月26日	教育懇談会、教育委員会12月定例会	上尾市役所
1月5日	新春懇談会	上尾市文化センター

月日	件名	場所
1月6日	教育委員会年頭式	上尾公民館
1月12日	成人式	上尾市文化センター
1月24日	上平小学校委嘱研究発表	上平小学校
1月28日	大石北小学校委嘱研究発表	大石北小学校
1月30日	教育委員会1月定例会	上尾市役所
2月5日	原市小学校委嘱研究発表	原市小学校
2月9日	上尾市民駅伝競走大会	上尾運動公園
2月19日	埼玉県教育長賞受賞給食試食会、東小学校委嘱研究発表	大石小学校、東小学校
2月20日	教育委員会2月定例会	上尾市役所
3月14日	中学校卒業証書授与式	市内各中学校
3月16日	中央小学校竣工式	中央小学校
3月24日	小学校卒業証書授与式、第1回教育委員会臨時会	市内各小学校、上尾市役所
3月27日	教育委員会3月定例会	上尾市役所



〔小・中学校新採用・転入教職員等着任式〕



〔埼玉県教育長賞受賞給食試食会(大石小学校)〕



〔教育委員会定例会〕



〔西小学校委嘱研究発表〕

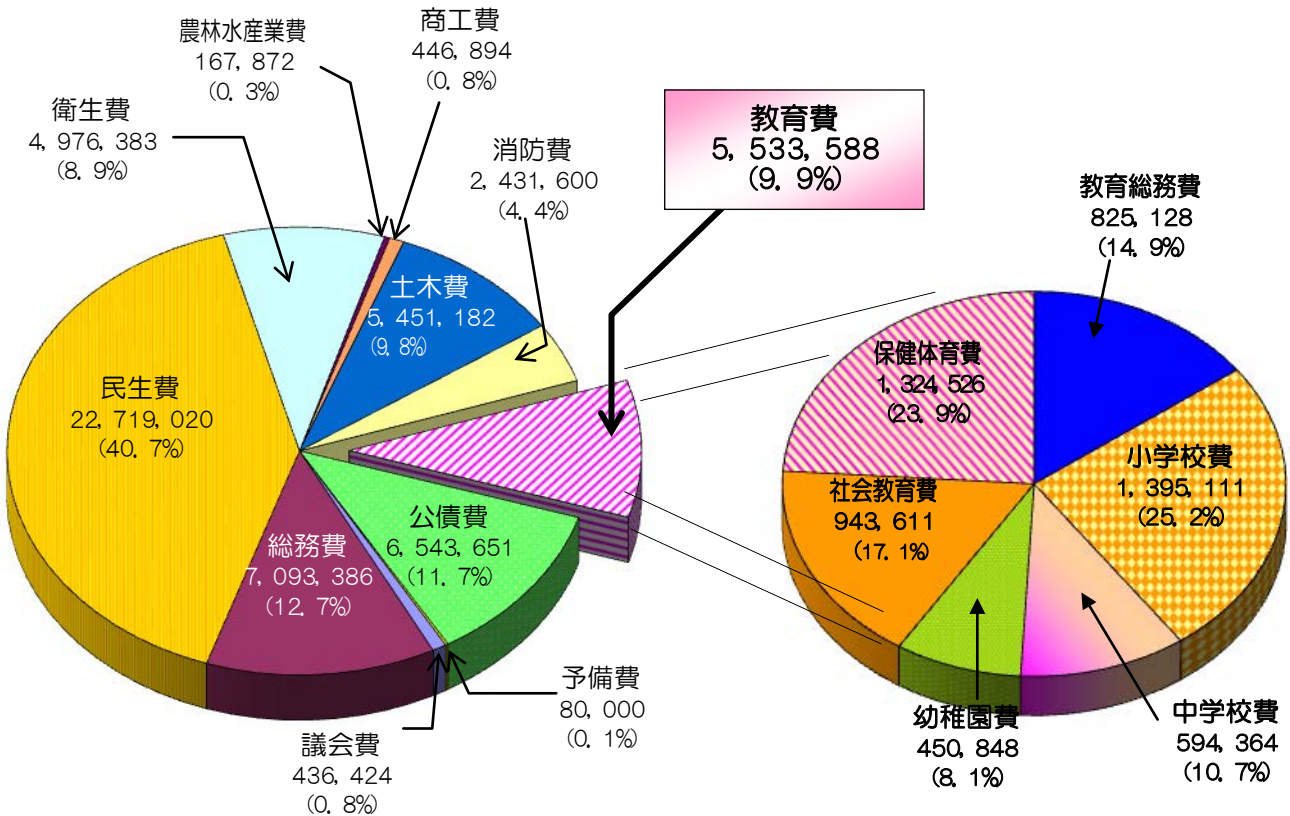


〔大石小学校〕

5 平成25年度 教育費予算額

平成25年度 上尾市一般会計予算（当初）

[単位：千円]



(1) 平成25年度 上尾市一般会計歳出予算（当初）【目的別】

(単位：千円)

	平成25年度		平成24年度		比較増減 (C) [(A)-(B)]	増減率 [(C)/(B)*100]
	予算額 (A)	構成比(%)	予算額 (B)	構成比(%)		
議会費	436,424	0.8	452,246	0.8	▲15,822	▲3.5
総務費	7,093,386	12.7	7,053,532	12.5	39,854	0.6
民生費	22,719,020	40.7	22,357,657	39.8	361,363	1.6
衛生費	4,976,383	8.9	5,568,121	9.9	▲591,738	▲10.6
農林水産業費	167,872	0.3	173,496	0.3	▲5,624	▲3.2
商工費	446,894	0.8	458,101	0.8	▲11,207	▲2.4
土木費	5,451,182	9.8	5,537,697	9.9	▲86,515	▲1.6
消防費	2,431,600	4.3	2,358,772	4.2	72,828	3.1
教育費	5,533,588	9.9	5,495,294	9.8	38,294	0.7
公債費	6,543,651	11.7	6,675,084	11.9	▲131,433	▲2.0
予備費	80,000	0.1	80,000	0.1	0	0.0
合計	55,880,000	100.0	56,210,000	100.0	▲330,000	▲0.6

(2) 平成25年度 教育費歳出予算内訳 (当初)

(単位:千円)

	平成25年度	平成24年度	比較増減	対前年度比
○教育総務費	825,128	842,976	▲ 17,848	▲ 2.12
教育委員会費	4,768	4,749	19	0.40
事務局費	465,395	474,380	▲ 8,985	▲ 1.89
教育指導費	319,225	328,817	▲ 9,592	▲ 2.92
教育センター運営費	35,740	35,030	710	2.03
○小学校費	1,395,111	1,047,709	347,402	33.16
学校管理費	745,831	740,973	4,858	0.66
教育振興費	61,284	71,779	▲ 10,495	▲ 14.62
学校建設費	587,996	234,957	353,039	150.26
○中学校費	594,364	515,334	79,030	15.34
学校管理費	420,455	410,505	9,950	2.42
教育振興費	62,210	67,204	▲ 4,994	▲ 7.43
学校建設費	111,699	37,625	74,074	196.87
○幼稚園費	450,848	425,140	25,708	6.05
幼稚園費	450,848	425,140	25,708	6.05
○社会教育費	943,611	777,617	165,994	21.35
社会教育総務費	134,360	140,137	▲ 5,777	▲ 4.12
公民館費	408,993	208,361	200,632	96.29
図書館費	364,446	365,155	▲ 709	▲ 0.19
子どもの読書活動推進費	11,109	6,975	4,134	59.27
集会所運営費	14,757	13,091	1,666	12.73
文化財保護費	7,030	10,515	▲ 3,485	▲ 33.14
市史編さん費	2,916	33,383	▲ 30,467	▲ 91.27
○保健体育費	1,324,526	1,886,518	▲ 561,992	▲ 29.79
保健体育総務費	314,808	324,135	▲ 9,327	▲ 2.88
学校給食費	590,995	580,227	10,768	1.86
共同調理場運営費	308,199	301,933	6,266	2.08
社会体育費	29,201	26,529	2,672	10.07
スポーツ施設費	81,323	653,694	▲ 572,371	▲ 87.56
合 計	5,533,588	5,495,294	38,294	0.70

(3) 平成25年度 教育予算主要事業概要 [★印は新規事業]

教育総務費

○教育指導費

きめ細かな学習指導を展開するため、引き続きさわやかスクールサポート事業に係る経費を計上している。また、小中学校にエアコンが整備されたことも踏まえ、充実した教育活動を実施するため新たに年間授業日数を5日間増加するほか、いじめを根絶するための事業に係る経費を計上している。 (単位:千円)

事業名 (★印は新規事業)	平成25年度 予算額	平成24年度 予算額
★新規★ 充実した教育活動の実施 (小中学校における夏季休業日を5日間短縮)	4,854 ※該当事業予算の集計額	—
さわやかスクールサポート事業(学級支援) (アップスマイルサポーター70人など)	80,990	80,080
さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援) (小学校に週5日全校配置など)	18,139	18,139
中学生海外派遣研修事業	11,314	8,935
小中学校ALT配置事業(小中学校に全校配置)	104,900	104,900
★新規★ いじめ根絶対策事業(防止事業) (教員研修、児童生徒アンケートの実施)	6,335	—

〔中学生海外派遣研修〕



〔魅力ある学校づくり事業〕



〔いじめ中学生サミット〕



〔ALT参加授業の様子〕

〔小・中学校音楽会〕



〔中学校吹奏楽演奏会〕



○教育センター運営費

教育相談・不登校児童生徒の学校適応指導などに係る経費のほか、新たにいじめを根絶するための相談体制の強化を図るための経費を計上している。

さわやか相談室運営事業	17,882	17,848
★新規★ いじめ根絶対策事業(相談事業) (いじめホットライン設置、スクールソーシャルワーカー配置)	732	—

小学校費・中学校費

○学校管理費

学校施設の管理運営(屋上防水、受水槽などの改修を含む)に係る経費のほか、平成 25 年 4 月より開設する大石南中学校の特別支援学級の運用経費や新たに平成 26 年 4 月に開設を予定している西小学校の通級指導教室の整備に係る経費を計上している。

〔受水槽改修〕



★新規★ 小学校管理運営事業 (西小学校に通級指導教室を開設)	633,067 (3,000)	548,418 (—)
中学校管理運営事業	363,451	326,337

○学校建設費

中央小学校校舎改築工事(平成 25 年度完成予定)及び上尾中学校の校舎改築実施設計に係る経費を計上している。なお、平成 24 年度 3 月補正予算に小学校 2 校、中学校 10 校の大規模改築・耐震補強工事に係る経費を前倒し計上し、平成 25 年度中に実施する。

※ 平成 26、27 年度に改築工事を実施する上尾中学校を除き、すべての小中学校の耐震補強工事が完了。

〔耐震補強工事〕



小学校校舎改築事業(中央小学校)	587,996	234,757
中学校校舎改築事業(上尾中学校)	111,699	36,225



〔中央小学校校舎改築工事〕



幼稚園費

○幼稚園費

平方幼稚園の管理運営に係る経費、就園奨励費補助金、私立幼稚園児保護者負担軽減費補助金に係る経費を計上している。

幼稚園就園奨励費補助事業	314,673	295,094
私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業	68,136	69,896

社会教育費

○社会教育総務費

学校施設開放に係る経費や美術展覧会など文化・芸術に係る経費のほか、市制施行 55 周年記念事業として生涯学習フェア・民俗芸能公演を実施するための経費を計上している。

★新規★ 生涯学習指導者活動推進事業 (まなびすと指導者登録者名簿の作成)	1,300 (699)	620 (—)
学校施設開放(生涯学習)事業	2,064	2,341
美術展覧会事業	1,390	1,379
★新規★ 生涯学習フェア・民俗芸能公演事業【55周年】	2,742	—



〔美術展覧会〕



〔市民音楽祭〕

○公民館費

市内 6 公民館の管理運営に係る経費のほか、原市公民館用地購入に係る経費を計上している。

★新規★ 公民館管理運営事業 (原市公民館の用地購入)	264,855 (174,611)	84,324 (—)
--------------------------------	----------------------	---------------

〔はじめての陶芸〕



〔スポーツ吹矢〕



〔ドリップコーヒー入門教室〕



○図書館費

図書館本館、上尾駅前・大石・瓦葺・平方・たちばなの 5 分館、各公民館図書室の図書の購入や貸出しに係る経費を計上している。

図書館運営事業	153,692	158,671
図書館資料整備事業	28,517	37,797

〔ちょうさん、えほんよんで〕



〔ブックスタート〕



〔図書館まつり〕



○子どもの読書活動推進費

富士見小学校内に設置した子どもの読書活動支援センターの運営に係る経費を計上している。

子どもの読書活動支援センター運営事業	8,408	4,087
ブックスタート事業	2,701	2,888

○集会所運営費

人権教育推進の拠点施設である原市・畔吉集会所の講座などの開催に係る経費を計上している。

人権教育集会所運営事業	2,024	2,061
-------------	-------	-------

○文化財保護費

文化財の保護、普及に係る経費のほか、市制施行 55 周年記念事業として、夏休みに子どもを対象として実施するクイズラリーに係る経費を計上している。

埋蔵文化財調査事業	3,900	4,789
★新規★ 文化財保護啓発事業 (夏休み上尾の歴史クイズラリー【55周年】)	279 (222)	57 (-)



〔縄文土器〕



〔宿前皿遺跡〕



〔薬師耕地前出土資料〕

保健体育費

○保健体育総務費

児童生徒の各種健康診断や防犯ブザーの貸与に係る経費のほか、新たに通学路の安全対策を実施するための道路整備等に係る経費を計上している。

学校健康診断及び健康管理事業	86,598	85,880
児童生徒安全推進事業	25,206	20,749
★新規★ 通学路安全対策事業	8,488	—

○学校給食費

小学校の学校給食に係る経費のほか、経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対する学校給食費の援助に係る経費を計上している。

準要保護児童生徒給食費援助事業	74,545	77,427
-----------------	--------	--------



○共同調理場運営費

中学校給食共同調理場及び各中学校の調理業務や配送などに係る経費を計上している。

調理業務委託事業	197,400	199,763
----------	---------	---------

○社会体育費

市民体育祭や市民駅伝競走大会、シティマラソンなどのイベントの開催・補助に係る経費を計上している。

★新規★ スポーツ大会・教室等開催事業 (スポーツ講演会【55周年】)	19,116 (300)	17,530 (-)
--	-----------------	---------------



〔市民体育祭〕



〔上尾シティマラソン〕

○スポーツ施設費

スポーツ施設などの管理運営に係る経費のほか、市民サービスの向上とコスト削減の両立を図るため、市民体育館に指定管理者制度を導入し、管理運営するための経費を計上している。(5年間で約4,500万円の削減)

屋外スポーツ施設管理運営事業	19,526	18,703
★新規★ 市民体育館管理運営事業 (平成25年度より指定管理者制度を導入) ※平成24年度予算額には人件費相当分を含まない	61,797	20,291



〔市民体育館トレーニング室〕



〔市民体育館テニスコート〕



〔上尾市小学校連合運動会〕

6 平成25年度 教育費決算額

(1) 平成25年度教育費決算 節別内訳

節名		教育費合計	教育総務費	小学校費
1節	報酬	131,328,670	36,342,000	0
2節	給料	653,743,487	192,824,420	7,718,226
3節	職員手当等	347,258,218	122,537,570	3,995,986
4節	共済費	204,565,837	61,543,878	2,536,518
5節	災害補償費	0	0	0
6節	恩給退職年金	0	0	0
7節	賃金	285,017,485	168,157,085	0
8節	報償費	16,973,884	4,610,400	2,295,582
9節	旅費	3,245,464	1,960,173	0
10節	交際費	339,500	339,500	0
11節	需用費	637,954,645	30,288,553	268,395,145
	消耗品費	180,670,337	24,861,121	63,382,741
	燃料費	37,705,727	0	1,838,406
	食糧費	310,234	32,550	0
	印刷製本費	13,513,071	5,389,972	2,583,838
	光熱水費	306,168,588	0	155,538,834
	修繕料	96,543,614	3,600	45,051,326
	賄材料費	516,900	0	0
	飼料費	0	0	0
	医薬材料費	2,526,174	1,310	0
12節	役務費	39,123,766	1,972,798	16,639,923
13節	委託料	823,946,986	148,108,883	77,870,058
14節	使用料及び賃借料	435,899,881	2,062,045	225,368,501
15節	工事請負費	2,085,128,280	0	1,545,494,430
16節	原材料費	2,201,084	0	1,228,921
17節	公有財産購入費	199,070,618	0	0
18節	備品購入費	185,934,159	9,679,300	74,526,303
19節	負担金補助及び交付金	471,063,053	15,906,710	6,338,000
20節	扶助費	123,859,216	0	22,220,460
21節	貸付金	5,180,000	5,180,000	0
22節	補償・補てん及び賠償金	0	0	0
23節	償還金・利子及び割引料	10,214	10,214	0
24節	投資及び出資金	0	0	0
25節	積立金	44,337	0	0
26節	寄附金	0	0	0
27節	公課費	0	0	0
28節	繰出金	0	0	0
合計		6,651,888,784	801,523,529	2,254,628,053

(単位:円)

中学校費	幼稚園費	社会教育費	保健体育費	節 名	
0	363,750	28,831,000	65,791,920	報酬	1節
4,016,664	21,841,651	180,346,582	246,995,944	給料	2節
2,098,015	11,292,678	89,187,345	118,146,624	職員手当等	3節
1,315,498	6,772,984	55,241,059	77,155,900	共済費	4節
0	0	0	0	災害補償費	5節
0	0	0	0	恩給退職年金	6節
0	0	5,896,990	110,963,410	賃金	7節
2,274,400	27,000	6,305,834	1,460,668	報償費	8節
0	100,391	956,260	228,640	旅費	9節
0	0	0	0	交際費	10節
139,412,372	1,114,227	60,740,499	138,003,849	需用費	11節
38,678,667	638,315	11,161,052	41,948,441	消耗品費	
1,405,705	148,331	340,461	33,972,824	燃料費	
0		178,304	99,380	食糧費	
1,254,473	30,000	2,741,226	1,513,562	印刷製本費	
74,498,435		34,128,358	42,002,961	光熱水費	
23,575,092	286,650	12,169,519	15,457,427	修繕料	
0	0	0	516,900	賄材料費	
0	0	0	0	飼料費	
0	10,931	21,579	2,492,354	医薬材料費	
10,418,828	190,741	4,240,422	5,661,054	役務費	12節
101,345,381	573,720	172,476,581	323,572,363	委託料	13節
110,071,721	13,782	54,008,586	44,375,246	使用料及び賃借料	14節
524,897,100	1,097,250	115,500	13,524,000	工事請負費	15節
583,513	0	0	388,650	原材料費	16節
0	0	199,070,618	0	公有財産購入費	17節
40,557,555	647,500	35,316,215	25,207,286	備品購入費	18節
8,002,000	394,349,135	9,449,208	37,018,000	負担金補助及び交付金	19節
32,541,151	0	0	69,097,605	扶助費	20節
0	0	0	0	貸付金	21節
0	0	0	0	補償・補てん及び賠償金	22節
0	0	0	0	償還金・利子及び割引料	23節
0	0	0	0	投資及び出資金	24節
0	0	44,337	0	積立金	25節
0	0	0	0	寄附金	26節
0	0	0	0	公課費	27節
0	0	0	0	繰出金	28節
977,534,198	438,384,809	902,227,036	1,277,591,159	合 計	

(2) 平成25年度教育費決算 人件費等に関する調

※この表は、費目毎の正規職員（小・中学校に勤務する県費負担教職員は除く。）に対する給与等（給料・諸手当・共済費）、非常勤特別職職員に対する報酬及び臨時職員に対する賃金を掲載。なお、報酬及び賃金については、該当評価シートの事業費に含み掲載しているが、正規職員に対する給与等は含まれていない。

【教育総務費】

目	節	決算額	備考
1 教育委員会費	1 報酬	3,972,000	教育委員会委員報酬 5人
2 事務局費	2 給料	192,824,420	教育長・職員給与等 43人 (総務課・学務課・指導課・教育センター)
	3 職員手当等	122,537,570	
	4 共済費	61,543,878	
	計	376,905,868	
	7 賃金	36,902,250	臨時学校事務職員パート賃金 (市立小・中学校33校に臨時職員を配置)
3 教育指導費	7 賃金	130,851,535	病休代替等臨時教職員賃金 特別支援学級補助員賃金 日本語指導職員賃金 アップピースマイルサポーター賃金 アップピースマイル教員賃金 アップピースマイル学校図書館支援員賃金 生徒指導支援員賃金
4 教育センター運営費	1 報酬	32,370,500	さわやか相談室相談員報酬 11人 学校適応指導教室指導員報酬 3人 教育相談員報酬 4人 臨床心理士報酬 2人

【小学校費】

目	節	決算額	備考
1 学校管理費	2 給料	7,718,226	職員給与等 2人 (市立小学校用務員)
	3 職員手当等	3,995,986	
	4 共済費	2,536,518	
	計	14,250,730	

【中学校費】

目	節	決算額	備考
1 学校管理費	2 給料	4,016,664	職員給与等 1人 (市立中学校用務員)
	3 職員手当等	2,098,015	
	4 共済費	1,315,498	
	計	7,430,117	

【幼稚園費】

目	節	決算額	備考
1 幼稚園費	1 報酬	363,750	学校薬剤師報酬 1人 学校医報酬 2人
	2 給料	21,841,651	職員給与等 6人 (市立幼稚園教諭)
	3 職員手当等	11,292,678	
	4 共済費	6,772,984	
	計	39,907,313	

【社会教育費】

目	節	決算額	備考
1 社会教育総務費	1 報酬	2,769,000	社会教育指導員報酬 2人 社会教育委員報酬 11人
	2 給料	45,878,575	職員給与等 15人（生涯学習課）
	3 職員手当等	24,067,031	
	4 共済費	14,847,882	
	計	84,793,488	
2 公民館費	1 報酬	18,379,000	社会教育指導員報酬 14人 公民館運営審議会委員報酬 13人
	2 給料	58,911,861	職員給与等 13人（公民館6館）
	3 職員手当等	29,483,121	
	4 共済費	18,871,917	
	計	107,266,899	
3 図書館費	1 報酬	129,000	図書館協議会委員報酬 10人
	2 給料	75,556,146	職員給与等 16人（図書館）
	3 職員手当等	35,637,193	
	4 共済費	21,521,260	
	計	132,714,599	
7 賃金	3,902,340	図書館事務パート賃金	
4 子どもの読書活動推進費	1 報酬	2,520,000	子どもの読書活動支援センター協力員報酬 2人
	7 賃金	820,000	パート賃金
5 集会所運営費	1 報酬	3,264,000	社会教育指導員報酬 2人 人権教育集会所運営委員会委員報酬 20人
6 文化財保護費	1 報酬	80,000	文化財保護審議会委員報酬 7人
	7 賃金	1,174,650	遺物整理員賃金 埋蔵文化財発掘調査員賃金

【保健体育費】

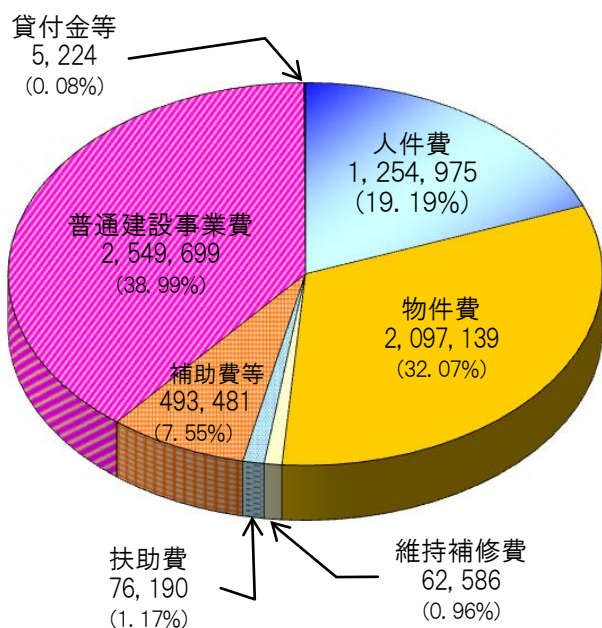
目	節	決算額	備考
1 保健体育総務費	1 報酬	61,495,920	学校薬剤師報酬 34人・学校医報酬 179人
	2 給料	84,941,478	職員給与等 20人 （スポーツ振興課・ 学校保健課・中学校給食共同調理場）
	3 職員手当等	48,003,848	
	4 共済費	26,412,011	
	計	159,357,337	
7 賃金	1,989,430	健康診断業務等パート賃金・保健事務補助パート賃金	
2 学校給食費	2 給料	162,054,466	職員給与等 43人（市立小学校給食調理員）
	3 職員手当等	70,142,776	
	4 共済費	50,743,889	
	計	282,941,131	
7 賃金	108,973,980	嘱託給食調理員賃金 臨時給食調理員賃金 臨時短期給食調理員賃金	
3 共同調理場運営費	1 報酬	66,000	共同調理場運営委員会委員報酬 4人
4 社会体育費	1 報酬	4,230,000	スポーツ推進審議会委員報酬 13人 体育指導委員報酬 48人

(3) 平成25年度教育費決算 性質別歳出内訳及び財源内訳

(単位:千円)

	総額	教育総務費	小学校費	中学校費	幼稚園費	社会教育費	保健体育費	
							体育施設費等	学校給食費
人件費	1,254,975	325,293	54,024	46,193	40,116	344,900	55,165	389,284
物件費	2,097,139	20,625	780,689	426,503	1,380	327,022	81,067	459,853
維持補修費	62,586		31,658	17,603	240	9,986	3,099	
扶助費	76,190		2,483	3,000	2,116			68,591
補助費等	493,481	414,895	21,933	17,473	82	18,569	20,055	474
普通建設事業費	2,549,699	252	1,680,786	641,237	1,130	205,162	389	20,743
積立金	44					44		
投資及び出資金	0							
貸付金	5,180	5,180						
繰出金	0							
歳出合計	6,539,294	766,245	2,571,573	1,152,009	45,064	905,683	159,775	938,945
国庫支出金	675,591	75,133	479,748	119,960		750		
都道府県支出金	11,113	1,031	387	8,926		375		394
使用料・手数料	25,283		199	140	5,095	18,758	1,091	
分担金・負担金・寄付金	0							
財産収入	44					44		
繰入金	2,137					2,137		
諸収入	12,071	5,182	1602			5,080	193	14
繰越金	123,982		43,804	80,178				
地方債	1,376,000		907,700	301,400		166,900		
一般財源等	4,313,073	684,899	1,138,133	641,405	39,969	711,639	158,491	938,537

[出典：平成25年度 地方財政状況調査（11表）]



人件費：報酬、給料、手当等、一定の勤務に対する対価、報酬として地方公共団体から支払われる一切の経費。

物件費：人件費、維持補修費、扶助費、補助費等以外の地方公共団体が支出する消費的性質の経費の総称で、パート賃金、旅費、教育委員会交際費、需用費、役務費、備品購入費、報償費、委託料、使用料及び賃借料、原材料費等をいう。

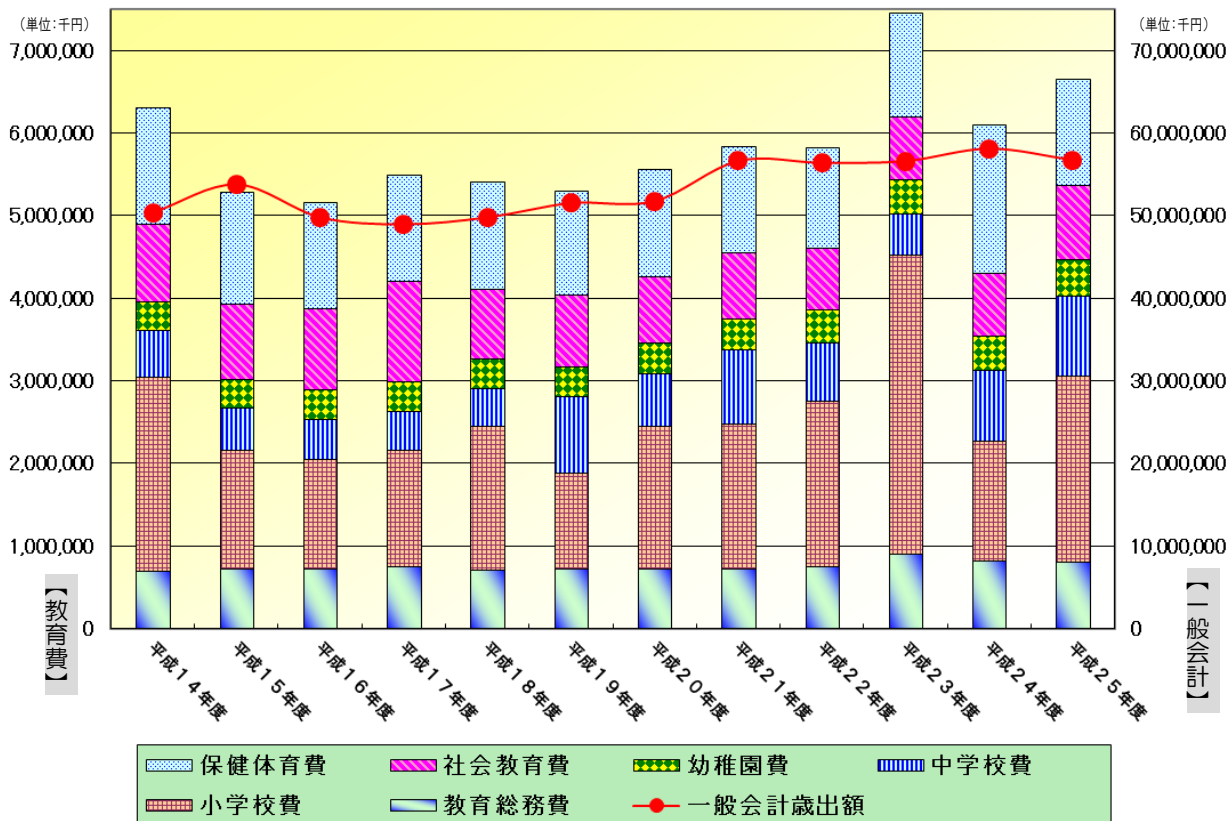
維持補修費：地方公共団体が管理する公共用又は公用施設の効用を維持するための経費をいう。

扶助費：地方公共団体が法律に基づいて支給する費用及び地方公共団体が単独で行う各種扶助の支出額をいう。教育費では就学援助費等が該当する。

補助費等：報償費のうち報償金及び賞賜金、役務費のうち保険料、物件費に計上されない委託料、負担金補助及び交付金、公課費などをいう。

普通建設事業費：投資的経費の代表的なもので、道路、橋りょう、学校などの建設・大規模修繕等に要する経費。

(4) 一般会計・教育費決算額の推移



※平成16年度一般会計歳出決算額については、減税補てん債借換債の額を除いた金額

(単位:円)

	教育総務費	小学校費	中学校費	幼稚園費	社会教育費	保健体育費	教育費合計
平成14年度	692,839,790	2,349,331,019	570,026,237	343,571,595	938,128,728	1,419,296,002	6,313,193,371
平成15年度	722,452,630	1,434,802,075	521,193,590	339,829,795	909,768,579	1,355,541,212	5,283,587,881
平成16年度	725,433,972	1,319,977,332	488,190,111	359,627,499	975,589,484	1,294,158,846	5,162,977,244
平成17年度	748,159,084	1,413,347,842	474,620,752	359,665,665	1,208,903,848	1,292,397,530	5,497,094,721
平成18年度	708,236,734	1,742,294,265	463,654,326	350,290,465	846,117,609	1,295,276,923	5,405,870,322
平成19年度	728,647,962	1,159,633,623	924,470,912	355,280,095	877,152,221	1,255,537,940	5,300,722,753
平成20年度	718,441,527	1,727,278,365	645,064,158	366,999,341	807,374,959	1,300,070,613	5,565,228,963
平成21年度	727,247,575	1,750,179,883	899,888,936	378,921,744	800,470,216	1,281,375,694	5,838,084,048
平成22年度	745,616,856	2,003,534,523	716,904,945	400,424,764	743,234,494	1,213,313,426	5,823,029,008
平成23年度	902,044,967	3,618,507,100	496,808,804	423,063,614	752,006,065	1,256,194,053	7,448,624,603
平成24年度	819,813,863	1,456,855,814	853,389,327	414,235,320	757,720,791	1,804,060,341	6,106,075,456
平成25年度	801,523,529	2,254,628,053	977,534,198	438,384,809	902,227,036	1,277,591,159	6,651,888,784

	一般会計歳出額	教育費 合計	構成比(%)	増減率(%)
平成14年度	50,389,327,787	6,313,193,371	12.53	8.59
平成15年度	53,794,998,277	5,283,587,881	9.82	▲16.31
平成16年度	49,819,808,570	5,162,977,244	10.36	▲2.28
平成17年度	48,968,489,988	5,497,094,721	11.23	6.47
平成18年度	49,803,916,276	5,405,870,322	10.85	▲1.66
平成19年度	51,536,553,337	5,300,722,753	10.29	▲1.95
平成20年度	51,771,491,589	5,565,228,963	10.75	4.99
平成21年度	56,642,264,638	5,838,084,048	10.31	4.90
平成22年度	56,417,623,161	5,823,029,008	10.32	▲0.26
平成23年度	56,620,163,136	7,448,624,603	13.16	27.92
平成24年度	58,132,713,835	6,106,075,456	10.5	▲18.02
平成25年度	56,752,202,004	6,651,888,784	11.72	8.93



〔東町小学校委嘱研究発表〕

基本目標 I

確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

施策4 特別支援教育の推進

施策5 幼児教育の推進

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
1 さわやかスクールサポート事業 （学級支援）	88,044	A	アップスマイル教員数	26人	7人	7人	
			アップスマイルサポーター数	27人	70人	74人	
2 理科教育振興事業	158	A	上尾支部科学展出品数	144点	145点	160点	
			県中央展選出作品数	2/118点	1/115点	1/149点	
3 教育に関する3つの達成目標 推進事業	510	A	教育に関する3つの達成目標 全小・中学校全学年 学力の達成率（読む・書く・計算）	94.5%	94.6%	93.9%	
			規律ある態度80%達成項目数	99項目 / 108項目	103項目 / 108項目	105項目 / 108項目	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	78.9%
			中学校	84.9%	85.5%	84.7%	
4 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	上尾市学力調査の国 語・算数（数学）・英 語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3
			教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）		80.1%	76.4%	77.4%
5 学力向上支援事業	7,502	A	上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・ 英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.7	50.3	50.3	

◎教育委員会の施策評価

平成25年度のアップスマイル教員の配置については、中学校1年生で少人数学級の編制を行い、小学校から中学校への滑らかな接続を図り、中1ギャップの解消にも効果を上げている。一人一人の生徒に教員が接する機会も多くなり、より一層、きめ細やかな指導が可能となった。また、アップスマイルサポーターを74人に増員し、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の支援の充実を図ることができた。平成25年度は、上尾支部科学展への出品数が160点に達し、年を追うごとに増加の傾向にある。各学校で自由課題研究に対する啓発が進んできていることに合わせて、継続して研究を行っている児童生徒が多数おり、研究物の内容も大変充実してきている。

学力向上に向けては、各学校での繰り返し学習や言語活動の充実によって、思考力・判断力・表現力を児童生徒が身に付けることができる授業が展開された。また、自校の学力調査の結果分析を行い、成果と課題を明確化、共有化し、学校の状況や児童生徒の実態に応じた学力向上プランの改善を図った。適切な評価・効果の検証とさらなる改善を進め、一人一人の児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導に引き続き取り組んでいく。

教員は、異校種の学校の研究発表会にも積極的に参加し研鑽を積んでいる。研究協議会において小・中学校の教員で意見交換を行ったり、中学校区で小・中学校共通のテーマを設定した取組を行ったりすることで、連携教育から一貫教育に向けての推進も図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
上尾市学力調査の 国語・算数(数学)・英語の平均値	小学校	51.9	52.0	52.3
	中学校	50.3	50.5	50.8

学識経験者の意見

- ◇ 障害のある児童・生徒の比率は高まる傾向にあり、担任教員の負担を軽減する事業の拡充は不可欠である。学力に関しては、小学生に比べて中学生の成績が見劣りするが、この原因について検討する余地があるだろう。また学校単位の学力調査結果を見ると、小中学校とも、格差の大きさが目立つ。おそらく地域の家庭環境などが大きな要因となっていると思われる。すべての子どもの学力保障という観点から、環境に恵まれない子どもの学力の改善努力に成果を上げている他県の事例を参考にするなどの検討が必要ではないか。
- ◇ 手厚い支援体制と各学校のきめ細やかな指導の成果が、昨今の評価に表れている。ここまで達成されてきたので、コンマいくつの部分にこだわらず、教育は強い信念を持ち、長い目で見守ることも大切。各学校には地域特有の課題があり、今後も一層の個別のボトムアップにも力を注いで頂ければありがたい。
- ◇ 児童・生徒の個性や能力に応じて適切な対応をするために、きめ細やかな学習支援が求められている。“生きる力”を育むため、基礎となる知識を身につけるための様々な取組が行われているようなので、継続的に行うとともに、小・中一貫教育などの新たな取組についても柔軟な対応を期待したい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●主要事業の評価結果(各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照)

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
6 日本語指導職員派遣事業	2,512	A	派遣教職員数	9人	12人	13人	
7 準教科書・副読本整備事業	13,846	A	道徳副読本整備状況	67%	100%	100%	
			体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
			保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	
			社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
8 英語弁論暗唱大会開催事業	58	A	大会参加生徒数	30人	33人	33人	
			市学力調査英語 平均値	51.7	52.1	50.3	
9 中学生海外派遣研修事業	9,553	A	応募生徒数	46人	44人	54人	
			派遣生徒数	22人	22人	22人	
10 小中学校ALT配置事業	88,262	A	ALT配置人数	27人	27人	27人	
			ALT活用 時数	小学校	30.6時間	31.5時間	32.2時間
				中学校	36.0時間	37.6時間	37.8時間
中学生海外派遣研修 応募生徒数	46人	44人	54人				

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算 数(数学)・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9	全国平均を50としたときの市の 平均値
	中学校	50.7	50.3	50.3	
中学生海外派遣研修事業 応募生徒数		46人	44人	54人	

◎教育委員会の施策評価

グローバル化が著しい現代社会において、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質と能力を育成することは重要である。国際化した社会の中で、しっかりとしたアイデンティティを持ち、異文化を理解した上で、自分の意見を適切に主張することができる人材の育成を目指し、中学生22人が、一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修や文化・スポーツ交流等の研修を行う中学生海外派遣研修を実施した。現地における全研修日程を計画どおり無事に終え、帰国報告会での発表等、この研修をとおして、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。

また、全小・中学校にALTを配置し、日常的に「生きた英語」とふれあい、授業においてもコミュニケーション能力向上を図れる環境を整えることができた。

さらに、英語弁論大会を開催し、国際感覚の育成や英語力向上を図った。特に平成25年度は、大会優勝生徒が、全国大会中央大会予選会出場を果たした。これらの事業を通し、時代の変化に対応した教育の推進を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の平均値	小学校	51.9	52.0	52.3
	中学校	50.3	50.5	50.8
中学生海外派遣研修事業 応募生徒数		54人	66人	66人

学識経験者の意見

- ◇ 英語教育が小学校でも教科化されることが予定されており、小中学校をとおした体系的な学習指導法の確立が求められている。ALTなどを交えて、小中学校教員を対象とした研修や情報交換の機会を設定するなどの手当てが必要ではないか。海外派遣研修は有意義だと考えるが、経験することによって自国の文化や歴史への認識が深まるのではなく、自国の文化や歴史を伝えられる知識や体験をもって現地の人と交流することが望ましい。選考方法や研修内容にいつもの工夫が欲しい。
- ◇ それぞれの事業がしっかりと根付き、確実に成果を上げてきた。時代の変化が著しい昨今において、一層の変化への対応と内容の充実に期待している。
- ◇ 語学学習を通して異文化に触れることは、国際理解を深めるためにも重要である。より多くの子ども達に、こうした機会が提供されるよう努めていただきたい。また、国際理解教育の視点から、語学学習にとどまらず、他国の文化や生活習慣について広く伝えられるよう、ALTの指導や質の向上に努められたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
11 中学生社会体験チャレンジ事業	631	A	職場体験事業所数	233	221	244
			「進路意識向上」できたと回答した生徒	42.0%	39.1%	42.8%
12 中学生進路意識啓発事業	110	A	講演会開催回数	14回	12回	11回
			講演会参加生徒数	7,781人	6,845人	6,169人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
職場体験事業所数	233	221	244	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できたと回答した生徒	42.0%	39.1%	42.8%	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合

◎教育委員会の施策評価

中学生社会体験チャレンジ事業として職場体験を全中学校が実施することができた。中学生が、地域の中で職場体験を行うことを通して、職業に対する基礎的な知識や一般的なルールや礼儀といった社会性や自立心、異世代間でのコミュニケーション能力を養うことができた。

また、進路啓発事業としての学校・家庭・地域「ふれあい講演会」を全中学校が実施し、地域で活躍する方や、地元出身の各方面で活躍する方による講演を聞くことで、自己の将来について考え、夢や希望を抱き、その実現をめざして前向きに努力していこうとする態度を身につけることができた。これらの事業を通して、中学生の望ましい職業観や勤労観の育成を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
職場体験受入事業所数	244	250	260

- ◇ 雇用の不安定化が深刻になりつつある。先生方も年々、仕事が厳しくなっているとはいえ、自身は安定雇用であり、社会の実情にいまひとつ実感をもって理解が難しいのではないかと感じる。児童・生徒への啓発的な行事は必要であるが、先生方を対象とした雇用の現場に関する研修も不可欠だと考える。また中学生の社会体験は是非3日間とするよう努力していただきたい。
- ◇ 企業経営にとって、大変厳しい状況の中、中学生を毎年受け入れて指導して下さることに心より感謝している。「社会で仕事をする事」の意味を子供たちが、少しでも学ぶことのできるよい機会である。
- ◇ 「社会体験チャレンジ事業」は、生徒が学校外の大人と接する機会であり、働くことの意味を考える貴重な機会になっている。一方、受け入れる企業側についても、“地域が育む教育”を意識する貴重な機会であることから、今後も地域企業に十分な説明と理解を得ながら引き続き取り組んでいただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標	評価指標		
				23年度	24年度	25年度
1 さわやかスクールサポート事業 (学級支援)	88,044	A	アッピースマイル教員数	26人	7人	7人
			アッピースマイルサポーター数	27人	70人	74人
13 特別支援学級補助員派遣事業	16,305	A	補助員配置数	9人	9人	9人
			補助員配置率	26.5%	28.1%	25.0%
			補助員対象研修回数	0回	9回	9回
14 特別支援教育推進事業	213	A	特別支援教育研修会回数	5回	5回	5回
			特別支援教育研修会参加率	104%	100%	100%
			合同作品展入場者数	500人	500人	500人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
アッピースマイル サポーター配置校数	20校	33校	33校	小学校22校+中学校11校=全33校
アッピースマイル サポーター数	27人	70人	74人	サポーター配置総人数

◎教育委員会の施策評価

特別支援教育の推進については、すべての学校で特別支援教育の視点に立った教育支援が行えるよう指導を重ねてきた。平成25年度も教員の指導力・資質の向上のため、県立特別支援学校のセンター的機能を積極的に活用し、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを講師に招き、特別支援教育コーディネーター研修会や特別支援学級担当者研修会等、専門的な知識・技能を習得するための質の高い研修会を実施できた。

また、各学校では、通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒への対応等についての研修を行い、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導・支援を続けている。さらに、教育委員会ではアップスマイルサポーターを全校に配置し、通常学級に在籍して学ぶ特別な支援を必要とする児童生徒の成長に効果を上げている。特別支援学級では、担任の指導を補助する特別支援学級補助員を引き続き配置し、児童生徒一人一人のニーズに応じたきめ細やかな教育的支援を行うことができた。

本年度は、大石南中学校に特別支援学級を設置することができた。今後も、上尾市特別支援教育基本方針に基づき計画的に特別支援学級を設置して、特別支援教育の推進・充実を図っていく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
アップスマイルサポーター配置校数	33校	33校	33校
アップスマイルサポーター数	74人	75人	80人

学識経験者の意見

- ◇ 増加傾向にある障害のある児童・生徒への適切な指導体制の充実は、ますます大きな課題となる。学級補助員の配置や先生方の研修機会のいっそうの充実が望まれる。
- ◇ 特別支援教育に対する社会的理解が深まってきている。対象児童生徒の増加に応じて、サポーターの数が増加しているのであろうか。特別支援学級の新設もあり、今後も適正な就学指導をお願いしたい。
- ◇ 一人ひとりの個性に合わせたきめ細かな指導が必要とされるなか、アップスマイルサポーターや特別支援学級補助員の配置による支援が図れているとのことであるので、計画に基づく特別支援学級の設置と、それに伴う補助員の確保・養成に取り組む必要がある。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策5 幼児教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
15 幼稚園就園奨励費補助事業	307,472	A	就園奨励費補助金減免率(公立)	26.2%	16.2%	12.7%
			就園奨励費補助金支給率(私立)	77.8%	76.1%	75.8%
16 私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業	68,569	A	補助額	111,145円	113,050円	121,478円
			差引後 公・私立幼稚園保育料差額	100,245円	97,198円	88,770円

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
幼稚園就園率	86.3%	87.4%	88.2%	全幼稚園児数 / (人口-保育所等通園児数) ※市内在住3,4,5歳児
幼稚園等と連携・交流している小学校の数	22 / 22校	22 / 22校	22 / 22校	

◎教育委員会の施策評価

上尾市教育振興基本計画では幼児教育について、生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期での教育機会の確保や充実が極めて大切であり、幼稚園教育を希望する保護者に必要な支援を行うことをうたっている。

上記の施策は、国費による就園奨励費補助事業に加え、市費による私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業も併せて行うことにより、園児の保護者の経済的負担の軽減を大幅に図るものであり、幼稚園の就園率を高め、幼児期における子育ての環境づくりに十分配慮をしている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
—	—	—	—

学識経験者の意見

- ◇ 「幼稚園就園奨励費」や「私立幼稚園児保護者負担軽減費」などの補助制度は、子育て世代の保護者の負担を軽減し、就園率を高めるためにたいへん有効である。幼児教育の重要性が指摘されるなか、引き続きこうした支援の継続をお願いしたい。

基本目標Ⅱ

豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成

施策2 生徒指導の充実

施策3 人権教育の推進

施策4 学校教育相談の充実

施策5 学校保健の充実

施策6 食育の推進・学校給食の充実

施策7 児童生徒の体力向上

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
3 教育に関する3つの達成目標推進事業	510	A	教育に関する3つの達成目標 全小・中学校全学年 学力の達成率（読む・書く・計算）	94.5%	94.6%	93.9%	
			規律ある態度80%達成項目数	99項目 / 108項目	103項目 / 108項目	105項目 / 108項目	
			新体力テスト 総合 評価 上位3ランク（A・B・C）の児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	78.9%
				中学校	84.9%	85.5%	84.7%
7 準教科書・副読本整備事業	13,846	A	道徳副読本整備状況	67%	100%	100%	
			体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
			保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	
			社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
17 学習支援事業	199	A	外部指導者補助数	97人	103人	103人	
			外部指導者活用数	103人	187人	152人	
18 さわやかスクールサポート事業 （学校図書館支援）	18,086	A	学校図書館支援員数	8人 / 33校	25人 / 33校	25人 / 33校	
			1校あたりの派遣回数 （平均）	43回	小学校202回 中学校約41回	小学校202回 中学校約41回	
			「読書が好き・ どちらかといえば好き」と回答 した児童生徒の割合	小学6年	72.6%	74.5%	74.9%
				中学3年	75.8%	72.8%	73.2%
19 小・中学校音楽会開催事業	805	A	参加学校数	33校	33校	33校	
			参加者数	約2,000人	約2,000人	約2,000人	
20 小中学校図書整備事業	27,658	A	増加冊数	小学校	13,272冊	12,399冊	10,745冊
				中学校	6,959冊	5,783冊	6,029冊
			廃棄冊数	小学校	43,153冊	4,023冊	625冊
				中学校	17,848冊	497冊	519冊
			年度末現有冊数	小学校	174,740冊	181,400冊	193,011冊
				中学校	103,677冊	106,119冊	111,629冊
図書標準目標達成率	小学校	78.1%	83.7%	89.3%			
	中学校	72.1%	74.3%	77.4%			

2 1	図書館資料整備事業	3 3, 6 6 1	A	蔵書数（全9館）	5 8 0, 5 3 7 点	5 8 0, 7 5 4 点	5 8 9, 2 1 1 点	
				蔵書密度(市民一人当たり)	2. 5 6 点	2. 5 5 点	2. 5 8 点	
				図書館利用者数（全9館）	3 8 5, 5 3 9 人	4 4 0, 0 3 6 人	4 1 7, 9 0 9 人	
				総貸出点数（全9館）	1, 4 1 8, 1 6 3 点	1, 4 5 5, 0 0 6 点	1, 3 4 5, 9 8 8 点	
				貸出密度（市民一人当たり）	6. 2 4 点	6. 3 9 点	5. 9 0 点	
2 2	指導法改善事業	1 0, 5 6 2	A	指導の重点努力点 配布数	9 4 2 冊	9 6 5 冊	9 7 4 冊	
				研修会実施数	4 4 回	4 4 回	4 4 回	
				市学力調査 平均値	小学校	5 2. 4	5 1. 8	5 1. 9
					中学校	5 0. 7	5 0. 3	5 0. 3
2 3	中学校部活動支援事業	3, 0 2 8	A	部活動指導員配置率	7 8. 9 %	8 1. 8 %	9 0. 1 %	
				運動部活動加入率	7 4. 2 %	7 5. 0 %	7 4. 1 %	
2 4	中学校吹奏楽演奏会開催事業	3 1 1	A	参加学校数	1 1 校	1 1 校	1 1 校	
				一般参加者数	3 1 0 人	3 7 8 人	4 3 9 人	
2 5	子どもの読書活動支援センター運 営事業	8, 1 7 9	A	出張おはなし会	—	2 3 回	3 9 回	
				ボランティア養成講座	—	2 1 回	2 8 回	

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学力の達成率（読心・書く・計算）	9 4. 5 %	9 4. 6 %	9 3. 9 %	小・中学校全学年正答率
規律ある態度80%達成項目数	9 9 項目 / 1 0 8 項目	1 0 3 項目 / 1 0 8 項目	1 0 5 項目 / 1 0 8 項目	規律ある態度達成数 (小・中学校合計)
「読書が好き・どち らかといえば好き」 と回答した児童生 徒の割合	小学6年	7 2. 6 %	7 4. 5 %	上尾市小・中学校学力調査 質問紙調査
	中学3年	7 5. 8 %	7 2. 8 %	

◎教育委員会の施策評価

平成25年度は、豊かな心の育成のため、学校図書館支援員を小学校全校に毎日派遣、中学校には週1日派遣した。各学校の司書教諭を助け、児童生徒の読書活動推進に大きく貢献することができた。特に、読書案内や推薦図書、新書の展示コーナーが設置されるようになり、児童生徒が本を手に取りやすい環境が整ってきた。児童生徒の学習に必要な環境を整えるため、学校図書館法で規定されている図書標準を達成するよう予算を傾斜配分することができた。このような取組みや家庭と連携した読書活動が評価され、鴨川小学校が、子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞することができた。

小・中学校音楽会では、各学校が互いの音楽を鑑賞することにより、児童生徒の豊かな心の育成につながることができた。多くの市民も来場し、芸術の提供と学校理解の場とすることができた。また、音楽教育に関する教員の指導力を高める効果もあった。

道徳及び体育科・保健体育科では、教科用図書が発行されていないため、本市の教育水準を高めるために、道徳及び体育科、保健体育科の準教科書・副読本の整備を行った。特に、道徳は、小・中学校が同系統の教材を使用することで、学びの連続性が図られ、小・中学校の連携を図ることができた。さらに、家庭・地域と連携し、人間性や社会性をはぐくむ道徳教育を充実させ、豊かな心の育成に取り組むことができた。そのことにより、規律ある態度の達成数が、年々上昇している。

専門的な知識や技能を持つ外部指導者を積極的に活用することで、児童生徒一人一人の興味関心等に応じた効果的な指導ができた。特に、総合的な学習の時間等の授業では、体験活動や個に応じた指導が可能となり、特色ある教育活動が展開でき、児童生徒にとって魅力ある教育活動となった。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
規律ある態度80%達成項目数		105項目 / 108項目	108項目 / 108項目	108項目 / 108項目
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	74.9%	75.5%	76.0%
	中学3年	73.2%	74.0%	74.5%
学校図書館支援員の1校あたりの派遣回数（平均）		小学校202回 中学校41回		小学校202回 中学校202回

学識経験者の意見

- ◇ 児童・生徒の活字離れが指摘されている。小学生より中学生、中学生より高校生のほうが本を読まなくなると言われる。原因はさまざまであろうが、素直な小学校段階では、画一的な指導でも、それなりに成果が出るだろうが、内在的な動機が十分に育たない可能性もある。内在的な動機を育てるためには、低学年の指導で、より多様な種類の図書に触れる機会を確保する必要があると思われる。その場合、子ども達の興味・関心を尊重し、必ずしも常識的には教育的とは思われない教材も許容すべきである。
- ◇ 情報伝達媒体の多様化により、言語環境は大きく変化してきた。しかしその基本は文字であり、そこをしっかりと押さえていく姿勢はとても大切と考える。
- ◇ 児童・生徒の感受性や創造力を育むために、読書活動による効果は大きいことから、学校図書館支援員の全校配置は早急に進めていただきたい。また、中学生のブックトークも好評とのこと、機会を増やすなど、こうした取組みが、学校でより効果的に活用されることを期待したい。また、部活動の大会や発表の場を広く市民にPRし、さらに公開していきたい。地域との連携や指導者確保にも繋がると思う。



〔 平方小学校 〕



〔 しょうさん、えほんよんで 〕



〔 中学校吹奏楽演奏会 〕



〔 小・中学校音楽会 〕

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
26 生徒指導推進事業	4,543	A	支援員派遣校数	5校	4校	4校
			支援員1校あたり週 派遣日数	1.6日	2日	2日
			暴力行為発生件数	26件	18件	3件
			街頭補導回数	536回	569回	494回
			地域の集い参加者数	359人	332人	363人
27 さわやか相談室運営事業	17,882	A	相談室の相談件数	9,927回	11,204回	10,470回
			相談の解決率	80%	87%	76%
			不登校生徒割合	1.69%	1.60%	1.83%
28 いじめ根絶対策事業 （防止事業）	6,219	A	いじめの認知件数	28件	32件	22件
29 いじめ根絶対策事業 （相談事業）	617	A	いじめ相談解決率	—	—	100%
			いじめホットライ ン・ホットメール相 談件数	—	—	17件

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
街頭補導回数	536回	569回	494回	11中学校区における該当補導実施数
不登校生徒出現率（中学校）	1.69%	1.60%	1.83%	不登校生徒数/全生徒数×100
いじめ解消率（小・中学校）	100%	96.9%	95.5%	いじめ解消件数/いじめ認知件数×100

◎教育委員会の施策評価

各学校に対して管理職のリーダーシップの下、生徒指導主任を中心に全教職員の共通理解に基づいて校内指導体制を確立し、学級や学年の枠を超え、相互に連携して児童生徒一人一人の指導・援助に当たるよう指導し、充実を図ることができた。生徒指導支援員を希望する学校に配置し、校内巡視などを行うことで、抑止力となり、専門性の高い支援員を配置することで、非行・問題行動を繰り返す生徒への教員の指導を支援することができ、再発防止等にも効果を上げることができた。上尾市生徒指導推進協議会の活動に関しては、市内の小・中学校及び高等学校が地域及び警察等関係機関、青少年育成団体等と連携し、中学校区内のパトロールなど具体的な実践を行い、児童生徒及び青少年の非行・問題行動の抑止力となることができた。「いじめ」については、継続してすべての学校で児童生徒対象の共通したアンケートを月1回、保護者対象の共通したアンケートを学期1回実施するとともに、学級における望ましい人間関係の構築のための「Q-U調査」や教職員がいじめを見抜き、早期発見・早期対応の能力を高めるための「CAP研修会」を実施し、市全体で「いじめ」の早期発見・早期解消のための取組ができた。一方、さわやか相談室運営事業では、今年度の相談延べ件数は昨年度より734件減少しているが、中学校における不登校出現率が0.23%増加したことが課題である。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
暴力行為発生件数	3 件	0 件	0 件
いじめ解消率（小・中学校）	95.5%	100%	100%

学識経験者の意見

- ◇ 不登校生徒の比率が多少、増加していることが心配である。学校や学年による偏りの有無などを検討して、減少に向けた努力が求められる。スクールソーシャルワーカーの配置は新しい試みとして評価できるが、新しい職員が本格的な活動を展開できるようにするためには、関連各部署との間のネットワークの構築が不可欠である。しかるべき立場の職員の協力が求められるであろう。また効果的な問題解決の活動のためには複数職員の配置も検討されるべきである。
- ◇ 生徒指導上の課題は、時代とともにその形や質を変えながら、常に学校には存在し続けていく。背景にあるのは家庭環境と考えられるが、社会的な問題として、外部支援を積極的に取り入れ解決していく姿勢を評価したい。現場においては、今後も躊躇せず、積極的に関係機関と連携していくべきであると思う。
- ◇ 生徒を指導する上で、教師と生徒、生徒同士の信頼関係を築くことが最も大切であり、そのためには、人との関わり方、コミュニケーション能力の向上を図ることが重要となる。教師間で、そうした取組みについての情報も共有し、体制を強化していく必要がある。不登校の問題は、多様化する社会の中で解決が難しくなっている。25年度からいじめへの取組みが強化されているようなので、今後調査に基づく効果を検証し、解決につなげることを期待したい。



〔いじめ根絶中学生サミット〕

上尾市「いじめ根絶」中学生サミット

上尾市「いじめ根絶」中学生宣言

私たちは、強い意志をもっていじめをなくし、互いに支え合い、「笑顔いっぱい さわやかなあいざつ」のあふれる楽しい学校をつくります。上尾市の全中学校・全生徒は、ここに「いじめのない学校をつくる」ことを宣言します。

人をきずつける言動は絶対にしません

私たちは、いじめを絶対にしません。相手が嫌がることはせず、相手の気持ちを考え、正しい行動を取ります。

やさしさと勇気を持ち 仲間の笑顔を護ります

私たちは、友達を信頼し、やさしさをもって接します。見て見ぬふりをせず、自らの意志を伝える勇気を持ち、仲間と助け合います。

一人一人の人権を尊重し 思いやりの心をもって生活します

私たちは、友達や先生方、地域の方々とのふれあいを大切にします。一人一人の個性を互いに認め、支え合います。

平成25年12月7日

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
30 人権教育推進事業 (指導課所管分)	1,346	A	教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいでできると回答した児童 生徒の割合	86.5%	88.7%	90.0%
			作文・標語集等配布率	100%	100%	100%

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいでできると回答した児童 生徒の割合	86.5%	88.7%	90.0%	「よくできる」「だいたいできる」回答児 童生徒数/全児童生徒数×100
作文・標語集等配布率	100%	100%	100%	配布数/児童生徒数×100

◎教育委員会の施策評価

人権作文・標語の作成と人権作文・標語集の配布やあいさつ運動、道徳教育の推進、いじめ根絶への取組など全市的な取組により、児童生徒の人権意識を高めることができた。しかし、同和問題やインターネット上での人権問題の深刻化など、課題は残っている。また、管理職及び教員を対象とした「差別の現実」を踏まえた講演や「同和問題」を視点としたフィールドワークによる研修を実施し、人権教育を推進する指導者の資質向上を行うことができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいでできると回答した 児童生徒の割合	90.0%	91.0%	92.0%
作文・標語集等配布率	100%	100%	100%

学 識 経 験 者 の 意 見	◇ 社会的には「ヘイトスピーチ」が大きな問題となっている。人種・民族差別の格好の話題でもあり、生徒たちの政治的・社会的関心や素養を涵養するうえで、適切に利用すれば効果的な課題として扱えるはずである。悪い意味で影響を受けかねない年齢層である生徒たちの自覚を育てるうえで、積極的な取組を検討してもらいたい。
	◇ 長く続けることは、時に「慣れ」を生み出すこともあるが、やはり「継続は力」である。手堅く継続していきたい。
	◇ すべての人が正しい人権意識をもつことが重要であり、家庭教育においても人権意識啓発は必要と感じている。お互いを思いやる気持ちを醸成できるよう、親世代も含めて人権教育の推進を引き続きお願いしたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
28 いじめ根絶対策事業 （防止事業）	6,219	A	いじめの認知件数	28件	32件	22件
29 いじめ根絶対策事業 （相談事業）	617	A	いじめ相談解決率	—	—	100%
			いじめホットライン・ホ ットメール相談件数	—	—	17件
31 不登校児童生徒の学校 適応指導事業	4,682	A	適応指導教室入級者数	10人	9人	13人
			適応指導教室開設日数	167日	146日	151日
			学校への復帰率	100%	100%	100%
32 教育相談事業	11,427	A	教育相談実件数	282件	279件	321件
			教育相談延べ回数	3,432回	3,171回	5,935回
			教育相談最終率	88.7%	86.4%	79.1%

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
不登校児童生徒の割合	0.70%	0.67%	0.73%	不登校児童生徒数÷児童生徒数×100
教育相談最終率	88.7%	86.4%	79.1%	最終数/相談実件数×100
適応指導教室から学校へ の復帰率	100%	100%	100%	学校復帰した人数/入級者×100

◎教育委員会の施策評価

平成25年度の教育センターの教育相談延べ回数は5,935回と、前年度より2,764回も多くなっている。これは、児童生徒が抱える問題が長期化していることと、不登校に関する相談件数が今まで以上に多くなったからである。教育センターでは、学校やさわやか相談室等と連携し、これらの相談を一つ一つ丁寧に対応することで問題を解決できた。特にコミュニケーションを苦手としている不登校児童生徒にとって適応指導教室での活動は、一人一人の状態に合わせ、指導員・教育心理専門員が計画的に指導・支援を行うことで、その後の学校復帰に繋がった。教育相談の最終率は、前年度より低くなったが、原因は、年度末での新規の教育相談や継続相談が多かったためであり、約8割が最終していることから、教育相談が順調に機能しているといえる。いじめホットライン・ホットメール相談では、新規事業であるが、迅速・丁寧に対応するとともに、学校と連携することで早期解決に至った。

今後も、不登校を出さないため、また、不登校になってしまった児童生徒を学校復帰させるため、教育センターでの教育相談機能の一層の充実を図っていく。また、同時に学校、家庭、教育センターの連携を進めながら学校適応指導教室をより有効に機能させていく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
教育相談最終率	79.1%	81%	83%

学識経験者の意見	◇ 学習障害・発達障害については、いっそう大きな問題となりつつあるが、それらの研究も進められている。学校現場の管理職および先生方が最新の知見に関する報告などに接する機会を増やし、該当児童・生徒たちへの適切で適時的な指導ができる体制の整備が求められていると考える。
	◇ 不登校は、学校における永遠の課題になりつつある。20年ほど前から「大人の関係性の問題」が指摘されてきた。心地よい人間関係を作ることの苦手な大人に育てられた子供たちは、学校に不適應を起こしても不思議ではない。この分野も大きなくりの「社会的子育て支援」の一環ととらえるべきかもしれない。専門家の力を大いに活用し、地道に継続を。
	◇ 教育相談の体制は整えられている。適応指導教室の復帰率100%を継続しつつ、適応指導教室に來られていない方たちをどうフォローしていくのか、適切な相談が受けられていないということがないよう、きめ細やかな対応に努めていく必要がある。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 学校保健の充実

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明	
「早寝 早起き 朝ごはん」調査	起床時間 7時までに起きる	小学校	96.0%	96.5%	96.1%	「早寝 早起き朝ごはん」調査（各年度4月調査）
		中学校	83.8%	83.4%	85.0%	
	就寝時間 10時までに寝る	小学1年	96.5%	97.5%	95.9%	
		小学2年	93.2%	95.0%	94.0%	
		小学3年	89.5%	90.3%	91.0%	
		小学4年	81.9%	83.8%	81.6%	
		小学5年	77.3%	73.5%	72.2%	
		小学6年	64.4%	62.6%	58.3%	
	就寝時間 11時までに寝る	中学1年	82.6%	78.9%	82.9%	
		中学2年	54.3%	51.8%	49.5%	
中学3年		31.9%	31.5%	30.4%		
DMF保有数	小学校	0.41本	0.36本	0.28本	※DMF保有数・・永久歯一人平均むし歯経験歯数	
	中学校	1.23本	1.29本	1.11本		
	平均	0.68本	0.67本	0.56本		

◎教育委員会の施策評価

各学校では、子ども達の生活リズムの改善、基本的な生活習慣を培うこと、健康の保持・増進等を実践するため、学校保健計画を作成し、家庭・地域・関係機関との連携を図りながら、学校保健活動を行っている。平成25年度も学校保健委員会を各学校で複数回開催し、学校保健活動の充実を図っている。食物アレルギーについては、学校と保護者や主治医とが連携し、対象児童生徒のもつアレルギーに関する情報やアレルギー症状発生時の対応策などについて、情報を共有するよう努めている。また、各学校では、これらの情報をもとに、アレルギー対応に関する対策や実戦的な対処法についての研修等を実施している。定期健康診断は、全ての小・中学校で計画的に実施されており、疾病の早期発見・治療に努めている。特に「歯・口の健康づくり」においては、児童一人あたりのDMF保有数も低下してきている。また、県の歯科保健コンクールへの参加校も増えており、入賞校も増えている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標	
起床時間 7時までに起きる	小学校	96.1%	96.5%	97.0%	
	中学校	85.0%	85.5%	86.0%	
就寝時間	10時までに寝る	小学校	82.2%	83.0%	83.5%
	11時までに寝る	中学校	54.2%	55.0%	55.5%
DMF保有数	小学校	0.28本	小・中学校平均0.50本未満		
	中学校	1.11本			
	平均	0.56本			

学識経験者の意見	◇ DMF保有者の比率が確実に減少していることなどに、家庭・地域との連携の成果が表れていると思われる。とくに保護者への啓発活動が効果的であるので、今後とも、家庭との連携のあり方などに工夫を重ねていく必要がある。
	◇ 中学生になると親や教師の指導が入りにくくなるのは、成長の過程として当然であるが、成長とともに、自らの体や健康に関心を持ち、自分で管理できるように指導していきたい。
	◇ 教職員のメンタル面での指導を強化する必要がある。教職員は、子ども達たちとの関係だけでなく、保護者や地域の方々との関係、教職員同士との関係性で悩むことも多いと伺っている。子ども達とはいつも心身とも健康な状態で相対できるよう、サポートが必要である。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策6 食育の推進・学校給食の充実

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明	
朝ごはんを必ず食べる	小学校	1年	97.5%	97.2%	98.3%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査（各年度4月調査）
		2年	95.0%	96.9%	96.0%	
		3年	95.3%	95.1%	96.8%	
		4年	96.4%	95.4%	95.7%	
		5年	96.0%	94.5%	96.9%	
		6年	96.6%	96.2%	96.3%	
		平均	96.1%	95.9%	96.7%	
	中学校	1年	96.7%	94.9%	96.7%	
		2年	93.0%	92.5%	92.8%	
		3年	91.1%	92.7%	90.4%	
		平均	93.6%	93.4%	93.3%	

◎教育委員会の施策評価

子ども達の朝食欠食や偏食などが、指摘されているが、特に成長期にある子ども達にとっては、重要なものである。そこで、学校と家庭が連携しながら子ども達に、生活リズムの改善とともに、望ましい食習慣を身に着けさせるよう努めている。さらに、栄養教諭・栄養職員とのチーム・ティーチングによる食に関する指導の充実がなされている。栄養教諭配置校は平成25年度に11校に増えて、さらなる充実が図られている。平成25年度も「早寝・早起き・朝ごはん運動」に取り組み独自に作成したチャレンジカードを子ども達に取り組みせたり、栄養教諭等がエプロンシアターで指導するなど、工夫を凝らしながら取り組むとともに、保護者への啓発にも取り組んでいる。また、学校における食育推進者の指導力を向上させるため、研修の充実が必要である。本市では、学校ファームが設置されており、平成25年度も児童生徒が栽培体験に取り組み、環境や食物に対する理解を深めることができた。また、地産地消の一環として、市内で収穫されたお米や市内清酒会社の酒粕を使用した献立を取り入れた給食を実施している。生産者の顔が見える地場産米や地場産野菜等の使用は、食材に対する認識を深め、食育を推進する役割を果たしている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
朝ごはんを必ず食べる	小学校	96.7%	97.5%	98.0%
	中学校	93.3%	94.0%	94.5%

学識経験者の意見

- ◇ 朝食摂取の有無は、保護者の子育てへの余裕の有無による部分があるとも指摘される。子どもの家庭環境に関する情報にもなる。数値目標も意味があるが、子どもの生活実態を知る手がかりとしての意味もあると思われる。
- ◇ 食育が家庭教育から学校教育に大きく比重が移ってから久しい。学校からの発信により、家庭に大きな影響を与え、これだけの成果を上げたことを評価したい。地産池消を学校給食で実践したことは、生産者にとっても消費者にとってもその意義は大きい。
- ◇ 食育の視点から、さまざまな工夫がなされ、楽しい学校給食への取り組みがなされている。アレルギーのある子どもへの対応など、安心安全な給食に引き続き努めていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
3 教育に関する3つの達成目標 推進事業	510	A	教育に関する3つの達成目標 全小・中学校全年 学力の達成率（読む・書く・計算）	94.5%	94.6%	93.9%	
			規律ある態度80%達成項目数	99項目 / 108項目	103項目 / 108項目	105項目 / 108項目	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	78.9%
			中学校	84.9%	85.5%	84.7%	
4 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英 語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3
			教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）		80.1%	76.4%	77.4%
23 中学校部活動支援事業	3,028	A	部活動指導員配置率		78.9%	81.8%	90.1%
			運動部活動加入率		74.2%	75.0%	74.1%
33 児童生徒体力向上推進事業	3,645	A	運動部活動加入率		74.2%	75.0%	75.5%
			教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）		80.1%	76.4%	77.4%
			新体力テスト 総合評価 上位3ランク （ABC） の児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	78.8%
				中学校	84.9%	85.5%	84.6%

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
新体力テスト 総合評価 上位3ランク （ABC）の 児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	78.9%	5ランク中上位3ランクの児童生徒の割合
	中学校	84.9%	85.5%	84.7%	

◎教育委員会の施策評価

児童生徒の体力向上については、児童生徒の体力低下が懸念される中、本市においても児童生徒の体力向上を目指し、様々な取組を行った。具体的には、小学生ドッジボール大会、上尾市なわとび大会、市民駅伝に向けて、各校で計画的に練習に取り組み、大会で成果を発揮することができた。また、体育授業の充実に向けて、大学から講師を招聘し、体育授業の指導方法を深めることができた。

小学校体育連盟と中学校体育連盟では、各種大会に向けて、練習に取り組み、好記録、好成績を収めることができた。また、授業改善に向けて研究協議会を開催し、体育授業力向上に努めることができた。

中学校では、スポーツにおいて高い技能、知識を持つ部活動指導員を配置することで、教員による指導を補うことができ、部活動の充実を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
新体カテスト 総合評価 上位3ランク（ABC）の 児童生徒の割合	小学校	78.9%	80.0%	80.0%
	中学校	84.7%	85.0%	85.0%

学識経験者の意見

- ◇ 部活動指導員の配置は大変効果的だと思われる。特に先生方の年齢構成がアンバランスになる学校が増える傾向があるので、適切な配置が求められると考える。
- ◇ 児童生徒の体力低下は全国的な傾向で、便利な生活のつけともいえる。その中で、上尾市の結果は、様々な取り組みの成果と考えられる。中学校において新体カテスト上位ランクの生徒の割合が高いのは熱心な部活動の指導や部活動指導員の充実が大きな要因である。
- ◇ 限られた授業時間の中で、学校だけでの対応は難しい。日常生活の中で取り組むことが大切であることから、生涯学習と連携を図りながら、家庭へのアプローチや家族で取り組むことの出来るようなプログラムの紹介など、機会の提供に努めたい。

〔 芝川小学校 〕



〔 上尾小学校 〕



基本目標Ⅲ

安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上

施策2 学校経営の改善・充実

施策3 学校施設・設備の整備・充実

施策4 学校のICT化の推進

施策5 学校安全の推進

施策6 就学支援の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
22 指導法改善事業	10,562	A	指導の重点努力点 配布数	942冊	965冊	974冊
			研修会実施数	44回	44回	44回
			市学力調査 平均値	小学校 52.4	51.8	51.9
			中学校 50.7	50.3	50.3	

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
指導の重点努力点 配布数	942冊	965冊	974冊	小・中学校教職員への配布数
研修会実施数	44回	44回	44回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算 数（数学）・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.7	50.3	

◎教育委員会の施策評価

埼玉県教育委員会及び上尾市教育委員会主催の各種研修会や各学校の校内研修を積極的に進めることにより、教職員の資質・能力の向上を図ることができた。ライフステージに応じた研修や専門研修の開催、また、勤務時間外に自ら進んで参加する教師力アップ講座と題した教科等の指導方法研修やICT活用研修など、ニーズに応じた研修も実施することができ、優れた指導力と使命感を備えた教職員の育成とともに、学校の教育力の維持向上につながった。

デジタル教科書の配備も進み、創意工夫のある魅力的な授業を展開することができ、学力の向上に役立った。また、上尾市の指導の重点・努力点を作成し、全教職員へ配布することで、市の教育方針を共通理解・共通実践することができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の平均値	小学校	51.9	52.0	52.3
	中学校	50.3	50.5	50.8

学 識 経 験 者 の 意 見	◇ 教室におけるICT技術と利用法の普及は、教授法の改善の大きな柱となると考える。今後とも研修などの充実が期待される。
	◇ 教職員の年齢構成が、ここ数年で大きく変化している。経験の浅い教員の数が増加しているが、使命感に燃え、意欲的に研究や修養に努める教師は、やがて上尾教育の大きな推進役となることを確信している。日本の教師の勤務時間は世界一長いといわれている。今後負担過重にならないよう配慮をしつつ継続していただきたい。
	◇ 教職員の資質・能力の向上のため、各種講座が実施されている。現状として“早朝から遅くまで忙しい先生”という印象はぬぐえない。児童・生徒と向き合うことのできる先生であってほしい。研修や講座の成果を子ども達に還元されるよう期待したい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
4 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	上尾市学力調査の 国語・算数(数学)・英語の 平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3
			教育に関する3つの 達成目標 体力(運動習慣)	80.1%	76.4%	77.4%	
22 指導法改善事業	10,562	A	指導の重点努力点 配布数	942冊	965冊	974冊	
			研修会実施数	44回	44回	44回	
			市学力調査 平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3
34 学校評議員制度運営事業	590	A	学校評議員会議開 催回数	3.30回	3.21回	3.30回	
			学校評価に対する 意見聴取回数	1.82回	1.84回	2.30回	
35 元気な学校をつくる 地域連携推進事業	438	A	学校応援団員数	10,434人	9,510人	6,918人	
			学校応援団活動日数	9,029日	8,892日	9,751日	

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.7	50.3	50.3	
教育に関する3つの達成目標 体力(運動習慣)		80.1%	76.4%	77.4%	週1～2回以上は1時間以上運動すると回答した児童生徒の割合
研修会実施数		44回	44回	44回	指導課主催の研修会総数
学校評価に対する意見聴取回数		1.82回	1.84回	2.30回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数
学校応援団活動日数		9,029日	8,892日	9,751日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の施策評価

学校経営の改善・充実については、各学校において、学校評議員会の開催回数が増加し、学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取の回数が増加した。各学校で学校評議員制度の活用が図られたことにより、開かれた学校づくりの推進につながった。

学校応援団については、学校応援団員数は減少したが、活動日数は増加している。すべての小・中学校で学校応援団が整備されており、安心安全、学習支援、環境整備、体験活動等の活動に応援団員が参加している。家庭・地域の力を活用した学校応援団の活動の推進により、各学校において一層の教育活動の充実を図ることができた。

学校・家庭・地域が一体となった教育活動が展開されるとともに、指導方法の工夫改善についての研究を各学校が取り組むことにより、質の高い教育活動を推進することができ、上尾市学力調査の市の平均値は、全国平均を上回った。

毎月の校長会議、教頭会議においては、会議開始前の時間を学校経営、学校運営、教育活動に関するさまざまな情報、諸課題を中学校区内の小・中学校において、共有するための情報交換の時間とした。中学校区の小・中学校間で共通理解が図られ、連携強化を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
上尾市学力調査の国語・算数 (数学)・英語の平均値	小学校	51.9	52.0	52.3
	中学校	50.3	50.5	50.8
教育に関する3つの達成目標 体力(運動習慣)		77.4%	80.0%	82.0%
学校評議員会議開催回数		3.30回	4.00回	4.00回
学校応援団活動日数		9,751日	10,000日	10,000日

学識経験者の意見

- ◇ 学校応援団の参加者数が減少傾向にあるが、活動内容については活性化が進められているようである。地域との連携の大きな柱として今後とも拡充することが望ましい。
- ◇ 学校経営の外部評価は、学校にとっても大きな励みとなっている。学校応援団の組織も地域によっては、少子化や高齢化等により、人材確保が困難になっていると聞く。地域の実態に応じて、活動内容の精査等も必要になるのではないか。
- ◇ 学校は、子ども達のための学校であると共に、地域コミュニティの場としての機能も重要であり、学校と地域の相互協力体制が確立することにより、学校教育の活性化、家庭・地域の教育力の向上が期待できる。「特色ある開かれた学校づくり」を進めているが、それぞれの地域性を生かした運営をさらに進めていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名		平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
				評価指標	23年度	24年度	25年度	
7	準教科書・副読本整備事業	13,846	A	道徳副読本整備状況	67%	100%	100%	
				体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
				保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	
				社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
20	小中学校図書整備事業	27,658	A	増加冊数	小学校	13,272冊	12,399冊	10,745冊
					中学校	6,959冊	5,783冊	6,029冊
				廃棄冊数	小学校	43,153冊	4,023冊	625冊
					中学校	17,848冊	497冊	519冊
				年度末現有冊数	小学校	174,740冊	181,400冊	193,011冊
					中学校	103,677冊	106,119冊	111,629冊
				図書標準目標達成率	小学校	78.1%	83.7%	89.3%
					中学校	72.1%	74.3%	77.4%
36	小中学校教育教材整備事業	35,194	A	小学校の児童1人当たりの支出額	1,672円	1,678円	1,614円	
				中学校の生徒1人当たりの支出額	2,356円	2,724円	2,418円	
				備品購入費（小学校）	26,662千円	26,591千円	19,758千円	
				備品購入費（中学校）	17,299千円	17,297千円	15,435千円	
37	小中学校校舎改築事業	1,473,461	A	富士見小学校校舎改築 工事出来高率（%）	100%	—	—	
				中央小学校南校舎改築 工事出来高率（%）	実施設計	20%	100%	
				上尾中学校校舎改築工事	—	基本設計 耐力度調査	実施設計	
				改築事業完了校累計数	1校/3校	1校/3校	2校/3校	

◎施策の成果指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
図書標準目標達成率	小学校	78.1%	83.7%	89.3%	現有冊数／標準冊数×100
	中学校	72.1%	74.3%	77.4%	現有冊数／標準冊数×100
校舎耐震化率		小学校 87.5% 中学校 62.5% 平均77.5%	小学校 94.4% 中学校 79.1% 平均88.3%	小学校 100.0% 中学校 93.7% 平均97.4%	平成24年度まで対象棟数120棟 平成25年度から対象棟数119棟
改築事業完了校累計数		1校 / 3校	1校 / 3校	2校 / 3校	改築事業校（富士見小・中央小・上尾中）

◎教育委員会の施策評価

学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす活動の場であり、また災害時には地域住民の避難場所となるため、学校施設の安全性の確保は最優先課題でもあることから、積極的に耐震化を図り、平成25年8月末に中央小学校南校舎の改築工事が竣工し、耐震補強工事も改築事業の上尾中学校を除き、平成25年度末までに完了している。上尾中学校についても、実施設計が完了し、平成26年度、27年度の改築事業竣工に向けて、順調かつ計画的に事業展開をしている。

また、トイレのリニューアル化も上尾中学校改築工事を除き、平成25年度末までに完了し、健康管理や心の育成に寄与している。

学校図書においては「学校図書館図書標準」の達成を目標として、今年度も例年同様、着実に蔵書数を増やすことができた。今後は図書購入だけでなく書架購入や図書室スペース確保などにも気を配り、積極的に図書整備を推進していく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
図書標準目標達成率	小学校	89.3%	94.6%	100%
	中学校	77.4%	81.2%	85.8%
学校施設の耐震化率		97.4%	97.4%	100.0%
改築事業完了校累計数		2校 / 3校	2校 / 3校	3校 / 3校

学識経験者の意見

- ◇ 学校は災害時、児童・生徒のみならず、地域住民の避難場所として重要な施設となっていることから、耐震対策については確実な対策が求められている。
- ◇ どの自治体も財政難にも関わらず、上尾市においては、細部にわたり、きめの細かい整備が進められている。それを受ける側も備品に対する管理等を徹底していきたい。
- ◇ 子ども達が安全で安心して、学校で生活できるよう、施設整備を進める必要がある。校舎の耐震化だけでなく、避難場所となる体育館の非構造部材の耐震化やバリアフリー化もあわせて、計画的に進める必要がある。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
22 指導法改善事業	10,562	A	指導の重点努力点 配布数	942冊	965冊	974冊	
			研修会実施数	44回	44回	44回	
			市学力調査 平均値	小学校	52.4	51.8	51.9
				中学校	50.7	50.3	50.3
38 小中学校コンピュータ 整備事業	124,925	B	教育用パソコン設置台数	1,453台	1,453台	1,456台	
			校務用パソコン設置台数	1,086台	1,080台	1,096台	
			教育用パソコンの目標達成値 (児童生徒3.6人に1台)	13.2人に1台	13.0人に1台	12.8人に1台	
39 小中学校電子黒板整備事業	4,620	A	電子黒板ユニット 設置必要台数(小学校)	539台	513台	516台	
			電子黒板ユニット 設置必要台数(中学校)	258台	255台	254台	
			大型テレビ設置台数(小学校)	487台	487台	489台	
			大型テレビ設置台数(中学校)	117台	117台	137台	
			電子黒板ユニット設置台数 (小学校)	128台 (157台)	66台 (223台)	66台 (289台)	
			電子黒板ユニット設置台数 (中学校)	22台 (48台)	22台 (70台)	22台 (92台)	
			電子黒板ユニット設置率 (小学校)	29.1%	43.4%	56.0%	
			電子黒板ユニット設置率 (中学校)	18.6%	27.4%	36.2%	

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
電子黒板ユニット設置率 (小学校)	29.1%	43.4%	56.0%	ユニット設置総数/設置必要台数
電子黒板ユニット設置率 (中学校)	18.6%	27.4%	36.2%	ユニット設置総数/設置必要台数

◎教育委員会の施策評価

教育用パソコンに関しては、小学校においてコンピュータ教室にある児童用パソコンをタブレット端末に入替した。タブレットを導入したことにより、コンピュータ教室だけでなく普通教室に持ち込むことが可能となり、大型テレビとの有線接続によって新たな形のデジタル化された授業が展開されるようになった。

タブレット導入により必要性が高まった大型テレビに関しては、今年度、追加導入することができなかったが、平成26年度において小中学校全普通教室への大型テレビ設置が100%となる予定である。これにより、小中学校全普通教室においてデジタル教科書、タブレット、大型テレビが使用可能となる。

さらに今後は、それらデジタル教材、デジタル機器を最大限に活用できる無線LANの構築を目指すべきである。それにより、さらなる学校のICT化が推進され、子ども達への授業の形も多様化され、質の高い学校教育の推進の一助となる。

指導法改善においては、導入の進んだデジタル教科書のさらなる活用方法やタブレット端末の積極的活用を推進するためのICT活用研修会の実施、道徳教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の幅を広げることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
大型テレビ設置台数	小学校	489台	516台	516台
	中学校	137台	254台	254台
大型テレビ設置率	小学校	94.7%	100%	100%
	中学校	53.9%	100%	100%

学識経験者の意見

- ◇ ICTを利用した学習指導には、無線LANの環境整備が大きなポイントなるので、積極的な整備に期待する。
- ◇ 次々に導入される新しい教育機器の活用が、否応なく要求されている。次世代を生きる子供たちにとって、後戻りはできず、不可欠のものであるに違いない。しかし、学力の定着という観点からの検証を合わせて実施されたい。
- ◇ 情報化社会のなかで、子ども達に対する情報教育も重要性を増している。そうした現状に対応するため、学校のICT化の充実を早急に図る必要がある。ICTを活用した授業の効果を検証しながら、計画的に進めていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
40 児童生徒安全推進事業	24,082	A	新規防犯ブザー貸与数	2,150人	2,160人	2,210人
			スポーツ振興センター災害共済加入負担金	17,965千円	17,650千円	17,448千円
			全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	—	—	100%
41 学校安全パトロールカー事業	3,208	A	月あたりパトロール回数	15.2回	15.6回	15.3回
			登下校時の 児童生徒事故交通件数	15件	13件	4件
42 通学路安全対策事業	8,264	A	危険箇所改善要望 箇所数	160箇所	168箇所	164箇所
			学校管理下での児童 の交通事故件数	5件	7件	1件
			安全対策実施箇所数	—	—	14箇所

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
登下校時の交通事故件数	15件	13件	4件	
学校管理下での児童の交通事故件数	5件	7件	1件	

◎教育委員会の施策評価

登下校時に児童生徒が巻き込まれる交通事故が絶えない状況であるが、子ども達の安全確保のため、各学校に配置されたスクールガードリーダーを中心に、PTA、学校応援団、各地域の防犯ボランティアの皆様などの協力により、登校時の立哨指導を行うとともに、各学校において、関係団体と情報交換しながら連携を図り、地域ぐるみで子ども達を見守る体制づくりを進めることができた。また、児童生徒が事件に巻き込まれないよう、小中学校の下校時に合わせてた立哨指導、市職員および地域住民により、学校安全パトロールカーの運行を行うとともに、防犯ブザーの貸与などを行っている。平成25年度から、各学校の教職員を対象に消防署の協力により応急手当普及員資格を取得する講習会を開催し、各学校が実施する普通救命講習の開催にあたり、各学校が主体的に関わり、より多くの知識・技術を取得した。

通学路安全対策事業は、平成25年度から実施した事業で、市PTA連合会からの通学路改善要望をもとに、改善箇所を抽出し、関係各課と連携し、通学路危険箇所の改善を進めた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
登下校時の交通事故件数	4件	0件	0件
学校管理下での児童の交通事故件数	1件	0件	0件

学識経験者の意見

- ◇ 地震や火山活動の活発化がみられることから、関東地方の深刻な自然災害の発生可能性が高まっていると考えるべきである。継続的な啓発活動とともに、施設・設備の整備に努めるべきである。
- ◇ 上尾市の地域住民の子どもに対する意識が高く、地域の協力を感謝したい。感謝の手紙は、地域ボランティアにとって大きな喜びである。
- ◇ 登下校時の事故件数が減っていること。学校応援団等の活動により、地域で見守る意識が少しずつ定着している成果と感じる。「学校安全パトロールカー事業」も地域の安全に対する意識啓発にも役立っていると思う。通学路の安全対策については、25年度からということだが、要望に対する改善率アップに早急に努める必要がある。危険箇所の情報を保護者や地域と共有することも重要だろう。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
6 日本語指導職員派遣事業	2, 512	A	派遣職員数	9人	12人	13人	
43 入学準備金・奨学金貸付事業	5, 183	A	貸付件数	11人	11人	17人	
			高校進学率	98.1%	98.2%	98.9%	
44 小中学校就学援助費補助事業	49, 279	A	就学援助申請人数	1, 589人	1, 615人	1, 693人	
			就学援助認定割合	95.7%	97.8%	95.6%	
47 準要保護児童生徒給食費援助事業	68, 624		就学援助申請割合	8.3%	8.6%	9.1%	
45 小中学校特別支援教育就学 奨励事業	5, 484	A	奨励費申請書 の配布・回収	小学校	100%	100%	100%
				中学校	97%	100%	100%
			奨励費受給者 の割合	小学校	94%	90%	94%
				中学校	86%	93%	85%
46 要保護児童生徒医療費援助事業	507	B	医療券交付人数	52人	54人	69人	
			医療券使用人数	15人(3人)	16人(1人)	31人(2人)	
			医療券使用人数割合	29.0%	29.6%	44.9%	

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
—	—	—	—	

◎教育委員会の施策評価

社会の様々な状況の変化に伴い、経済的に困窮する世帯や日本語の理解が十分できない外国人児童生徒等が増加している中、市町村は、経済的な格差によらない義務教育の円滑な実施を行うことが求められており、スムーズな就学を図る必要がある中、進学及び就学に対する経済的・人的な援助は効果的な取組と判断できる。すべての家庭が安心し、子供が必要な教育を受けられるよう就学支援の充実に、引き続き努める必要がある。なお、主に経済的支援の施策については、何をもって成果とするかを定めることが困難であるため、数値目標は設定しないこととする。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
—	—	—	—

学
識
経
験
者
の
意
見

- ◇ 経済状況の悪化および雇用の不安定化などから、経済的に不安を抱える家庭の増加が確実である。また貧困率が悪化しているとする政府統計も出されている。子ども達が安心して学習活動ができるように最大限の努力が求められている。
- ◇ 通常の学級に在籍している特別支援対象者への支援はとてもありがたいと思う。一方、手厚い特別支援教育が用意されている特別支援学級への適正な就学指導を一層お願いしたい。
- ◇ 経済的理由で進学を断念することのないよう、支援が必要なすべての方に支援を受けられるよう、今後も努めていただきたい。

基本目標Ⅳ

学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

施策2 家庭教育の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
35 元気な学校をつくる地域連携 推進事業	438	A	学校応援団員数	10,434人	9,510人	6,918人
			学校応援団活動日数	9,029日	8,892日	9,751日

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校応援団員数	10,434人	9,510人	6,918人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動日数	9,029日	8,892日	9,751日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の施策評価

平成25年度より、市内全小・中学校に学校応援団コーディネーターが配置され、学習指導、安心安全、環境整備、体験活動、部活動、生徒指導、環境教育、学校ファームに係る活動において、一層の充実を図ることができた。特に、学校・家庭・地域が連携したユニークな取組としては、「学校が元気！家庭が元気！地域が元気！」を合言葉に「歯と口の健康づくり」について取組んだ学校が、その実践が認められて「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞した。また、郷土体験学習を教育計画に位置付け、学校応援団を指導者として招き、学校全体で取り組み、地元の伝統芸能や食べ物等を伝える学習に取り組んでいる学校もある。さらに、学校ファームに積極的に取り組み、指導者は学校応援団で、近隣の幼稚園や保育所と作物の植え付け・収穫などを合同で行っている。生活科の授業、学区探検、昔の道具についての学習、図画工作での釘の打ち方、パソコンの使い方、手縫いの仕方等で学校応援団に学習支援を依頼する学校も少なくない。協力して頂いた学校応援団の方々には、子供たちからお手紙等で感謝の気持ちを伝え、交流を図っている。

平成25年度の学校応援団加入者の事故や怪我はなく、学校応援団活動日数が、昨年の8892日から9751日と増加し、学校の教育活動を活性化する推進力となった。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
学校応援団活動件数	9,751件	10,000件	10,000件

学識経験者の意見

- ◇ 地域ボランティアの方は、学校の応援に参加していることを誇りにしており、生き甲斐にしているということ聞いたことがあり、双方により効果をもたらしていると考え。
- ◇ 「元気な学校を作る地域連携推進事業」は地域の教育力を高める上で大切な事業となっている。応援団の団員数が減っており、一人ひとりの負担が大きくなっていることが懸念される。生涯学習の面でも、学習の成果を地域に生かす場として、さらに活用されるべきである。生涯学習の側面からの支援方法も検討する必要がある。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策２ 家庭教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
48 家庭教育推進事業	490	B	家庭教育講演会開催数	1回	1回	1回
			家庭教育に関する講座等 委託団体数	4団体	6団体	5団体
			家庭教育に関する講座・ 講演会参加者数	1,426人	1,552人	1,333人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
家庭教育に関する講座・ 講演会参加者数	1,426人	1,552人	1,333人	委託団体開催講座・家庭教育講演会の 参加者数の合計

◎教育委員会の施策評価

家庭の教育力の向上を図るため、子育て中の親に対して家庭教育に取り組めるよう、家庭教育推進事業をPTAなど保護者組織と連携を図りながら実施した。この事業により、市PTA連合会による家庭教育行動指針の啓発活動や幼稚園保護者会による家庭教育に関する講演会、市PTA連合会と共催による家庭教育講演会を開催することができた。

また、埼玉県で作成した「親の学習プログラム」等について、各学校やPTA等が活用できるよう、情報提供に努めた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
家庭教育に関する講座・ 講演会参加者数	1,333人	1,500人	1,500人

学識経験者の意見

- ◇ 家庭に教育力の低下が叫ばれて久しいが、今の子供の親世代は、社会的に一番厳しい状況に置かれていることが多く、生活することが精いっぱい、あまり余裕がないようである。地道に取り組んでいきたい。
- ◇ 「家庭教育行動指針」の啓発リーフレットを配布するなど工夫して周知に努めている。PTA等との連携を深め、親を対象とした学習の機会を増やすなど、きめ細やかな学習機会の提供を検討する必要がある。

基本目標Ⅴ

生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実

施策2 生涯学習施設の整備

施策3 生涯学習機会の提供

施策4 人権教育の推進

施策5 図書館運営の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策1 生涯学習体制の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			23年度	24年度	25年度	
49 生涯学習指導者活動推進事業	1,165	B	市民講座（実施講座数）	28講座	51講座	37講座
			市民講座（参加者数）	464人	617人	429人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	124人	92人	105人	各年度末

◎教育委員会の施策評価

生涯学習や社会教育に関する情報については、公民館や生涯学習課で情報を収集し、市民への提供を随時行ってきた。また、学習グループへの支援を目的として、まなびすと指導者バンクや市政出前講座の運営を行い、市民が学習する際に必要な指導者情報の提供システムを確立し、安定して情報の提供を行うことができている。また、平成25年度は、まなびすと指導者バンクハンドブックを作成して配布を行い、情報提供の幅を広げることができた。

まなびすと指導者バンクについては、平成25年度に要綱を改正して、情報提供の方法の改善を行うとともに、登録者の増加を図ることができた。一方で、市政出前講座については、依然として消防・救命分野に偏りがあり、全般的に利用が減少しているが、学習機会の提供手法の1つとして確保しているという点において評価していきたい。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
まなびすと指導者バンク登録者数	105人	110人	110人

学 識 経 験 者 の 意 見	◇ 市民講座のメニューについては、市民の年齢構成の高齢化に対応してきめ細かなニーズ調査が必要であろう。開催要件を満たさない講座数を減らすための適切な調査体制の工夫が求められる。
	◇ 公民館の講座の多くは、抽選になるなど応募数が大変多いと聞く。用意された講座の内容が市民のニーズと差があるのかもしれない。公民館講座とのタイアップ等考えてもよいのではないだろうか。
	◇ 「生涯学習指導者活動推進事業」は、「学んだ成果の活用」のため重要な事業である。行政の他部署や学校、地域との連携を図りながら、実施する講座や講師情報など、情報提供の仕方を工夫するとともに、活用の場の確保についても引き続き取り組んでいただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
50 学校施設開放（生涯学習）事業	1,593	A	利用団体登録	42団体	71団体	88団体
			利用件数	409件	672件	759件
			利用者数（延べ人数）	4,445人	7,676人	7,677人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
利用者延べ人数	4,445人	7,676人	7,677人	

◎教育委員会の施策評価

文化センターに併設される上尾公民館を除く5公民館については、建設から20年を超えており、一部設備については更新の必要性があるが、緊急性の高いものから随時修繕等を行い、安全で快適な公民館の運営をすることができた。公民館の利用率は、講座室・体育室については比較的高いが、調理室については利用率が低いというように、利用施設によって利用率の開きがある。調理室については利用率は低いですが、生涯学習活動の幅を広げる施設の1つであり、自主事業の実施などを行いながら、施設の活用を図ってきた。

また、学校施設開放については、平方東小学校、芝川小学校、富士見小学校の3校で実施しているが、平成24年に新規開放をした富士見小学校の利用が多く、利用者数の伸びはないものの、利用件数は昨年よりも多くなっており、生涯学習の場の提供活動として、大きく貢献しているものと考えられる。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
利用者延べ人数	7,677人	8,000人	8,000人

学識経験者の意見	◇ 市民の自発的な学習活動を支えるためにも、いっそうの整備が求められている。
	◇ 利用施設によって利用率の開きがあることは、地理的条件や施設の内容によって致し方がないことである。学校施設の開放は、認知度が低いのではないだろうか。他の施設と同じように、ネット予約が可能となると良いと思う。
	◇ 生涯学習施設の整備については、既存施設の老朽化などに伴う計画的な整備が必要である。学校施設の開放は、生涯学習施設の補填という意味だけでなく、学校サイドや子ども達への生涯学習意識の啓発も期待される。学校や地域との連携を図りながら、さらに進めていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
49 生涯学習指導者活動推進事業	1,165	B	市民講座 （実施講座数）	28講座	51講座	37講座
			市民講座 （参加者数）	464人	617人	429人
51 成人式事業	1,049	A	成人式対象者	2,144人	2,099人	2,247人
			成人式参加者	1,593人	1,533人	1,600人
			参加率	74.30%	73.03%	71.21%
52 子ども大学推進事業	60	A	応募者数	129人	94人	69人
			参加者数	60人	62人	69人
53 公民館講座事業	3,361	A	講座数	136講座	130講座	136講座
			講座参加者数	10,104人	10,549人	11,427人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
公民館講座参加者数 （延べ人数）	10,104人	10,549人	11,428人	公民館まつりを除く

◎教育委員会の施策評価

生涯学習機会の提供については、公民館講座事業を基幹的な事業として位置づけ、市民の多様なニーズに応じる形で幅広い内容の事業を安定的に実施することができた。講座数、参加者共にほぼ例年どおりの実施状況となっている。

また、地域の大学と連携した小学校4年生から6年生対象の子ども大学や、学んだ成果を活かすまなびすと指導者バンク活動推進会議による市民講座といった、学習機会の提供も行っており、学ぼうとする市民の意欲に対応する事業が展開できた。

子ども大学については、周知方法を抑制したところ、希望者全員が参加できる状況となった。しかし、潜在的な参加希望者が多いことから、事業の拡大の必要があると考えている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
公民館講座参加者数（延べ人数）	11,428人	11,000人	11,000人

学識経験者の意見	◇ 新たな試みである「子ども大学」などの取り組みは、期待以上の反応があるようである。制限するのではなく、拡充する方向で関連組織や団体あるいは個人の協力を得る方向で拡充できればよいのではないかと。
	◇ 生涯学習を推進するためには、学習へのきっかけづくりが重要です。現在、公民館や図書館はじめ、さまざまな部署、民間も含めて多くの講座が実施されていることから、それらの情報を一元的に提供すること、さらに学習のきっかけづくりのための学習相談窓口の充実など図る必要がある。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
54 人権教育推進事業 （生涯学習課所管分）	1,037	A	人権標語作品応募点数	18,705点	18,867点	19,203点
55 人権教育集会所運営事業	1,685	A	人権教育集会所主催事業 参加者数	491人	614人	711人
			人権教育集会所利用者数	26,869人	26,774人	25,491人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
人権教育集会所利用者数	26,869人	26,774人	25,491人	

◎教育委員会の施策評価

現在も、様々な形での人権問題が生じている中で、差別のない社会の実現と充実した人権教育を行うため、人権教育推進協議会及び人権教育集会所運営委員会で協議された内容をもとに積極的な人権教育の推進を図っている。

身近な人権問題を考える契機としての、市民向け人権問題研修会や職員を対象とした人権問題研修会のほか、全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施するなど、人権意識の高揚を図る事業を実施することができた。

人権教育の拠点施設である人権教育集会所では、市民の人権意識の高揚や市民の交流、文化的教養の向上のための主催事業の実施し、幅広い内容の事業を安定的に実施することができた。また、集会所利用者全員を対象とした人権問題指導者研修会を実施し、人権課題の理解を深めることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
人権教育集会所利用者数	25,491人	27,000人	27,000人

学
識
経
験
者
の
意
見

- ◇ 上尾市もグローバル化の進展に伴って、徐々に多民族化していくことが避けられない。マイノリティが孤立しないよう、さまざまな取り組みの工夫が求められている。
- ◇ 人心に余裕がなくなると人権意識が薄れてくる傾向があるらしい。どんな時でも人権意識を持ち続けられるよう取り組んでいきたい。
- ◇ 人権教育・啓発事業は継続的に実施することが重要です。学校や公民館事業、地域活動と連携を図りながら、機会をとらえて取り組みを増やしていくことが重要です。特に子ども達への人権意識の啓発は重要であることから、学習支援にさらに取り組んでいただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	23年度	24年度	25年度	
21 図書館資料整備事業	33,661	A	蔵書数（全9館）	580,537点	580,754点	589,211点	
			蔵書密度（市民一人当たり）	2.56点	2.55点	2.58点	
			図書館利用者数（全9館）	385,539人	440,036人	417,909人	
			総貸出点数（全9館）	1,418,163点	1,455,006点	1,345,988点	
			貸出密度（市民一人当たり）	6.24点	6.39点	5.90点	
25 子どもの読書活動支援センター運営事業	8,179	A	出張おはなし会	—	23回	39回	
			ボランティア養成講座	—	21回	28回	
56 ブックスタート事業	2,617	A	絵本配布回数（健康診査実施回数）	24回	23回	24回	
			配布率	98.2%	99.8%	99.8%	
			0歳～6歳 図書館利用者数	1,698人	2,351人	2,432人	
			児童書・紙芝居貸出点数	児童書	153,654点	152,198点	149,001点
				紙芝居	3,573点	4,140点	4,572点

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
図書館利用者数（全9館）	385,539	440,036	417,909	
蔵書数（全9館）	580,537	580,754	589,211	

◎教育委員会の施策評価

図書館の根幹といえる資料の整備・充実については、多様化・高度化・専門化する市民のニーズに応えるために社会の変化や地域の実情に応じ、広い視野での資料を収集し、迅速な資料提供ができるように努めた。また、県内ネットワークを有効活用し、相互貸借（広域利用）による幅広い資料の活用に努め、質の高い情報提供に努めている。さらに、利用者が必要な情報や問題解決を図るレファレンスサービスを充実させ、きめ細かなサービスの提供に努めた。子どもの読書活動支援センターでは、小中学校、幼稚園で本を巡回させる「あっぴいぶっくるセット本（読み物セット本）」の事業を展開し、学校等から好評を得ている。また、昨年度に引き続き、読み聞かせボランティアの育成と技術力アップを目指して事業を展開した。ブックスタート事業は、絵本の読み聞かせに加え、読書相談なども実施し、読書に親しむ環境づくりを推進した。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
図書館利用者数	417,909	440,000	462,000
蔵書数（全9館）	589,211	595,100	601,000

- 学識経験者の意見
- ◇ 孤立しがちな子育て中の保護者にとっても、図書館での絵本読み聞かせなどは、たいへん有意義な企画である。今後とも充実を図っていただきたい。
 - ◇ 時代に対応したシステムの構築等様々なサービスの向上が本好きを確実に育てている。ブックスタート事業は、親育てに役立っている。
 - ◇ 図書館機能は、他市町村とのネットワークや子ども読書支援センターの設置など、様々な形の取組みがなされている。ブックスタート事業も定着している。特に、子ども達が楽しい読書習慣を身につけることは重要であることから、学校応援団の活動に見られるようなボランティア活動の充実に一層期待したい。

基本目標Ⅵ

文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進

施策2 文化財の保護

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
57 文化芸術振興事業	2,082	B	文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体
			文化芸術祭参加者数	3,000人	3,000人	3,000人
58 美術展覧会事業	1,387	A	作品出品数	503点	545点	561点
			入場者数	2,571人	2,360人	2,342人
59 市民音楽祭事業	505	A	参加団体数	49団体	50団体	50団体
			文化芸術祭入場者数	1,771人	1,989人	1,557人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
市民ギャラリー利用率	96%	96%	96%	

◎教育委員会の施策評価

文化芸術活動の推進については、市民の文化芸術活動に対する支援を、主として美術展覧会・市民音楽祭の開催、市民ギャラリーの運営、文化団体連合会の支援を通じて行った。

美術展覧会、市民音楽祭は、例年どおりの事業が企画の段階から市民の手によって行われ、安定した事業運営を行うことができた。ただし、邦楽祭については、開催日が記録的な大雪となり、やむなく中止した。しかし、実行委員会については例年通りの運営が行われ、文化芸術活動の支援という点では、一定の成果を上げることができた。

市民ギャラリーについては、本年度の条例改正で、市役所ギャラリーと一元管理、市民ギャラリーでの作品販売を可能にするなど、文化芸術活動の幅を広げることができた。また、市民ギャラリーの利用は堅調であり、利用率が高く推移しており、広く市民の利用に供されている状況となっている。

現在、行われている支援事業については、既に安定的に事業実施が行われているが、比較的支援対象の団体の高齢化が目立つ状況にある。今後は、若年層の文化芸術活動支援について、新たな展開が必要である。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
市民ギャラリー利用率	96%	96%	96%

- 学識経験者の意見
- ◇ いずれの企画も市民の支持を得て定着している様子がうかがえる。
 - ◇ 多くの市民が参加し、利用率の高い施設では抽選になるなど、市民の文化芸術活動への関心は高く、評価したい。
 - ◇ 文化団体連合会への補助金交付の形での支援がなされているようだが、一番支援が必要なのは、新しく活動を始めようとする時なので、そうした団体への支援ができるよう工夫していただきたい。美術展覧会や市民音楽祭など学習成果の発表の場も提供されているようなので、引き続き、広く市民に活動の成果が還元されることを期待する。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標	評価指標		
				23年度	24年度	25年度
60 文化財調査・保存事業	3,014	A	市指定・登録文化財の数	117件	117件	120件
61 埋蔵文化財調査事業	4,022	A	—	—	—	—
62 文化財保護啓発事業	57	A	文化財保護啓発事業延べ日数	15日	43日	25日
			文化財保護事業参加延べ人数	977人	3,533人	2,372人
63 歴史資料調査事業	2,747	A	文書目録の発行	1冊(5,776点) 上平村役場文書 目録(下)	1冊(9,050点) 原市町役場文書 目録(上)	1冊(10,005点) 原市町役場文書 目録(下)

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	117件	117件	120件	市指定・登録文化財の数

◎教育委員会の施策評価

文化財については、文化財保護法に基づき、その保存・継承や活用を図る必要がある。このため、文化財の指定登録、記録保存事業、保存修理事業を行っている。平成25年度については新たに3件の登録を行い、文化財の修繕等のための事業を2件行ったほか、登録文化財である大山灯籠行事の映像記録事業についても実施することができた。埋蔵文化財についても、埋蔵文化財包蔵地内での試掘調査を適宜実施するなかで、2件の発掘調査を実施した。歴史資料については、保存活用のために必要な目録の発行やそのための整理が計画的に進んでいる。

全体的に事業は順調に進んでいるが、公開啓発事業については、文化財展や歴史セミナー、子ども対象の上尾歴史クイズラリーを実施し多くの参加者を得ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
市指定・登録文化財の数	120件	124件	124件

学 識 経 験 者 の 意 見	◇ 市内の文化財に市民が親しめるように展示機会を拡充するなどの工夫を考えたい。
	◇ 歴史資料の価値は、ずっと後の時代になってから評価されることも多い。引き続き大切にしていきたい。
	◇ 文化財保護、特に啓発事業は地域文化を次世代へ伝えるという重要な役割を担っている。世代間の交流を交えて、地域文化を学ぶ機会を、地域のコミュニティ形成にも大きな成果を期待できる。時間はかかっても積極的に取り組むべき事業である。講座等の参加者によるネットワークづくりも、さらに進めていただきたい。

基本目標Ⅶ

健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

- 施策1 スポーツ振興計画の策定
- 施策2 スポーツ施設の整備・充実
- 施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実
- 施策4 スポーツ指導者の育成
- 施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策1 スポーツ推進計画の策定

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
スポーツ推進計画策定進捗状況	計画素案の検討	計画素案の検討	推進計画完成	

◎教育委員会の施策評価

平成23年8月にスポーツ振興法がスポーツ基本法に全面改正されたことを受け、国及び県のスポーツ推進計画等が策定された。市教育委員会では、スポーツの推進を体系的・計画的に進めるため、昭和51年のスポーツ都市宣言を踏まえ、「健康で活力に満ちたスポーツ活動の推進」を基本方針とする、上尾市スポーツ推進計画を策定した。この計画は、上尾市スポーツ推進審議会に諮り、上尾市におけるスポーツの課題を整理し、「スポーツ施設の整備・充実」「スポーツ事業の充実」など5つの基本目標に対し、今後取り組むべき13の施策を定めた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
スポーツ推進計画策定進捗状況	推進計画完成		

学識経験者の意見

◇25年度中に計画が策定されたとのこと、計画に基づく市民スポーツの更なる推進に期待します。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
64 学校施設開放（スポーツ振興）事業	5,350	B	学校開放登録団体数	552団体	536団体	551団体
			学校開放施設利用者数	323,000人	417,161人	363,162人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校開放施設利用者数	323,000人	417,161人	363,162人	学校開放施設利用報告書

◎教育委員会の施策評価

屋内スポーツ施設の拠点である市民体育館は、平成25年4月1日にリニューアルオープンするとともに、施設の効率的な管理運営と利用者サービスの向上を図るため指定管理者制度を導入し、平成25年度利用者は東日本大震災前の全面貸し出しを行っていた平成21年度に比較し152%増と大幅な利用者増であった。

屋外スポーツ広場の整備については、利用しやすい施設の環境整備のため施設修繕や整備などの通常整備のほか、熱中症対策として平塚サッカー場の水道3基の増設を行った。

市民の身近な地域スポーツ拠点として、各小中学校の校庭及び体育館を開放し、多くの市民に利用いただいている。平成25年度は、校舎や体育館の改修工事等で前年度より利用者が減少したが、各学校開放運営委員会が相互協力し、混乱なく運営が図られた。

今後も、利用者の意見も考慮しながら、設備修繕を検討していく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
学校開放施設利用者数	363,162人	417,000人	418,000人

学識経験者の意見	◇ 学校施設の市民への開放は、市民のスポーツ活動に欠かせないものであり、施設・設備の適切な整備に努めてほしい。
	◇ 市民の健康意識の高さがうかがえる。
	◇ 利用者が安全で安心して活動するために、施設整備は不可欠である。既存施設の有効活用をさらに進めるとともに、計画的に施設の点検・整備に取り組んでいただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
65 スポーツ大会・教室等開催事業	18,571	A	大会の開催日数	3日	4日	3日
			上尾シティマラソン参加者数	8,805人	9,374人	9,672人
66 子どもの体力向上地域連携事業	196	A	小学生ドッジボール大会	—	—	898人
			中学生バレーボール教室	—	—	146人
			上尾市なわとび大会	—	—	2,041人
			ランニング教室	—	—	200人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
シティマラソン参加者数	8,805人	9,374人	9,672人	
子どもの体力地域連携事業 大会・教室開催日数	—	—	4日	

◎教育委員会の施策評価

平成25年度のスポーツ大会は、市制施行・体育協会創立55周年の記念大会として、いきいきライフ大運動会、市民体育祭、シティマラソン、市民駅伝競走大会を企画し実施した。市民駅伝競走大会は、積雪及び路面凍結の影響のため中止となったが、その他のスポーツ大会は、各関係団体やボランティアの協力を得て実施できた。

スポーツ教室・講座としては、スポーツ指導者に向けたスポーツ・ステップアップ講座やAED講習会を実施し、スポーツに関連した知識の習得と参加者の資質の向上を図ることができた。そして高齢者を対象とした長生きスポーツ教室を実施し、高齢者の体力の維持・増進を図ることができた。

また平成25年度の新規事業として子どもの体力向上地域連携事業を実施し、小学生ドッジボール大会（5年、6年）、バレーボール教室（中学生）、なわとび大会（小学校3年生～中学校3年生）などを行うことによって子ども達の運動や身体を動かす場や機会の提供を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
シティマラソン参加者数	9,672人	9,700人	10,000人
大会・教室開催日数	4日	5日	5日

学識経験者の意見	◇ 上尾市主催のシティマラソンはすっかり定例行事として多くのマラソン愛好家の間に定着したものである。今後は、中高生や大学生など、経済的に恵まれない層がより参加しやすいような参加費の設定などの工夫が欲しい。
	◇ 少子化や高齢化が進む中、参加人数もさることながら、質や内容の改善等を並行して引き続き考えていきたい。
	◇ 市民の協力の下、さまざまな大会が実施されている。子どもの体力向上のための取組みは、ぜひ全市的な取組みとして実施していただきたい。スポーツやレクリエーションに参加することは、生活の質の向上や、地域コミュニティの形成に役立っている。公民館事業や他の部署との連携を図りながら、各種事業の充実を図っていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
67 スポーツ活動推進事業	5,081	A	スポーツ推進委員研修日数	10日	9日	13日
			スポーツ推進委員研修参加人数	153人	149人	171人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	10日	9日	13日	市・県・地区・関東・全国・自主研修
スポーツ推進委員研修参加人数	153人	149人	171人	延べ参加人数

◎教育委員会の施策評価

スポーツ推進委員について、平成25年度は2年任期の初年度として48人委嘱し、内訳としては再任34人、新任14人である。地域スポーツ推進の担い手であるスポーツ推進委員が、自主研修はもとより国・関東・県等のスポーツ推進委員協議会の研修にも参加し、資質の向上を図る支援を行った。さらに、スポーツ推進委員の活動を支援することによって、市で実施する大会事業においては、競技役員会議や大会当日責任者として、スムーズな大会運営を行うことができた。

また、平成25年度にスポーツ推進委員から1名が永年の功績が認められ、全国スポーツ推進委員連合功労者表彰を受賞した。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
スポーツ推進委員研修日数	13日	13日	13日
スポーツ推進委員研修参加人数	171人	200人	200人

学識経験者の意見

- ◇ すべての指導者が救命措置に習熟するように、今後とも研修機会を増やすなどの対策を講じてほしい。
- ◇ 継続的にスポーツ指導者を確保していくことは難しいと感じている。25年度から別事業として掲げ、指導者の育成を図るとのこと、是非強化推進していただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成25年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	23年度	24年度	25年度
65 スポーツ大会・教室等開催事業	18,571	A	大会の開催日数	3日	4日	3日
			上尾シティマラソン参加者数	8,805人	9,374人	9,672人

◎施策の成果指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
体育協会加盟 スポーツ団体人数	20,120人	19,608人	18,170人	

◎教育委員会の施策評価

上尾市体育協会は、上尾シティマラソンや市民体育祭、市民駅伝競走大会などスポーツ大会を市と共同で開催するとともに、市内のスポーツ・レクリエーション団体を統括する団体として、本市のスポーツ推進を図るうえで重要なパートナーである。上尾市体育協会に対しては、組織の基盤強化や活動の充実に向けての事業補助を行い、本年度は、市と共催し市制施行・体育協会創立55周年を記念したスポーツ講演会をソフトボールの宇津木妙子氏を講師として招き実施することができた。また、市民体育祭には86人、上尾シティマラソンには453人も競技役員が体育協会から選出され、スムーズな大会運営を行うことができた。

体育協会に加盟している各支部や団体が開催する各競技の大会やジュニアの育成は、市スポーツレクリエーションの推進にとって重要なことであるため、今後も必要な支援を行っていく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成25年度実績	平成26年度目標	平成27年度目標
体育協会加盟スポーツ団体人数	18,170人	19,000人	19,000人

学 識 経 験 者 の 意 見	◇ 市民の健康維持・増進のため、継続的發展を期待する。
	◇ 上尾シティマラソンは、シティセールスの役割も果たしていて、市最大のスポーツイベントとして定着している。ボランティアも含めて、多くの市民が参加しやすい大会、事業であってほしい。「スポーツ大会・教室等開催事業」のひとつとしてのシティマラソンだと思っているので、評価指標として「上尾シティマラソン参加者数」で良いのか疑問である。



[教師キャリアアップ講座]

基本目標Ⅰ

確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- 事業番号1 さわやかスクールサポート事業(学級支援)【再Ⅰ-4】
- 事業番号2 理科教育振興事業
- 事業番号3 教育に関する3つの達成目標推進事業【再Ⅱ-1,Ⅱ-7】
- 事業番号4 魅力ある学校づくり事業【再Ⅱ-7,Ⅲ-2】
- 事業番号5 学力向上支援事業

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- 事業番号6 日本語指導職員派遣事業【再Ⅲ-6】
- 事業番号7 準教科書・副読本整備事業【再Ⅱ-1,Ⅲ-3】
- 事業番号8 英語弁論暗唱大会開催事業
- 事業番号9 中学生海外派遣研修事業
- 事業番号10 小中学校ALT配置事業

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- 事業番号11 中学生社会体験チャレンジ事業
- 事業番号12 中学生進路意識啓発事業

施策4 特別支援教育の推進

- 事業番号1(再掲) さわやかスクールサポート事業(学級支援)
- 事業番号13 特別支援学級補助員派遣事業
- 事業番号14 特別支援教育推進事業

施策5 幼児教育の推進

- 事業番号15 幼稚園就園奨励費補助事業
- 事業番号16 私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業

事業番号 1	さわやかスクールサポート事業（学級支援）	担当	学務課
--------	----------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成		
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策4	特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒への生活指導・自立支援及び介助を行うことで、対象児童生徒の在籍する学校・学級の円滑な運営、事故防止を図るとともに、学級集団の少人数化により、きめ細やかな個に応じた指導を充実させ、中1ギャップの解消及び基礎学力の向上を図る。
事業の対象 対象数	（アッピースマイル教員） 第1学年の1学級あたりの生徒数が35人を超える中学校、第1学年生徒 （アッピースマイルサポーター） 通常学級に特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する小・中学校、全33校
事業の内容	障害のある児童及び生徒が在籍する通常学級に対し、生徒指導の充実と健全な学級運営を図るため、学級担任等の教員の補助を行うアッピースマイルサポーターを配置する。また、少人数学級（35人）を編制し、きめ細やかな指導を行い、中1ギャップの解消等を図るため、アッピースマイル教員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	81,606 千円	84,227 千円	88,044 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
アッピースマイル教員数	26人	7人	7人	少人数学級（35人学級）実施の為、中学校に配置する市費臨時教員数
アッピースマイルサポーター数	27人	70人	74人	通常学級で教員を補助し特別の支援を行う支援員数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>アッピースマイル教員の採用・配置については、中学校1年生で少人数学級の編制を行うことで、小学校から中学校への滑らかな接続を図り、中1ギャップの解消にも効果を奏している。具体的には、一人一人の生徒に教員が接する機会が多くなり、より一層、きめ細やかな評価が可能となり、指導に生かしている。また、一人一人が発表したり、表現したりする機会が充実し生徒に自信を持たせることにつながっている。</p> <p>アッピースマイルサポーターを配置することにより、通常学級に在籍して学ぶ、特別な支援を必要とする児童生徒の成長を促すことができた。同時に学級の円滑な運営にも資することができた。このことは、ノーマライゼーションの理念の実現やインクルーシブ教育の推進にもつながっているものと評価できる。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>アッピースマイルサポーターの配置は、前年度の70人から74人へと増員し、事業の充実を図ることができた。</p> <p>また、教員の大量採用時代に突入していることから、質の高い臨時教員を採用していく必要があり、大学を訪問して募集要項を配布するなど広報の連携を図った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	アッピースマイル教員数	7人（中学）	9人（中学）	8人（中学）
	アッピースマイルサポーター配置人数	74人	75人	80人

事業番号 2	理科教育振興事業	担当	指導課
--------	----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市内小・中学校児童生徒の科学的研究物の展示を行い、科学教育の振興に資するとともに、児童生徒の研究物を審査し、北足立地区科学展及び県中央展に出品するための取組を支援する。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	小学校1年生から中学校3年生が、各学校や家庭において科学的研究物を作成し、上尾支部科学教育振興展覧会に出品する。特に優秀な研究物は、北足立地区科学展の審査を経て、県中央展に選出される。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	158 千円	158 千円	158 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾支部科学展出品数	144 点	145 点	160 点	児童生徒の出品数
県中央展選出作品数	2 / 118 点	1 / 115 点	1 / 149 点	上尾市作品数 / 北足立地区展出品作品数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾支部科学教育振興展覧会への出品は、各小・中学校で、夏季休業中の自由課題研究として研究に取り組みることが多く、毎年行われている教育活動である。9月に行われた上尾支部科学展では、小・中学校合わせて160点が出品された。これら研究物は、審査を経て小学校7点、中学校4点が北足立地区科学展に出品された。北足立地区科学展においても同様に審査を経て、中学校の部から1点が、最優秀賞として県中央展に選出されている。</p> <p>本事業は、児童生徒の科学的な資質・能力の向上を図るとともに、上尾支部展覧会を公開することで、市民の日常の科学・理科教育に対する興味関心を高める効果があり、出品数も年々増加している。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度は、出品数が160点に達し、出品数も増加の傾向にある。各学校で自由課題研究に対する啓発が進んできていることに合わせて、継続して研究を行っている児童生徒も多数おり、研究物の内容も大変充実してきている。過去3年間には、連続して県中央展にも選出されている。一方で、校内で研究の指導ができる教師の育成が必要となっている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	上尾支部科学展出品数	160 点	160 点	160 点
	県中央展選出作品数 (北足立科学展出品作品から14点が県中央展へ選出)	1 点	2 点	2 点

事業番号 3	教育に関する3つの達成目標推進事業	担当	指導課
--------	-------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策1 豊かな心の育成	施策7 児童生徒の体力向上

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	教育に関する3つの達成目標における県の目標値及び市が実態に応じて設定した独自の目標値の達成を目指す。各小・中学校の積極的な取組とともに、中学校区を基盤とした上尾市独自の取組を推進し、児童生徒に身に付けさせる。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	「生きる力」をはぐくむ教育を一層推進するため、小・中学校の児童生徒を対象として、「学力」「規律ある態度」「体力」の3つの分野について、その学年で身に付けさせたい基礎的・基本的な内容を取りまとめて県教育委員会が作成した「教育に関する3つの達成目標」の取組を、市内全小・中学校で推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	510 千円	510 千円	510 千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
3つの達成目標	学力 教育に関する3つの達成目標 全小・中学校全学年 学力の達成率（読む・書く・計算）	94.5 %	94.6 %	93.9 %	小・中学校 全学年正答率
	規律 規律ある態度80%達成項目数	99項目 / 108項目	103項目 / 108項目	105項目 / 108項目	小・中学校合計
	体力 新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校 79.5 % 中学校 84.9 %	79.6 % 85.5 %	78.9 % 84.7 %	5ランク中 上位3ランクの 割合

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	「学力」に関しては、全体の数値が平成24年度の数値を若干下回った。しかし、「計算」分野では9学年中8つの学年で数値が上回った結果となった。「読む・書く」は数値が上回った学年は3つだけだが、8つの学年が埼玉県 averages を上回った。各学校では、繰り返し学習や言語活動の充実によって、思考力・判断力・表現力を児童生徒が身に付けることができる授業が展開された。「規律ある態度」に関しては、各学校ごとに実態に応じた指導が行われ、平成24年度の数値を上回った。「体力」に関しては、児童生徒の課題に基づいた授業及び体育活動が行われたが、小学校女子児童の数値が平成24年度を下回った。
本年度の特色・改善点等	「規律ある態度」の「⑩話を聞き発表する」の項目について、平成24年度は9学年中6つの学年が、目標値の80%を超えた。平成25年度は、9学年中8つの学年で80%を超えた。80%を超えなかった学年も平成24年度よりも数値が上昇しており、授業における言語活動の充実が確実に図られている。 平成26年度は、埼玉県では「学力」のペーパーテスト調査、「規律ある態度」の質問紙調査は実施しない。上尾市では、「規律ある態度」については、市独自で質問紙調査を実施する予定である。「体力」については、引き続き新体力テストが実施される。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	規律ある態度80%達成項目数	105項目 / 108項目	108項目 / 108項目	108項目 / 108項目
	新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校 78.9 %	80 %	81 %
		中学校 84.7 %	86 %	87 %

事業番号 4	魅力ある学校づくり事業	担当	指導課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策7 児童生徒の体力向上	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	各学校が教育課題を定め研究をとおり、教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校を築く。
事業の対象 対象数	上尾市立幼稚園・小・中学校
事業の内容	市立幼稚園及び小・中学校において教育課題の研究を推進する。各学校に対して、3年ごとのサイクルで【①研究準備→②研究1年目→③研究2年目<研究発表>】、2年間の計画的な研究を委嘱している。各学校では創意工夫を生かした教育活動を展開することにより、魅力ある学校づくりを行う。また、上尾市教育研究会に対して、全体研修会や各部会の研究の補助金を交付し、教職員の資質の向上を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	6,814 千円	6,814 千円	6,814 千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数（数学） 英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9	全国平均を50としたときの 市の平均値
	中学校	50.7	50.3	50.3	
教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）		80.1%	76.4%	77.4%	週1～2回以上は1時間以上運動すると 回答した児童生徒の割合

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	児童生徒一人一人の学力向上のため、各学校は児童生徒の実態を把握し、実践を重ねることをとおして、信頼される学校づくりに努めることができた。市の教育水準を高めるため、指導方法の工夫改善などの研究に取り組むことで、年々教職員の指導力の向上を図ることができている。さらに、市からの交付金を計画的に使用することにより、資料・教材教具を充実させ、研究を深めることができていた。また、各学校では、2年間の研究のまとめとして研究発表を行い、研究授業について分科会を開催し、話し合いを深めることで、教員の指導力向上につなげることができた。市内全校に研究成果を広め、知識や情報を共有することで市全体の教育力の向上を図ることができた。市内教職員が組織し、主体的に研修・研究に取り組んでいる上尾市教育研究会へ補助することで、指導力の向上を図ることができた。本年度は、12校が研究発表を行い、うち1校は文部科学省の委嘱発表を行い、研究内容を市内外に広く広めることができた。
本年度の特色・改善点等	異校種の学校の研究発表会に参加し、研究協議会において、小・中学校の教員が意見交換を行うことで小・中学校の連携が推進できている。さらに、中学校区で小・中学校共通のテーマを設定して取り組む校区も出てきて、連携教育から一貫教育へ少しずつ変遷してきている。研究委嘱において、県や埼大附属小（中）学校等から指導者を招き、最先端の情報を得るためにも、進んで招聘していく必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標		平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	上尾市学力調査の	小学校	51.9	52.0	52.3
	国語・算数（数学）・英語の平均値	中学校	50.3	50.5	50.8

事業番号 5	学力向上支援事業	担当	指導課
--------	----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学力調査結果の分析を多面的に行い、学力向上策を立案して、学習指導に取り組むことにより、児童生徒一人一人の学力を向上させる。
事業の対象 対象数	上尾市立小学校 第3学年・第4学年・第5学年・第6学年 全児童 上尾市立中学校 第1学年・第2学年・第3学年 全生徒
事業の内容	市立小・中学校の児童生徒一人一人に「確かな学力」を育成するため、標準学力検査用紙を用いて基礎的な学力の実態を把握し、学校の教育課程の編成や学習指導方法の工夫・改善に役立てる。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	7,262 千円	7,139 千円	7,502 千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.7	50.3	50.3	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>児童生徒に確かな学力を身につけさせるためには、児童生徒一人一人の学習状況を客観的に把握するとともに、一人一人の学習状況の経年の変化を適切に把握する必要がある。上尾市立小・中学校学力調査は、その実態を明らかにするための指針の一つである。標準得点値で見ると、33校中23校で全国標準を上回ることができた。各学校では、自校の学力調査の結果分析を行い、成果と課題を明確化、共有化し、学校の状況や児童生徒の実態に応じた学力向上プランの改善を図ることができた。その学力向上プランに基づいた、授業実践や具体的な支援を重ね、適切な評価・効果の検証とさらなる改善を進めた。一人一人の児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の具体的な手立てを計画して引き続き取り組んでいる。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>児童生徒一人一人の学習状況及び経年の変化を把握することで、学習の定着状況等を正確に捉え、個に応じた指導の充実を図っている。「確かな学力」を育てるために児童生徒の基礎的な学力を調査し、その調査結果をもとに本年度も各学校の実態に応じた学力向上プランが作成された。児童生徒の学習状況の実態に即した指導方法の工夫改善を図るものである。また、1単位時間の授業改善を図るための具体的な方策を示していることから、継続した指導や支援により上尾市全体の更なる学力の向上を目指すものである。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定		目標指標			
A		上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の平均値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		小学校	51.9	52.0	52.3
中学校	50.3	50.5	50.8		

事業番号 6	日本語指導職員派遣事業	担当	学務課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	日本語が理解できない児童生徒に、日本語や日本文化習得の支援を行い、授業をはじめとする学校生活に意欲をもって参加できるようにする。
事業の対象 対象数	計22人 (内訳 中国語：11人、タガログ語：8人、スペイン語：2人、英語：1人)
事業の内容	日本語が理解できない児童生徒に対して、日本語習得の援助及び指導を行うため、在籍する小・中学校に日本語指導職員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,224千円	2,253千円	2,512千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
派遣職員数	9人	12人	13人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	国際化の進展をはじめ、社会の様々な状況の変化に伴い、日本の学校で学ぶ外国人児童生徒や日本語の理解を必要としている帰国児童生徒が増加している中、日本語指導職員の配置は、こうした子供たちのスムーズな就学を図る上で効果的な取組となっている。また、確かな学力と自立する力を育成するために、時代の変化に対応した教育支援となっている。
本年度の特色・改善点等	本年度は、中国語、英語、スペイン語及びタガログ語などでコミュニケーションを図ることのできる日本語指導職員を13名雇用し対応した。さまざまな言語に対し支援できるよう人材の確保が必要であることから、関係課とも連携を図っている。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	指導員派遣率 派遣数/申請数×100(%)	100%	100%	100%

事業番号 7	準教科書・副読本整備事業			担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系					
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進		
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	体育科・社会科・道徳の授業において、準教科書及び副読本を用い、効果的に活用して児童生徒の基礎基本の定着、豊かな心の醸成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	小・中学校の体育科、保健体育科の準教科書、社会科・道徳の副読本の無償給与と市独自の「社会科副読本」の作成・配布を行い、授業内容の一層の充実を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	13,448 千円	13,185 千円	13,846 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
道徳副読本整備状況	67%	100%	100%	整備率
体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	整備率
保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	整備率
社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	整備率

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>道徳及び体育科・保健体育科では教科用図書が発行されていないため、道徳の授業及び体育科、保健体育科の授業を充実するために、各校へ整備することができた。</p> <p>道徳の副読本については、学習指導要領に準拠した内容であり、学校における指導計画は、副読本の内容を中心に計画することができた。</p> <p>体育科の準教科書については、体の動きを視覚的にとらえる資料として有効であり、技能習得のためのポイントが記載されており、それを参考に技能を高める授業展開ができた。</p> <p>社会科副読本「のびゆく上尾」は、小学校3年生に配布し、上尾市の地理や経済などの実態を踏まえた地域学習を効果的に展開できるよう上尾市教育委員会で作成することができた。さらに小学校4年生では、「郷土さいたま」を配布し、埼玉県の特徴をつかんだ郷土学習を行うことができた。</p> <p>平成23年度、西側小・中学校に整備した道徳副読本及び、全小・中学校に整備した体育科準教科書を小・中学校で統一したことにより、教材研究、研究内容の共有化を図ることができ、児童生徒の学びの平等化が図られた。また、小・中学校が同系統の教材を使用することで、学びの連続性が図られ、小・中学校の連携を図ることができた。</p>
	<p>本年度の特色・改善点等</p> <p>教科用図書のない道徳や体育・保健体育、特別に資料が必要な社会科においては、学校・教員による指導内容の偏りを防ぎ、全員に平等な教育を行うことにより、本市の教育水準を高めることができる。道徳副読本、体育準教科書については、学校備品として、複数年使用できるようにしているが、書き込みができない等の課題がある。社会科副読本「のびゆく上尾」のデジタル教材を作成し、ICTの推進を図ることができているので、より充実した内容にするために今後も協議していく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	道徳副読本整備状況	100%	100%	100%
	体育科準教科書整備状況	67%	89%	100%
	保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%
	社会科副読本整備状況	100%	100%	100%

事業番号 8	英語弁論暗唱大会開催事業	担当	指導課
--------	--------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	「聞くこと」「話すこと」を中心としたコミュニケーション能力、表現力の向上を目指し、英語学習に対する興味・関心を一層高めることをねらいとする。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 全生徒（各中学校で3名以内の参加者を決定）
事業の内容	「弁論の部」「暗唱の部」の2部構成で、市内中学生が英語で表現する発表の機会を設けている。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	57千円	58千円	58千円

●評価指標

(活動指標)

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
大会参加生徒数	30人	33人	33人	弁論大会参加者数
市学力調査英語平均値	51.7	52.1	50.3	全国平均を50としたときの市の英語（中2・3）の平均値

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>市英語弁論・暗唱大会は、全国大会である高円宮杯全国中学生弁論大会の市内予選を兼ねており、県内市町村（地区）ごとに実施している。</p> <p>市の弁論の部で第1位になった生徒は、埼玉県英語弁論大会に出場し、そこで上位に入賞した場合、全国大会にコマを進めることとなり、本大会を実施しない場合は、県大会等への出場者の選抜が困難となるため重要な行事である。</p> <p>平成25年度は、本大会の1位の生徒が県大会でも入賞し、全国大会中央大会予選会に出場した。英語学習の意欲付けを図るとともに、英語による表現力を高めることができる本事業は、今後も継続して実施する必要がある。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>全国大会につながる大会であるため、今後も継続が望まれる。実施にあたり、埼玉県内全市町村（地区）で実施しているものである。上尾市の規模から考え、今後も本市単独で予選を行うことが適するものである。</p> <p>県大会の実施要項の変更に合わせて、制限時間を超えても失格とはせず、超過時間に応じた減点法を採用した。参加者に必要以上の負荷がかからず、表現力豊かな発表が多かった。</p> <p>今後は、弁論・暗唱の発表者のみならず、市民の見学を啓発したり、各学校から児童生徒が見学できるようにしたりするなど、当日の会場への入場者数の増員を図る必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

総合評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	大会参加生徒数	33人	33人	33人

事業番号 9	中学生海外派遣研修事業	担当	指導課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	I 確かな学力と自立する力の育成
施策	2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	コミュニケーション能力、英語力、表現力をはじめ、将来、国際社会で貢献できる人材として必要な資質・能力及び態度を有した生徒を育成する。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校第3学年生徒 22人
事業の内容	中学生に豊かな国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材として必要な能力や態度を育成する教育活動の一環として、市立中学校に在籍する生徒を対象に、8日間のホームステイや授業体験、スポーツ交流、文化交流等の英語研修等のプログラムを特色とした11日間の海外派遣研修を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	7,800 千円	9,810 千円	9,553 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
応募生徒数	46人	44人	54人	海外派遣研修応募生徒数
派遣生徒数	22人	22人	22人	海外派遣研修派遣生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>社会のグローバル化が急進する中で、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質と能力を育成することは重要である。国際化した社会の中で、しっかりとしたアイデンティティを持ち、異文化を理解した上で、自分の意見を適切に主張することができる人材の育成を目指し、一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修や文化・スポーツ交流等の研修に参加した。現地における全研修日程を計画どおり無事に終え、帰国報告会での発表等、この研修をとおして、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。実際に英語を使用しながら生活することは、教室での英語学習では学ぶことができない貴重な体験学習であり、日本と異なる生活習慣や文化の中で暮らすホストファミリーとの生活をとおして、今まで気づくことのなかった自国の文化・伝統の「よさ」を実感することにもつながった。今回の研修で得た体験を基に、将来「国際社会」を見据えた広い視野を持った人材の育成につながるものである。</p>
	<p>本研修プログラムの中で、近隣小学校での仲間同士の信頼関係構築や体力向上のための設備であるハイロープ体験活動において、派遣生の参加の意思をあらかじめ確認して臨ませた。緊張もあったが、全員が体験し、充実した活動となった。</p> <p>市制施行55周年記念式典参加のためのロッキンバレー市長一行の来訪時に、派遣生希望者が集合し、市長等にあいさつをしたりや感謝を伝えたりすることができた。</p> <p>派遣生は、各学校において全校生徒に報告を行う場を設けてもらい、各自が報告会を行った。派遣生自身の成長を伝え、また、1・2年生たちに本研修のよさを伝えることができた。</p> <p>※ハイロープ体験活動・・・仲間との信頼関係構築、体力向上、危機管理等を目的とし、樹上などの高所にロープ、ワイヤーを張り巡らせ、ゲームなどを行います。</p>
本年度の特色・改善点等	

次年度以降の目標設定

総合評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	応募生徒数	54人	60人	65人
A				

事業番号 10	小中学校A L T 配置事業	担当	指導課
---------	----------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	小学校では「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」をとおして外国語に慣れ親しみ、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、中学校では、A L T（外国語指導助手）とのT T（ティームティーチング）により、コミュニケーション能力の育成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	児童生徒が、国際社会において、外国の方と積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力や英語力、態度を身に付けるための体験的学習や国際理解教育を推進するために、A L Tを小・中学校に配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	100,698千円	100,698千円	88,262千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
A L T 配置人数		27人	27人	27人	小・中学校A L T 配置人数
A L T 活用時数	小学校	30.6時間	31.5時間	32.2時間	小・中学校の1学級あたりのA L T 活用時数（外国語活動、英語授業、その他国際理解教育等）
	中学校	36.0時間	37.6時間	37.8時間	
中学生海外派遣研修応募生徒数		46人	44人	54人	中学生海外派遣研修応募生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	今後ますますグローバル化する社会に主体的に対応できる児童生徒を育成することは、人材育成の面からも重要である。中学校では、主にA L Tと日常的に触れ合い、「生きた英語」を学ぶことができる環境を整える中で、英語学習の動機づけを図り、コミュニケーション能力の基礎を培うことが必要である。また、小学校では、平成23年度から小学校5・6年生で週1時間外国語活動を行い、英語によるコミュニケーション能力やその素地を高める学習活動の充実が図られている。本市では、すでに平成21年度から先行実施し、全小学校5・6年生で外国語活動を年間35時間ずつ実施している。教科指導以外でも、日常的な触れ合い、給食、清掃等を通しての関わりや、また中学校ではスピーチコンテストの指導等においても成果を上げている。教員対象の研修においても指導力向上のために指導・助言している。
本年度の特色・改善点等	A L T 27名を配置し、外国語教育の充実を図ることができた。ほとんどのA L Tが前年度からの継続であったため大変スムーズに配置を開始することができた。学校アンケートでもA L T に対する評価6点満点中4.87と高評価であった。授業日数増加による夏季休業が短縮されたことから、夏季休業中の配置日数を最大5日から3日とした。多くの学校でA L Tの配置希望があった。また、中学校教員の小学校への出前授業（外国語活動）や小学校教員による中学校への授業参観など、小・中学校の外国語担当教員の連携による小・中学校の連続した外国語教育や小学校教員の外国語活動指導力の向上についてもA L Tとの連携により、充実することができた。今後は、さらなる外国語教育の充実を図るため全小学校への完全配置を目指す。

次年度以降の目標設定

総合評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	A L T 配置人数	27人	33人	33人

事業番号 11	中学生社会体験チャレンジ事業	担当	指導課
---------	----------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	生徒の勤労観や職業観を育成し、社会性や自立心、表現力、礼儀作法、コミュニケーション能力などを養う。また、教職員と事業所担当者等との打合せ、教職員やPTAによる各事業所等への巡回、校長による各事業所等への挨拶などをおして、学校、保護者及び地域との連携を深める。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 第1学年・第2学年 生徒
事業の内容	市内中学校生徒が市内等の事業所等において2日間の社会体験活動を行い、勤労観や職業観を育成し、進路指導・キャリア教育を推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	596 千円	593 千円	631 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
職場体験事業所数	233	221	244	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できたと回答した生徒	42.0%	39.1%	42.8%	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	現代は都市化や少子化が進み、物質的に豊かで便利な生活となり子どもたちの生活スタイルや意識も大きく変わってきており、これまでの子供たちには見られなかった柔軟な感性や遊び心、ボランティア活動等への高い参加意欲は見られるものの、社会性の不足、規範意識の低下、人間関係の希薄化などが指摘されている。この社会体験チャレンジは、こうした課題の解決に向けて、大きな役割を担うものであり、自分の将来に夢や希望を抱き、その実現をめざし、基礎的な知識や、望ましい勤労観、職業観の育成はすべての子どもたちに必要なものである。異世代間も含めたコミュニケーション能力を養うこと、実際的な知識や技術を学ぶこと、社会的なルールやマナーを体得できること、地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持つことなど、大きな意義がある。参加生徒の感想からは、「働くことの大切さがわかった」「将来を真剣に考えるようになった」「あいさつの大切さがわかった」等の感想があり、望ましい勤労観がはぐくまれている。
本年度の特色・改善点等	平成25年度は1校のみ第1学年での実施であったが、11校すべてが職場体験を行った。生徒の発達段階の問題や事業所からの要望等あり、平成27年度から全中学校第2学年で実施していく。本年度、個人情報漏洩防止や器物破損等の事故が起きた場合に備えて生徒に「職場体験申込書」の提出を求めるいくつかの事業所があった。平成26年度は、全生徒がすべての事業所に「職場体験申込書」を提出することとした。学校にとって事業所の確保が課題ではあるが、大型ショッピングセンターの出店や新規事業所の申し込み等あり、拡大している。体験日数については、今後もアンケートやチャレンジ事業推進委員会において今後さらに協議、検討していく。

次年度以降の目標設定

総合評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	職場体験受入事業所数	244	250	260

事業番号 12	中学生進路意識啓発事業	担当	指導課
---------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 3 進路指導・キャリア教育の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	自分を振り返り、自らの生き方や進路について考えることができ、目標を立て その達成のために努力できる生徒を育成する。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	進路指導・キャリア教育の観点から、地域で活躍する様々な分野の人を招いて講演会を開き、生徒の将来の夢や希望をはぐくむとともに進路意識の啓発・高揚を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	116 千円	116 千円	110 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
講演会開催回数	14回	12回	11回	開催回数
講演会参加生徒数	7,781人	6,845人	6,169人	延べ参加生徒人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>急速に変化する現代社会において、ニートやフリーターと呼ばれる若者の数は減ることがなく、青少年の意欲や責任感の低下、コミュニケーション能力の低下等が懸念され、社会的自立の遅れや社会に適応できない若者の増加は社会問題の一つである。進路指導を「人間としての生き方に関する指導」という観点で捉え、将来にわたって「職業観・勤労観」を育成することが求められている。このような進路指導・キャリア教育を充実させる施策として、地域で活躍する方や地域ゆかりの方を学校に招き、講演会をとおして、生徒・保護者の意識を啓発し、中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図ることは、有益であり効果も高い。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>本年度、すべての中学校で各1回ずつ実施された。地域で活躍する方々に加え、卒業生やOBの中から活躍されている方に講師を依頼する学校が増え、進路指導の積み重ねがより充実してきている。生徒も高い興味・関心を持って参加し、生徒が自らの進路や生き方について考える有意義な機会となっている。また、全中学校で一部の学年のみを対象にするのではなく、全学年生徒が講演会に参加した。また、生徒と保護者が一緒に講演を聞く機会にするなど、学校と家庭が一体となり、進路意識の啓発を図る学校が増加している。本事業は、生き方を学ぶ中学校の進路指導・キャリア教育を推進するために必要な事業である。</p> <p>平成25年度からは、他校との合同での開催も可能となり、講師選択の幅も広がっているが、複数開催と併せ、実施した学校はなかった。</p>

次年度以降の目標設定

総合評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	講演会開催回数	11回	24回	24回

A

事業番号 13	特別支援学級補助員派遣事業	担当	学務課
---------	---------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じる教育の充実を図る。
事業の対象 対象数	特別支援学級配置校 小学校 9校 21学級 99人、中学校 4校 15学級 79人
事業の内容	特別支援学級において、担任教員の行う指導の補助に当たるため、特別支援学級補助員を特別支援学級が置かれる市内小・中学校に配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
決算額	15,666 千円	15,698 千円	16,305 千円

●評価指標

指標名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	指標の説明
補助員配置数	9人	9人	9人	
補助員配置率	26.5%	28.1%	25.0%	補助員数/学級数×100(%)
補助員対象研修回数	0回	9回	9回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	特別支援学級では、より一人一人のニーズに応じた教育支援が必要であるため、担任の行う指導を補助する補助者の存在は大きい。また、特別支援学級補助員は、教員免許を有しているため、障害のある児童生徒の教育を行うにあたっては、指導内容や機動性の充実が図られている。
本年度の特色・改善点等	特別支援学級補助員の資質の向上を図るため、年間9回の研修会を実施している。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成 25 年度実績	平成 26 年度	平成 27 年度
A	補助員配置率	25.0%	25.7%	42.9%

事業番号 14	特別支援教育推進事業	担当	指導課
---------	------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	特別支援教育研修会では、特別支援教育担当者が研修を深め、各小・中学校で適切な指導、必要な支援、授業改善が図られるようにする。特別支援学級設置校と特別支援学校の交流を兼ねた合同作品展は、障害のある児童生徒の創作意欲を喚起するとともに、市民にとっても、障害のある児童生徒を理解するよい機会とする。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校の特別支援教育担当者及び市民
事業の内容	特別支援教育担当者を対象とした各種研修会の実施及び市民啓発、特別支援学級設置校と特別支援学校の交流の目的を兼ねて合同作品展を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	206千円	236千円	213千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
特別支援教育研修会回数	5回	5回	5回	特別支援教育に係る研修会実施回数
特別支援教育研修会参加率	104%	100%	100%	研修会参加者数/33校×100
合同作品展入場者数	500人	500人	500人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>特別支援教育を推進するためには、すべての学校で特別支援教育の視点に立った支援の推進が行えるよう指導していく必要がある。そのためにも教員の指導力・資質の向上は欠かせない。県立特別支援学校のセンター的機能を積極的に活用するため、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを講師に招き、特別支援教育コーディネーター研修会や特別支援学級担当者研修会等を行った。担当教員らが専門的な知識・技能を習得するための質の高い研修会を実施してきた。また、各学校での通常の学級における特別な支援を要する児童生徒への対応等について積極的に研修をすすめ、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を目指してきた。</p> <p>併せて、特別支援学級の児童生徒による合同作品展の開催により、障害のある児童生徒にとって活躍の場を確保できた。市民にとっても障害のある児童生徒を理解する場として有意義な行事であった。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度、中学校1校に特別支援学級を新たに開設した。次年度以降のさらなる開設に伴い、特別支援学級を担当する教員の育成が急務である。今後も特別支援教育の一層の推進を図るため本市の特別支援教育に携わる教員の指導力向上を目的とし特別支援教育推進のための研修会の実施や校内研修会等の積極的な活用を行っていく。また、特別支援学級と特別支援学校との連携を深めるため、各小中学校における県立特別支援学校コーディネーターによる巡回指導を積極的に推進する。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標			
A	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度	
	合同作品展入場者数	500人	500人	500人

事業番号 15	幼稚園就園奨励費補助事業	担当	教育総務課
事業番号 16	私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業		

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策5 幼児教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	幼児を幼稚園に通園させている保護者への経済的負担を軽減し、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差を是正し、幼児の幼稚園への就園の機会を確保する。
事業の対象 対象数	【幼稚園就園奨励費補助事業】上尾市に住民登録がある満3歳児・3歳児・4歳児・5歳児を幼稚園に通園させている保護者のうち、所得要件を満たす者（平成25年度実績 2,982人） 【私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業】基準日現在（当該年度の10月1日）上尾市に住民登録がある満3歳児・3歳児・4歳児・5歳児を私立幼稚園に通園させている保護者（平成25年度実績 3,789人）
事業の内容	幼児を幼稚園に通園させている保護者に対し、保育料の減免または補助金を交付する。（幼稚園就園奨励費補助事業は国庫補助事業）

●事業費決算額の推移

年度	事業名	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	幼稚園就園奨励費補助事業	287,265千円	284,894千円	307,472千円
	私立幼稚園児保護者負担軽減費補助事業	70,535千円	69,757千円	68,569千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
就園奨励費補助金減免率（公立）	26.2%	16.2%	12.7%	補助対象園児／公立幼稚園児数
就園奨励費補助金支給率（私立）	77.8%	76.1%	75.8%	補助対象園児／私立幼稚園児数
補助額	111,145円	113,050円	121,478円	就園奨励費・保護者負担軽減費補助金の平均額（一人当たりの年額）
差引後 公・私立幼稚園保育料差額	100,245円	97,198円	88,770円	私立幼稚園補助後保育料－公立幼稚園保育料（一人当たりの年額）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>私立幼稚園への就園については、幼児の保護者は相対的に若く、経済的負担が大きいものとなっている。国の基準に基づき、就園奨励費補助金を交付しているが、保育料の負担を賄いきれていない状況である。そこで、さらに負担を軽減し、より多くの幼児の就園機会を確保するため、上尾市独自の事業として保護者負担軽減費補助金を交付している。</p> <p>就園奨励費補助金が拡充され、幼稚園への就園機会の確保及び幼児教育の推進を図ることができた。</p>
本年度の特色・改善点等	平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」が本格的にスタートする予定であり、新制度では幼児期の学校教育・保育の総合的な提供を目指していることから、平成26年4月に行われた組織再編により、私立幼稚園に関する事務が保育所担当課へ移管されたため、教育委員会での事業は終了とする。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	幼稚園就園率	88.2%	—	—

基本目標Ⅱ

豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成

- 事業番号3(再掲) 教育に関する3つの達成目標推進事業
- 事業番号7(再掲) 準教科書・副読本整備事業
- 事業番号17 学習支援事業
- 事業番号18 さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)
- 事業番号19 小中学校音楽会開催事業
- 事業番号20 小中学校図書整備事業 【再Ⅲ-3】
- 事業番号21 図書館資料整備事業 【再Ⅴ-5】
- 事業番号22 指導法改善事業 【再Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-4】
- 事業番号23 中学校部活動支援事業 【再Ⅱ-7】
- 事業番号24 中学校吹奏楽演奏会開催事業
- 事業番号25 子どもの読書活動支援センター運営事業 【再Ⅴ-5】

施策2 生徒指導の充実

- 事業番号26 生徒指導推進事業
- 事業番号27 さわやか相談室運営事業
- 事業番号28 いじめ根絶対策事業(防止事業)【再Ⅱ-4】
- 事業番号29 いじめ根絶対策事業(相談事業)【再Ⅱ-4】

施策3 人権教育の推進

- 事業番号30 人権教育推進事業(指導課所管分)

施策4 学校教育相談の充実

- 事業番号28(再掲) いじめ根絶対策事業(防止事業)
- 事業番号29(再掲) いじめ根絶対策事業(相談事業)
- 事業番号31 不登校児童生徒の学校適応指導事業
- 事業番号32 教育相談事業

施策5 学校保健の充実

施策6 食育の推進・学校給食の充実

施策7 児童生徒の体力向上

- 事業番号3(再掲) 教育に関する3つの達成目標推進事業
- 事業番号4(再掲) 魅力ある学校づくり事業
- 事業番号23(再掲) 中学校部活動支援事業
- 事業番号33 児童生徒体力向上推進事業

事業番号 17	学習支援事業	担当	指導課
---------	--------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能をもつ外部指導者や学校支援ボランティアを導入することで、豊かな体験活動をはじめ、学習活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育てる。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	「総合的な学習の時間」の外部指導者や学校の教育活動を支援する学校支援ボランティアに、記念品を贈る。小・中学校校外行事実施に係る引率者の入場料等の経費を負担する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	196 千円	204 千円	199 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
外部指導者補助数	97人	103人	103人	外部指導者補助人数
外部指導者活用数	103人	187人	152人	外部指導者活用人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校において、児童生徒や地域の実態に応じた特色ある教育活動の推進が求められている。そのため、外部指導者や学校支援ボランティアの協力によって地域全体で学校教育の質を高め、市内の多くの学校で特色ある教育を推進している。そのような状況の中、引率者の入場料等の経費を負担し、校外行事を円滑に実施することができた。また、各学校において、総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能を持つ外部指導者や学校支援ボランティアを積極的に活用することで、体験活動の充実や個に応じた指導が図られ、児童生徒にとって魅力ある教育活動が展開することができた。学校外の教育力を積極的に取り入れるため、学校では外部指導者の活用希望数が100回を超えている。平成25年度は、学校が希望している回数に対して、すべての補助をすることができなかった。今後も外部指導者への依頼の増加が見込まれるところであり、補助率の向上と外部指導者の高齢化に伴い、新たな指導者の募集が課題である。
本年度の特色・改善点等	総合的な学習の時間の目標にある探求活動を一層推進していくためには、子どもが自ら課題を見つけるきっかけとなる体験活動を充実させることや豊富な知識と技能を有する外部指導者や学校支援ボランティア等の地域の教育力は不可欠となることから、学校が希望している回数に対する補助をすることが課題である。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	外部指導者活用数	152人	160人	170人

事業番号 18

さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）

担当

指導課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	読書活動を推進するとともに、学校図書館の教育効果を組織的に高めることで、児童生徒に「確かな学力」と「豊かな心」を身につけさせる。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。そこで、各小・中学校図書館の充実を図り、読書活動を推進するため、図書館支援員を小学校毎日4時間、中学校週1回5時間、派遣する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	6,204千円	18,091千円	18,086千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校図書館支援員数	8人／33校	25人／33校	25人／33校	小中学校に派遣する図書館支援員の数
1校あたりの派遣回数 (平均)	4.3回	小学校20.2回 中学校約4.1回	小学校20.2回 中学校約4.1回	支援員の派遣回数／1校あたり
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	72.6%	74.5%	上尾市小・中学校学力調査結果より
	中学3年	75.8%	72.8%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校図書館に関わる様々な業務において、司書教諭の補助を行うことができた。また、業務の幅が広がってきている。小・中学校での読み聞かせの回数が増え、豊かな心の育成につながっている。</p> <p>推薦図書や読書案内等の学校図書館の掲示や新書の展示コーナーが豊かになり、児童生徒が本を手に取りやすい環境が整ってきている。</p> <p>研修会を通して、各校の学校図書館の整備状況の底上げを図ることができている。支援員と児童生徒との関わりを深めるため、児童生徒の興味関心を高める指導方法の研修会を行った。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>中学校の図書館教育の充実のため、ベテラン支援員を配置した。</p> <p>平成25年度から学校図書館に新聞を配備した。新聞を効果的に展示することで、児童生徒が新聞を読みやすい環境を作り、活字に触れる機会を増やすとともに、司書教諭と連携し、各教科で新聞を活用するよう指導した。</p> <p>上尾市立鴨川小学校の取組が、文部科学省「平成26年度子ども読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）」の優秀実践校表彰を受けた。図書館支援員の力もあったと考えられる。さらに、他校へ広げていくことで、上尾市全体の学校図書館教育の推進につながっている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
学校図書館支援員数	25人／33校	25人／33校	33人／33校
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	74.9%	76.0%
	中学3年	73.2%	74.5%

事業番号 19	小中学校音楽会開催事業	担当	指導課
---------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市内小・中学校の児童生徒の音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図るとともに、教員の研修の機会とする。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 児童生徒 約1,300名
事業の内容	表現及び鑑賞をとおして、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図り、教員の研修の機会とするため、毎年度1回「上尾市小・中学校音楽会」を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	868 千円	861 千円	805 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
参加学校数	33校	33校	33校	音楽会参加学校数
参加者数	約2,000人	約2,000人	約2,000人	保護者等含む

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>現在、市では各学校の枠を超えた交流活動として、小学校においては、連合運動会、親善球技大会、中学校では、部活動における各種大会が中心となっており、いずれも体育的活動が多い。文化的な活動としては、中学校区において、中学生が小学校に訪問し、合唱や吹奏楽部の演奏を披露するなど、学校間の交流を行っているところがある。本事業は、市内全小・中学校が参加し、日頃の教育活動の成果を発表し合える唯一の場であり、その意義は大きく、児童生徒の学習意欲を高めるとともに、音楽科としての学力向上につながっている。また、市として文化芸術振興の一環としての役割も大きい。さらに、学校間で互いの音楽を鑑賞することは、教員の指導力を高める視点からも効果的である。参観者に音楽会の内容についてアンケート調査を行ったところ、調査結果は、「よかった、概ねよかった」がほとんどであった。音を媒体としたコミュニケーションとしての観点から各小中学校が文化的な連携を深め、それぞれで行われている音楽会にも互いに参加するなどの取組も見られた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成22年度から市内全小・中学校が参加している本音楽祭は、同日に開催し、小学生を対象に含む音楽行事としては、市で唯一の事業であり、その意義は大きい。児童生徒の学習意欲の向上につながるとともに、音楽会の教育的効果については、市立小・中学校の教職員及び保護者からの認識が高まっている。参観者からは、児童生徒の歌声のすばらしさに感動した、継続してほしいなどの内容の感想も増えている。平成23年度から、上尾市歌を全員合唱として、参加した児童生徒全員で合唱した。平成25年度からは、保護者も一緒に歌えるよう、全員合唱曲の歌詞をプログラムに掲載した。また、児童の思いや学校行事等を配慮し、全ての小学校で5年生の参加とした。さらに運営面で、これまで運営委員会と実施委員会に分かれていたものを1本化して合理化を図った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	音楽会参加者数	約2,000人	2,000人以上	2,000人以上

事業番号 20	小中学校図書整備事業	担当	教育総務課
---------	------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	
施策	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子どもたちの自主的・自発的な学習活動を支援するとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ読書活動を推進するため、「学校図書館図書標準」（平成5年3月）を目標に、充実した学校図書館図書の整備を図る。
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒（平成25年5月1日現在） 小学校・・・児童数12,238人 中学校・・・生徒数 6,382人
事業の内容	学校図書館図書標準の早期達成に向け、図書の計画的な整備を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	32,660 千円	25,860 千円	27,658 千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
増加冊数	小学校	13,272 冊	12,399 冊	10,745 冊	
	中学校	6,959 冊	5,783 冊	6,029 冊	
廃棄冊数	小学校	43,153 冊	4,023 冊	625 冊	
	中学校	17,848 冊	497 冊	519 冊	
年度末現有冊数	小学校	174,740 冊	181,400 冊	193,011 冊	
	中学校	103,677 冊	106,119 冊	111,629 冊	
図書標準目標達成率	小学校	78.1%	83.7%	89.3%	
	中学校	72.1%	74.3%	77.4%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>確かな学力と豊かな心をはぐくむため、子どもたちの自主的・自発的な学習活動の場として、また多くの情報を収集できる場として、学校図書館の果たす役割は大きなものがある。整備指標である「学校図書館図書標準」の達成を目標としてきたが、現状では図書標準目標達成までには至っていない。しかし、文部科学省の学校図書館関係地方財政措置を利用し、図書購入予算を例年並みに維持し、着実に蔵書数を増やすことができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度は学校図書事務の手引きを作成した。これにより、学校図書館管理システムを中心とした運用管理方法が学校間や教育委員会と学校間で統一的に業務できるようになった。</p> <p>また、文部科学省の学校図書館関係地方財政措置を利用し、学習指導要領にもある新聞学習のため、小中学校の学校図書館へ新聞配備を実施した。</p> <p>小学校（1校につき） ⇒ 一般紙1紙＋子ども新聞1紙 中学校（1校につき） ⇒ 一般紙2紙</p> <p>今後も学校図書館を充実させるため、図書購入だけでなく書架購入や図書室スペース不足の有無などにも気を配り、積極的に図書整備を推進していく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	図書標準目標達成率（小学校）	89.3%	94.6%	100%
	図書標準目標達成率（中学校）	77.4%	81.2%	85.8%

事業番号 21	図書館資料整備事業	担当	図書館
---------	-----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策Ⅰ 豊かな心の育成	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	図書館資料の充実を図り、市民の「くらしに役立つ 市民とともに歩む図書館」をめざす。
事業の対象 対象数	上尾市民と在勤・在学の人（広域・相互協定による、さいたま市・伊奈町・桶川市・蓮田市に在住の人）
事業の内容	図書館運営の根幹となる図書資料（書籍・新聞・雑誌・CD・DVD等）の整備を進め、図書館サービスの充実を図る。

●事業費決算額の推移

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
37,214 千円	37,410 千円	37,783 千円	33,661 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
蔵書数（全9館）	580,537 点	580,754 点	589,211 点	雑誌・視聴覚資料含む
蔵書密度（市民一人当たり）	2.56 点	2.55 点	2.58 点	蔵書数/人口
図書館利用者数（全9館）	385,539 人	440,036 人	417,909 人	
総貸出点数（全9館）	1,418,163 点	1,455,006 点	1,345,988 点	
貸出密度（市民一人当たり）	6.24 点	6.39 点	5.90 点	貸出点数/人口

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>図書館の根幹といえる資料や情報の提供は、近年市民ニーズの専門性、急速な情報展開、生涯学習に対する意識の高まり等、多様化する傾向にある。その多様化するニーズに応えるため、広い視野での図書館資料を収集し、蔵書の充実・提供を進めた。また、県内ネットワークを有効活用し、相互貸借（広域利用）による幅広い資料の活用に努め、迅速に利用者へ提供している。また、利用者が必要な情報や問題解決を図るレファレンスサービスを充実させ、きめ細かなサービスの提供をした。更に、読書啓発につなげる講演・講座を多数開催し多数の市民に参加いただいた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>公共図書館としてのより充実した蔵書構成を考え資料の選書を行う。また、読書環境の整備に努めるため図書館の組織化を強化する。さらに、地域コミュニティの醸成に役立つ資料整備にも努める。また近年は、中学・高校生の図書離れが進む中、今年度初めて中学校（1校）でブックトークを実施したところ、好評を得ることができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	貸出密度（市民一人当たり貸出点数）	5.90 点	5.95 点	6.00 点
	蔵書数（全9館）	589,211 点	595,103 点	601,054 点

事業番号 22	指導法改善事業	担当	指導課
---------	---------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	
施策	施策1 豊かな心の育成	施策1 教職員の資質・能力の向上	施策2 学校経営の改善・充実 施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な図書・資料の作成・配布、研修会の開催等を行う。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・教員及び管理職 各種研修会等参加者
事業の内容	学力向上プランの作成、上尾市の教育「指導の重点・努力点」の印刷製本（全教職員への配付）、研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	79,622 千円	31,359 千円	10,562 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
指導の重点努力点 配布数	942 冊	965 冊	974 冊	小・中学校教職員への配布数
研修会実施数	44 回	44 回	44 回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の平均値	小学校	52.4	51.8	51.9 全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.7	50.3	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>教育基本法、学校教育法、学習指導要領等法令に基づいて適正な教育課程を編成し、実施するとともに、学力向上及び教育活動の充実を図るため教員としての資質そのものや指導力の向上を図ることは大変重要である。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、少人数による授業実践やチームティーチングによるきめ細やかな指導を繰り返し行ってきた。導入の済んだデジタル教科書のさらなる活用方法やタブレット端末の積極的活用を推進するためのICT活用研修会の実施、道徳教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の幅を広げることができた。また、児童生徒の実態を踏まえ各学校で作成した学力向上プランの積極的な活用を推進してきた。さらに、上尾市の指導の重点・努力点を作成し全教員へ配付することにより、効率的に市の教育方針を周知徹底し、指導方法の工夫改善、授業の充実を図ることにつながった。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>授業の質の維持とさらなる向上、指導方法の工夫改善が図られてきているところである。教師一人一人の指導力の向上を図り、指導内容の理解を深めるため、研修会の内容等を充実させる。さらに、ハード面・ソフト面の両方の視点から子供たちを取り巻く教育環境の整備を一層の充実を図る必要がある。</p> <p>教職員を対象とする研修会については、指導力の向上をねらいとし、デジタル教科書を活用し、ICT機器の積極的活用や各教科等の指導方法等をテーマの中心に据え、教職員が自主的に研修できる機会として教師力アップ講座（夜間）を開催し、教職員の資質・指導力の向上を図る機会とした。</p> <p>今年度も、指導の充実を図るとともに、デジタル教科書活用・ICT機器活用研修会を開催し、また、教師力を向上させるためのブラッシュアップ、スキルアップ研修を実施することができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標				平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の平均値	小学校		51.9	52.0	52.3	
		中学校		50.3	50.5	50.8	

事業番号 23	中学校部活動支援事業	担当	指導課
---------	------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策1 豊かな心の育成	施策7 児童生徒の体力向上	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	部活動の充実及び活性化、生徒の意欲の向上と技能の向上を図る。また、生涯スポーツ・文化に親しむ習慣の基礎を養うことや目標を持った意欲的な学校生活を送ることができるようにする。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	保護者、地域から部活動の活性化が望まれる中、部活動指導員を配置することで、生徒の技能の向上を図り、安全を確保する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	3,080 千円	3,080 千円	3,028 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
部活動指導員配置率	78.9%	81.8%	90.1%	学校配置指導員数 / 学校が希望する指導員数
運動部活動加入率	74.2%	75.0%	74.1%	運動部活動加入生徒数 / 生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>中学校に、技術指導を中心とした、部活動指導員を配置し、生徒の技能の向上を図ることができた。また、活動するうえでの安全を確保することにもなり、部活動の活性化を図ることができた。</p> <p>中学校部活動では顧問の人事異動等の関係で、技術指導を行える指導者が不在となり、部の活動が停滞したり存続が難しくなったりする等の状況があるが、部活動指導員を配置することで、長期的に技術指導を受けることができた。</p> <p>平成25年度は、関東大会に男子バレーボール部を含む13名が出場し、全国大会には、水泳・陸上において1名ずつ出場することができた。</p> <p>部活動指導員の研修会において、消防署の方を講師として招聘し、応急処置とAEDの使い方について実技を通して研修した。</p>
	<p>生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などの育成を図る部活動は、スポーツ、文化において高い技能を持つ部活動指導員を配置することにより、円滑に進めることができている。</p> <p>また、思春期にあたる中学生時期に様々な人と接することで、心の成長につながっている。</p> <p>部活動指導員委嘱式・研修会を平日夜間に実施していたものを、平成26年度から、土曜日午前中に実施することにした。さらに、消防署の方を招聘することで、より実践的な研修を開くことができる。委嘱式・研修会への参加が約半分程度なので、全員が参加することができるような工夫が求められる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	部活動指導員配置率	90.1%	100%	100%

A

事業番号 24

中学校吹奏楽演奏会開催事業

担当

指導課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	中学校部活動の充実と相互の発展向上を図るとともに日頃の活動の成果を発表する機会の一つとする。対象生徒の意欲・技能の向上を図るとともに、保護者や一般市民にも公開することにより、市民の文化的活動としての位置付けを図る。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校吹奏楽部
事業の内容	生徒の演奏技能を高め、担当教員の指導力の向上を図る機会として吹奏楽演奏会を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	252 千円	299 千円	311 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
参加学校数	11校	11校	11校	参加中学校数
一般参加者数	310人	378人	439人	一般参加者数（受付通過分）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>市内中学校における部活動の取組については、運動部における各種大会が中心となっており、いずれも体育的活動が多い。本事業は、文化部における部活動の活性化と文化的活動の振興を図ることに効果を挙げている。また、吹奏楽演奏会の開催により、吹奏楽部の生徒の演奏技能や担当教員の指導力の向上にもつながっている。本市の文化芸術の振興の点でも、本事業のような音楽的活動は効果的であり、市の文化的な活動としての一躍を担っている。また、一般公開することで、市民への芸術文化の提供と学校理解につながっている。さらに、埼玉県吹奏楽コンクールに向けての練習の場としての役割も大きく、教育的効果をあげている。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成23年度から、市内11校すべての中学校の吹奏楽部が揃って参加した演奏会となっている。吹奏楽部に所属する生徒には、日頃の取組の成果を発表する場であるとともに、部活動への取組の意欲向上にもつながっている。また、吹奏楽部顧問が委員となる実施委員会を組織することで、顧問同士が連携を図り、指導に関する情報交換等を行うことで吹奏楽部顧問の指導力の向上を図ることができている。演奏技術及び演奏態度とも年々向上してきており、埼玉県の吹奏楽コンクールに出場した学校は、日常的な取組の成果をあげている。市の広報に開催日等を掲載しており、市の文化的な活動の一つになっており、一般参加者数も昨年度の378人から439人へと増えている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	一般参加者数	439人	450人	450人

事業番号 25	子どもの読書活動支援センター運営事業	担当	図書館
---------	--------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策1 豊かな心の育成	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子どもの読書活動の推進を図るため、拠点となる「子どもの読書活動支援センター」を富士見小学校図書館内に開設し、上尾の子どもを本好きにするための事業を展開する。
事業の対象 対象数	18歳以下の子どもたちと保護者
事業の内容	家庭・地域・学校へ情報の収集提供や講師の派遣、講演会・講座の開催、ボランティアの養成、出張おはなし会の開催

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	— 千円	3,763 千円	8,179 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
出張おはなし会	—	23回	39回	回数（ボランティア派遣を含む）
ボランティア養成講座	—	21回	28回	回数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>25年5月から小中学校・幼稚園で本を巡回させる「あっぴいぶっくるセット本」の事業を開始し、学校から好評を得た。西中学校では、このあっぴいぶっくる本を紹介するブックトークを行い、読書離れが進むといわれる中学生の読書意欲を高めるきっかけとなった。また、25年度は年間を通じ、効果的な技法を習得するための読み聞かせボランティア養成講座を行った結果、講座の修了者から読み聞かせグループが結成され、学校の授業や地域の公民館などで子どもたちに読書の楽しさを伝えている。支援センターは、今後結成されたボランティアグループのさらなる技術力アップのために、ステップアップ講座等を開催し、支援をすることで、活躍の場を拡大していく必要がある。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>子どもの読書活動支援センターでは、読み聞かせボランティアの養成に力を入れた効果が現れ、ボランティアが行う読書のアニメーション・科学絵本の読み聞かせ・ストーリーテリング等いろいろな手法で子どもたちに読書の魅力を伝えた。更に、活躍の場を拡げ学校・地域をあげて子どもたちの読書支援をしていく。</p> <p>※ストーリーテリング：伝えたい思いやコンセプトを、それを想起させる印象的な体験談やエピソードなどの“物語”を引用することによって、聞き手に強く印象付ける手法</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	出張おはなし会	39回	40回	40回
	ボランティア養成講座	28回	30回	30回

A

事業番号 26	生徒指導推進事業	担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒の非行・問題行動の未然防止と、健全育成及び学校生活の充実を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	中学校での非行問題行動の未然防止のため、4人の生徒指導支援員を要請のあった中学校へ派遣し、校内巡視や非行・問題行動を取る生徒への対応など、中学生の非行問題行動を未然に防ぐ活動を行う。また、生徒指導推進協議会の活動をとおり、各中学校区で小・中学校及び地域住民、警察等関係機関及び青少年育成団体、高等学校等と連携しながら、青少年健全育成活動、長期休業中のパトロールや補導を行い、地域と一体となった総合的な生徒指導の取組を推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	4,504 千円	4,539 千円	4,543 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
支援員派遣校数	5校	4校	4校	生徒指導支援員派遣中学校数
支援員1校あたり週派遣日数	1.6日	2日	2日	派遣校1校あたりの週派遣日数
暴力行為発生件数	26件	18件	3件	小・中学校の暴力行為発生件数
街頭補導回数	536回	569回	494回	各中学校区における補導回数
地域の集い参加者数	359人	332人	363人	青少年健全育成地域の集い参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>生徒指導推進事業については、生徒指導支援員の活動や上尾市生徒指導推進協議会の取組により、暴力行為が3件と平成24年度を大幅に下回った。青少年健全育成地域の集いの参加者数は平成24年度を大幅に上回り、地域と一体となった生徒指導の推進が図られた。生徒指導支援員は、2名1組で、教師の目の届かない時間帯、場所を巡回し、生徒の暴力行為等の未然防止を図り、成果をあげることができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>青少年健全育成地域の集いでは、e-ネットキャラバンの講師を迎え、ネットトラブルについて講演会を行った。保護者の興味関心が高い内容の講演で、肯定的な感想が多くあった。今後も児童生徒や地域の実態を踏まえた講演会を行っていくことが重要である。</p> <p>本年度は各中学校における街頭補導回数が減少したが、これは夏季休業日が5日間短縮された影響が考えられる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	暴力行為発生件数	3件	0件	0件

事業番号 27	さわやか相談室運営事業	担当	教育センター
---------	-------------	----	--------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒・保護者の身近な相談機関として中学校に相談員を配置し有効に機能させる。不登校生徒が学級復帰を果たすまでの第一段階として、教育相談主任・学級担任等と連携して、生徒個々にカウンセリング等を実施しながら学級復帰をめざす。
事業の対象 対象数	市内全中学校11校
事業の内容	児童生徒・保護者等の様々な相談に応じるため、市内中学校のさわやか相談室に相談員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	17,718 千円	17,760 千円	17,882 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
相談室の相談件数	9,927回	11,204回	10,470回	相談員が扱った相談の延べ回数
相談の解決率	80%	87%	76%	解決件数/相談件数×100
不登校生徒数割合	1.69%	1.60%	1.83%	不登校生徒数/全生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>さわやか相談室では、自校の生徒や保護者の学校生活や家庭生活での悩み等の相談に応じたり、学級に行けない不登校傾向のある生徒へのカウンセリングを行ったりしている。校区内の小学校とも連携をとり、小学生保護者等との面談等も行っている。また、教育センターの相談員及び適応指導教室指導員と連携を図り、きめ細かい支援を行っている。これらの業務は、不登校児童生徒の教室復帰に導く重要な業務である。本年度の相談のべ件数は昨年度より減少している。相談の解決率は76%で、前年度と比べると低くなっているが、これは、解決すべき問題が長期化・深刻化していることが影響していると考えられる。さわやか相談室相談員は、教育センターと積極的に連絡をとり、解決に向けての連携を深めることができた。また、スクールカウンセラーとの連携も深まっており、校内の連携を活かした支援も確実に行われてきた。不登校生徒数の割合は1.83%で、昨年度より増加したが、さわやか相談室相談員と教育センターの連携でかわった生徒は段階を踏んで学校へ戻るできるようになった。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>市内11のさわやか相談室の活用方法がそれぞれ違っているため、調査を行い、教室復帰を多く果たしている相談室の活用方法を把握し、相談員研修会で紹介したり、研修の内容に含めたりしてきた。さらに、不登校生徒を減らすために教育センターが相談室訪問を行うとともに、連携しながら生徒や保護者に対応したり、一人一人の生徒の学校復帰に向けた支援計画を立てたりして対応してきた。今後は、不登校生徒の割合が減るように、教育相談主任研修会をとおして、さわやか相談室をさらに活用した学校内での教育相談体制の構築と充実、教育センターの関係機関等との連携を深めることの必要性を伝え、問題の早期発見・早期解決をさらに推進していく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	不登校生徒数割合	1.83%	1.75%	1.70%

事業番号 28	いじめ根絶対策事業（防止事業）	担当	指導課
---------	-----------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒の個々の状況を的確に把握し、いじめの未然防止や解消、いじめの早期発見・早期対応を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校全児童生徒
事業の内容	いじめの問題については、いじめが原因の一つと思われる児童生徒の自殺が起きるなど、社会問題化しており、依然として教育上大きな課題となっている。問題行動等の原因や背景は、個々のケースにより様々であるが、インターネットや携帯電話を介した「ネット上のいじめ」など、学校における「いじめ発見」が難しい事例もある。また、「いじめは決して許されない」という意識が児童生徒に依然としてしっかり身につけていない状況も課題となっている。このようなことから、児童生徒の個々の状況を的確に把握するための心理検査を実施するとともに、教員の資質向上、保護者との連携、標語の作成をとおして、いじめ根絶の取組を市全体で推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	— 千円	— 千円	6,219 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
いじめの認知件数	28件	32件	22件	小・中学校におけるいじめの認知件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度は、下記のような具体的事業を行い、いじめ問題に対して、学校を中心に、市全体で組織的に取り組むことができた。</p> <p>「CAP研修会」…いじめの早期発見・早期対応といじめの起こりにくい学校づくりを目的として「CAP研修会」を全小・中学校の教員対象の実施した。これにより、教職員のいじめを見抜く能力や望ましい学級経営や信頼関係に立った生徒指導を実践することができた。</p> <p>「Q-U」…いじめの発生・深刻化の予防及びいじめ被害にあっている児童生徒を早期に発見することを目的として「Q-U」を小学3年から中学3年の児童生徒を対象に実施した。また、調査結果を適切に分析し、効果的に活用するために「Q-U」活用研修会を教職員を対象に開催した。これにより、児童生徒の意欲や満足感を把握することができるとともに児童生徒の学級内での相対的位置が分かり、対人関係の基本的なルールが守られているかを把握して、児童生徒が楽しい学校生活を送る一助となることができた。</p> <p>その他…なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスターや上尾市「いじめ根絶」中学生宣言パネルを制作し、各学校へ配布・掲示をすることによって、全児童生徒に「いじめ根絶」の啓発に効果的であった。</p>
	<p>「CAP研修会」…平成25年度は全小・中学校で開催され、市内全教職員が受講し、いじめを見抜く能力や組織的に対応することの大切さを学ぶ機会となった。</p> <p>「Q-U」…平成25年度は、全小学校第3学年から第6学年の児童及び全中学校第1学年から第3学年の生徒を対象に実施した。児童生徒の集団における満足度を測定し、個に応じた生徒指導を実践することができた。</p> <p>「なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスター」を制作・全小・中学校へ掲示した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	いじめの認知件数	22件	0件	0件

事業番号 29	いじめ根絶対策事業（相談事業）	担当	教育センター
---------	-----------------	----	--------

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	「いじめホットライン」「いじめホットメール」を設置し、いじめられている児童生徒の相談窓口とする。また、教育・社会福祉等の専門的な知識や技能を持ったスクールソーシャルワーカー（SSW）を設置し、児童生徒の問題行動等の解決を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	いじめ相談の迅速な対応を行う。いじめ等の問題で児童生徒本人の心の問題とともに、置かれている環境に対し働きかけを行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	— 千円	— 千円	617 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
いじめ相談解決率	—	—	100%	いじめ相談解決数/いじめ相談数
いじめホットライン・ホットメール相談件数	—	—	17件	ホットライン（電話）件数+ホットメール件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>「子ども・いじめホットライン（電話）」で受けた相談件数は13件である。内訳は小学生が7件、中学生が5件、幼稚園が1件である。「子ども・いじめホットライン（電話）」では、相談員が相談者の気持ちを十分受け止め、寄り添いながら丁寧に相談を進め、学校と協力して問題の解決を図った結果、100%のいじめ解消となった。「子ども・いじめホットメール」で受けた相談件数は4件である。内訳は中学生3件、不明が1件である。「子ども・いじめホットメール」は、匿名であり、メール相談のみであるため、いじめの詳細を聞くことはできないが、メールで丁寧に対応している。本年度の教育センターで受けた、いじめ相談は、スクールソーシャルワーカーを派遣するすようなことには至らなかったが、いつでも対応できる体制をとることができた。</p> <p>いじめ相談に関する広報については、市内全児童生徒に、いじめ相談専用の電話番号及びメールアドレスを記したカードを作成・配布したり、毎月の「広報あげお」に掲載したりすることで広く知らせることができた。休日・夜間については、相談対応できないため、留守番電話機能を活用することで対応することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度から新たに始まった事業である。年度当初に、いじめ相談専用電話を設置するとともに、市内全児童生徒及び関係機関にいじめ相談専用の電話番号及びメールアドレスを記したカードを配布した。カードには、市内全小・中学校で行っている、「なかよく楽しい学校生活を送るための標語」の最優秀を掲載した。また、いじめについて悩んでいる児童生徒の支援を行うため、教育センターにスクールソーシャルワーカーを配置した。休日・夜間は電話やメールの対応ができないため、留守番電話機能のある電話で対応している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	いじめ相談解決率	100%	100%	100%

事業番号 30

人権教育推進事業（指導課所管分）

担当

指導課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進を図り、人権尊重の意識を高めることで、いじめや差別をなくせる学校の実現と相手の立場に立って考える思いやりのある児童生徒の育成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・管理職及び教員
事業の内容	人権教育研修会（人権教育施設体験研修会を含む）をとおして校長、教頭、教員の資質向上を図る。 人権教育を視点においた指導方法の研究をより一層推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	1,345 千円	1,357 千円	1,346 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいでできると回答した児童 生徒の割合	86.5 %	88.7 %	90.0 %	「よくできる」「だいたいできる」回答児童 生徒数／全児童生徒数×100
作文・標語集等配布率	100 %	100 %	100 %	配布数／児童生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>「人権の世紀」と言われる21世紀を迎えてから14年が経つが、いじめ、暴力行為、不登校や非行問題行動の低年齢化や、生徒指導上の諸課題が数多く残されており、それらへの対応が学校教育に強く求められている。また、地域社会においては、未だに社会的身分又は門地、性別、障害の有無による差別の現状もある。このような現状の中で、人権感覚育成プログラムを全小・中学校で取り組むなど、すべての児童生徒に「人権についての正しい理解」を深めるとともに、「差別をなくす」「家族や友達を大切にする」「人と人とのきずなを大切にすること」に重点をおいた人権教育を推進することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>管理職対象及び一般教職員対象など、それぞれの職責に応じた研修を行い、教職員の資質能力の一層の向上と人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、豊かな人権感覚を身に付け、様々な人権問題を自ら解決しようとする児童生徒を育成することは今後も学校教育が担う重要な課題であり、継続していく必要がある。特に、いじめ問題については、上尾市いじめの防止等のための基本的な方針を策定し、それをもとに、各小・中学校においてもいじめ防止等のための基本方針を策定することで、共通理解・共通指導を行うことができた。また、「上尾市『いじめ根絶』中学生宣言」を作成し、「あげおヒューマンライツミーティング21」において発表することができた。校長対象研修会、教頭対象研修会、担当教員対象研修（年3回）、人権教育授業研究、人権教育小中学校研究会全体会・各部会年3回（啓発・調査研究・資料作成）を実施できた。校長対象研修では、ネット上における人権問題とその対応についての内容を初めて盛り込んだ。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	規律ある態度 やさしい言葉づかい	90.0 %	91.0 %	92.0 %

事業番号 31	不登校児童生徒の学校適応指導事業	担当	教育センター
---------	------------------	----	--------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	不登校児童生徒のうち、学校復帰に意欲のある者のよりよい成長と自立を促し、指導・支援を行うことによって、学校への完全復帰を目指す。
事業の対象 対象数	市内小・中学校不登校児童生徒 136人
事業の内容	不登校児童生徒の自立と学校生活への適応を図り、学校に復帰させることを目的として様々な指導・援助を行う。体験学習を多く取り入れた活動や学生ボランティアによる学習支援を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	4,431 千円	4,408 千円	4,682 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
適応指導教室入級者数	10人	9人	13人	入級者数
適応指導教室開設日数	167日	146日	151日	4月及び水曜日を除く平日 *夏休は火・木のみ開設
学校への復帰率	100%	100%	100%	学校復帰した人数/入級者×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾市内における、平成25年度の不登校児童生徒数は136名であるが、その内、教育センターに来所した児童生徒は31人である。適応指導教室に入級した人数は少ないが、個別対応で入級手前の段階の生徒は多く、教育センターでは、その不登校児童生徒の支援を積極的サポートしている。学校適応指導教室は、不登校児童生徒に対して学校復帰を目指すための指導・支援を行う通級教室で、個別対応から集団対応へ移行する児童生徒の体験の場となる。適応指導教室では、自主学習の形態で学習したり、内容を自己決定させてレクリエーション活動や体験活動を行ったりしている。これらの活動により、在籍している児童生徒は、集団の中での行動の仕方を身につけたり、学校復帰に向けた不安感を払拭させたりすることができた。その結果、昨年度入級した児童生徒は100%学校復帰を果たすことができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>教育センターに通ってくる児童生徒は、他者と積極的に関わることができない、関わり方が分からないなど、他者とのコミュニケーションに課題がある。そこで、児童生徒が協力する活動を計画・実行したり、コミュニケーションをとるためのスキル獲得に向けた学習に取り組んだりしていく。さらに、教育センター内の活動にとどまらず、施設外での活動を年間の活動に位置づけ、他者との関わりを多く持たせる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	学校への復帰率	100%	100%	100%

事業番号 32

教育相談事業

担当

教育センター

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	幼児及び児童生徒と保護者、学校関係者が抱える教育問題等を解消する。特に不登校児童生徒については、学校（相談室・適応指導教室を含む）に復帰させる。
事業の対象 対象数	上尾市在住の幼児、児童生徒、保護者及び関係者 約59,000人 （内訳：幼児、児童生徒数約29,000人、保護者数約29,000人、学校関係者約1,000人）
事業の内容	幼児・児童生徒及び保護者の教育問題等に関する相談、軽度発達障害のある児童生徒の相談及び各種知能検査・発達検査を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	9,284 千円	11,446 千円	11,427 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
教育相談案件数	282 件	279 件	321 件	実人数+電話相談（匿名）
教育相談延べ回数	3,432 回	3,171 回	5,935 回	面接相談+電話相談+メール相談
教育相談終結率	88.7 %	86.4 %	79.1 %	終結数/相談案件数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度の教育相談は、副主幹1名、教育心理専門員2名、相談員4名の計7名で対応している。相談案件数は前年度より42件、延べ回数では2,764件増えている。相談の内容については、不登校に関する相談の他に性格・行動や学習・発達での相談も大変多くなっている。それに伴い、知能検査（WISC-Ⅲ）を受けるケースも大変多くなっている。また、相談内容が複雑化・深刻化してきおり、相談が長期にわたるケースも多くなっている。きめ細かく丁寧に問題解決に当たり、一人一人の児童生徒の気持ちが安定して学校に通うことができるまで支援をすることに努めてきたこと、年度の後半以降から、相談件数が急激に増えたこと等の理由から、年度内の終結率は低くなっているが、教育センターが関わった児童生徒及び保護者が抱える問題については、解決への方向性を見出すことができた。教育センターに來所する不登校児童生徒は、今後、増える傾向にあると考えられるので、相談員会議、指導員会議、研修会を定期的に実施し、相談体制の充実及び指導員の資質向上を図りながら、適切かつ有効な支援を行っていく。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>本年度、非常に相談件数が増えたが、早期対応、丁寧なカウンセリングを行い、的確な支援を行うことができた。WISC-Ⅲの検査の結果を活かし、児童生徒にとって必要な支援や教育形態の変更への方向性を捉えることができた。また、積極的に相談員の研修会を行い、相談員としての資質能力の向上に努め、より良い支援をし、学校、家庭、その他の関係機関との連携を密にし、問題の解決にあたってきた。</p> <p>今後は、相談機能の一層の充実を図り、適切な教育相談を行っていくとともに、市内の小・中学校で現在、登校できない児童生徒全員に対し、何らかの形で接触し、教育センターへ繋げることができるようになっていく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	教育相談終結率	79.1%	81%	83%

事業番号 33	児童生徒体力向上推進事業	担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策7 児童生徒の体力向上		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市立小・中学校の児童生徒の体力向上を図り、心身ともに健やかでたくましい人づくりを目指す。
事業の対象 対象数	上尾市中学校体育連盟・小学校体育連盟 上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	上尾市中学校体育連盟の学校総合体育大会及び県民体育大会兼新人体育大会の市内予選会や小学校体育連盟の連合運動会、親善バスケットボール大会などの実施をとおして、児童生徒の体力向上を目指す。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	3,498 千円	3,603 千円	3,645 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
運動部活動加入率	74.2%	75.0%	75.5%	運動部活動加入生徒数/生徒数×100
教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）	80.1%	76.4%	77.4%	週1～2回以上は1時間以上運動すると回答した児童生徒の割合
新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校	79.5%	79.6%	5ランク中上位3ランクの児童生徒の割合
	中学校	84.9%	85.5%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	児童生徒の体力低下が懸念されている現状から、児童生徒の体力向上は学校においても大きな課題の一つとなっており、本市においても児童生徒の体力向上を目指し、さまざまな取組を行うことができた。小体連・中体連が中心となって児童生徒の運動に対する意欲を高め、日常的な運動の推進及び運動の機会を増やすことができた。小学校体育連盟では、親善バスケットボール大会や連合運動会の取組をとおして、運動時間、運動機会の確保につながった。さらに連合運動会では、ブロック制を変更して、22校が共に競い合えるように競技方法を改善した。中学校体育連盟では、部活動の大会を目指し、日頃の練習の充実が図られた。
本年度の特色・改善点等	児童生徒の日常生活における運動の機会は減少傾向にあり、体力向上を図る事業の重要性は今後さらに増していく。また、本市では「ボール投げ」「長座体前屈」について特に課題となっており、授業研究会等をとおして、指導方法等の改善について研究等を行い、課題解決を図っていく。また、体育授業において、各学校で課題種目を準備運動等で取り入れて体力の向上を図っていく。

次年度以降の目標設定

事業評価判定 A	目標指標		平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	教育に関する3つの達成目標 体力 (週1時間以上運動する児童生徒の割合)		77.4%	80.0%	82.0%
	新体力テスト 総合評価 上位3ランク（ABC） の児童生徒の割合	小学校	78.8%	80.0%	80.0%
		中学校	84.6%	85.0%	85.0%

基本目標Ⅲ

安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上

事業番号22(再掲) 指導法改善事業

施策2 学校経営の改善・充実

事業番号4(再掲) 魅力ある学校づくり事業

事業番号22(再掲) 指導法改善事業

事業番号34 学校評議員制度運営事業

事業番号35 元気な学校をつくる地域連携推進事業 【再Ⅳ-1】

施策3 学校施設・設備の整備・充実

事業番号7(再掲) 準教科書・副読本整備事業

事業番号20(再掲) 小中学校図書整備事業

事業番号36 小中学校教育教材整備事業

事業番号37 小学校校舎改築事業

施策4 学校のICT化の推進

事業番号22(再掲) 指導法改善事業

事業番号38 小中学校コンピュータ整備事業

事業番号39 小中学校電子黒板整備事業

施策5 学校安全の推進

事業番号40 児童生徒安全推進事業

事業番号41 学校安全パトロールカー事業

事業番号42 通学路安全対策事業

施策6 就学支援の充実

事業番号6(再掲) 日本語指導職員派遣事業

事業番号43 入学準備金・奨学金貸付事業

事業番号44 小中学校就学援助費補助事業

事業番号45 小中学校特別支援教育就学奨励事業

事業番号46 要保護児童生徒医療費援助事業

事業番号47 準要保護児童生徒給食費援助事業

事業番号 34	学校評議員制度運営事業	担当	指導課
---------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校運営に関し、保護者や地域住民の意向を把握し、意見等を反映させたり、協力を得たりするなど、特色ある開かれた学校づくりを推進するため、学校評議員制度の運営充実を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立各小・中学校 各校5人×33校=165人
事業の内容	学校評議員の委嘱及び学校評議員研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	590 千円	590 千円	590 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校評議員会議開催回数	3.30回	3.21回	3.30回	1校あたりの学校評議員会議の開催回数
学校評価に対する意見聴取回数	1.82回	1.84回	2.30回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>各学校では、学校自己評価等に対する学校評議員からの意見聴取回数が平成24年度を上回った。また、学校評議員開催回数も上回った。また、学校評議員を行事や授業参観に招き、積極的に学校を公開し、学校評議員が校長の学校経営について理解を深めることができた。各学校で、積極的に学校評議員制度の活用を図ることにより、開かれた学校づくりが推進された。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>本年度はすべての学校評議員が経験年数3年以内（1年目72人、2年目45人、3年目48人）となった。学校評議員運営要綱第3条にある「通算の在任年数が3年を超えない」を継続していくことにより、より多くの地域の方々から学校評議員としての意見をいただけるようになった。</p> <p>委嘱式後の研修会では、2つの事例が発表されたが、2例とも校長による発表だった。学校評議員の役割を理解していただくためにも、学校評議員による事例発表を行っていく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	学校評議員会議開催回数	3.30回	4.00回	4.00回

事業番号 35	元気な学校をつくる地域連携推進事業	担当	指導課
---------	-------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	
施策	施策2 学校経営の改善・充実	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地域の方々の児童生徒の活動にかかわる取り組みの機会を増やし、学校に協力いただくとともにより深く学校を理解していただき、地域で子どもを育てると意識を高める。また、学校応援団員の専門的な知識やすぐれた技術など、地域の教育力を学校教育に積極的に活用し、より効果的な学習活動を推進する。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 33校
事業の内容	学校が積極的に家庭や地域社会の教育にかかわることにより、学校の活性化を図るとともに、家庭や地域社会の教育力の向上を目指し、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもの育成に取り組む。地域から学校応援団を組織するとともにコーディネーターを介して、学校に対しての学習支援や環境整備、児童生徒の安全確保・事故防止の支援などを行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	220 千円	220 千円	438 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校応援団員数	10,434人	9,510人	6,918人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動日数	9,029日	8,892日	9,751日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校の活性化を図り、家庭や地域の教育力の向上を目指すため、学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組むことが求められており、各学校における学校応援団の役割は大きい。市内全小・中学校で学校応援団の組織率は100%で、各学校には学校応援コーディネーターが配置されている。学校応援団による安心安全、学習支援、環境整備、体験活動などの活動日数が増え、各学校において一層の教育活動の充実が図られた。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、家庭や地域の教育力の向上につながっている。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年度、市内全小・中学校に学校応援コーディネーターが配置され、ボランティアと学校の橋渡し役となって、学校の全教育活動に一役を担っている。学習活動、安心安全、環境整備、体験活動、部活動、生徒指導、環境教育、学校ファーム等に係る活動において年々充実してきており、学校応援コーディネーターを中心に地域的な活動としての効率性が高くなり、本年度の学校応援団活動日数は、昨年の8692日から9751日と増加した。また、賠償責任保険を市独自で予算化し、活動を支援している。学校応援団の高齢化に対応するために、本年度は、傷害保険の補償内容を一部変更し、怪我や事故等にあつたときの補償額を引き上げた。本年度の学校応援団員は、事故や怪我もなく活動できた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	学校応援団活動日数	9,751日	10,000日	10,000日

事業番号 36	小中学校教育教材整備事業	担当	教育総務課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進		
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	授業等で使用する学習教材、教具の整備・充実に努め、学習環境を整備する。
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒（平成26年5月1日現在） 小学校・・・児童数12,238人 中学校・・・生徒数 6,382人
事業の内容	授業等で使用する学習教材の整備

●事業費決算額の推移

年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	総額	43,961千円	43,888千円	35,194千円
	ICTを除いた金額	36,383千円	38,288千円	35,194千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
小学校の児童1人当たりの支出額	1,672円	1,678円	1,614円	小学校事業費（ICT分除く）／児童数
中学校の生徒1人当たりの支出額	2,356円	2,724円	2,418円	中学校事業費（ICT分除く）／生徒数
備品購入費（小学校）	26,662千円	26,591千円	19,758千円	
備品購入費（中学校）	17,299千円	17,297千円	15,435千円	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度も限られた予算の中で、学校からの購入計画を基に、学校規模に応じて備品を効率的に整備した。理科備品については今年度も国庫補助金を活用した。</p> <p>24年度から導入した備品管理システムへの教材備品データの移行が25年度で完了した。これにより、学校全体の備品整備状況が把握しやすくなるので、より効率的な予算執行が可能となる。</p> <p>今後も子どもたちが安心して授業をうけることができる学校環境整備のひとつとして教材備品を整備することは重要であり、予算を維持し、学校と教育委員会が協力して効率的な教材備品購入を継続していく。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>昨年度から続けてきた学校備品管理担当者の会議を今年度も継続的に実施した。そのため、紙台帳であった教材備品台帳データの備品管理システムへ移行作業が今年度中に終了した。会議の中では、データ移行だけでなく備品管理方法の再確認が図れた。</p> <p>備品管理システムを中心とした運用管理方法が学校間で統一的に業務できるよう学校、教育委員会と調整作業を行ってきた。現在も継続中である。</p> <p>※決算額が平成23、24年度より大きく下がっているのは、ICT関連の備品購入費がコンピュータ整備事業に移管したためである。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	備品購入費（小学校）	19,758千円	19,142千円	19,800千円
	備品購入費（中学校）	15,435千円	12,957千円	15,400千円

事業番号 37

小中学校校舎改築事業

担当

教育総務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策 施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地震発生等の災害時に児童生徒の安全を確保するとともに、時代の変化に対応できる学校施設整備を図るため
事業の対象 対象数	昭和39年以前に建築された校舎が残る、富士見小学校、中央小学校、上尾中学校の3校を対象とする。
事業の内容	耐力度調査、基本設計、実施設計を経て改築工事を実施する。富士見小学校については、全面改築とし平成23年度に竣工、また、中央小学校は、南校舎棟の部分改築で平成25年度に竣工した。上尾中学校については、南校舎棟及びプール・格技場の重層棟、屋内運動場棟の部分改築とし、平成24年度に基本設計、平成25年度に実施設計を完了した。平成26年度に工事着手し、平成27年度に竣工する予定である。この上尾中学校改築事業の完了をもって、小中学校の耐震化率が100%に達する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	1,448,948 千円	323,419 千円	1,473,461 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
富士見小学校校舎改築工事出来高率(%)	100%	—	—	平成23年度竣工
中央小学校南校舎改築工事出来高率(%)	実施設計	20%	100%	平成25年度竣工
上尾中学校校舎改築工事	—	基本設計 耐力度調査	実施設計	平成26年度～27年度南校舎改築・平成26年度プール・格技場改築(予定) 平成27年度体育館棟改築(予定)
改築事業完了校累計数	1校/3校	1校/3校	2校/3校	改築事業校:3校 (富士見小・中央小・上尾中)

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価

平成25年8月末に中央小学校南校舎の改築工事が竣工し、耐震補強工事も改築事業の上尾中学校を除き、平成25年度末までに完了している。上尾中学校についても、実施設計が完了し、平成26年度、27年度の改築事業に向けて、順調かつ計画的に事業展開をしている。

また、時世に即した改築事業を行うことで費用対効果が図られると共にトイレのリニューアル化も完了し、健康管理や心の育成にも寄与している。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
改築事業完了校累計数	2校/3校	2校/3校	3校/3校

事業番号 38	小中学校コンピュータ整備事業	担当	教育総務課
---------	----------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの情報活用能力を育成するための教育機器の整備 ICT（情報通信技術）を活用した効率的な授業実現のための授業支援機器の整備 校務の効率化のための校務機器の整備
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒及び教職員 小学校・・・児童数12,238人 教職員数600人 中学校・・・生徒数 6,382人 教職員数385人
事業の内容	学校に配置しているコンピュータシステムの整備及び整備機器の保守 ※パソコン2,552台（教育用1,456台、校務用1,096台）、プリンタ、その他周辺機器

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	112,725 千円	117,939 千円	124,925 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
教育用パソコン設置台数	1,453台	1,453台	1,456台	年度末現在
校務用パソコン設置台数	1,086台	1,080台	1,096台	年度末現在
教育用パソコンの目標達成値 (児童生徒3.6人に1台)	13.2人に1台	13.0人に1台	12.8人に1台	児童生徒数÷教育用パソコン設置台数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>校務用パソコンにおける文科省の達成値（教職員1人に1台）についてはすでに実現できているが、教育用パソコンにおける達成値（児童生徒3.6人に1台）はいまだに実現できていない。</p> <p>上尾市では教育用パソコンとして学校に配置しているのは、パソコン教室や学校図書館に配置しているものだけであり、普通教室で使用するパソコンは配置できておらず、ここ5年間は増台できていない。</p> <p>普通教室へのパソコン配置をするだけでなく、普通教室において効率よくパソコンを運用するには無線LANによるネットワークの設置が不可欠である。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>小学校パソコン教室に配置している教育用パソコンが平成25年10月31日でリース期間が終了したことを受けて、新たに新機種への入替作業を行った。今回の入替はノートパソコンではなくタブレット端末を導入した。タブレット端末を導入したことにより、小学校ではパソコン教室だけでなく普通教室にもタブレット端末を持ち込み、授業に活用していた。</p> <p>また、デジタル教科書が小中学校に多くの科目で導入され、益々授業のICT化が求められている状況の中、子どもたちが授業で使用するパソコンを配置することが授業の充実を図ることになる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	教育用パソコンの目標達成値	12.8人に1台	12.7人に1台	12.4人に1台

事業番号 39

小中学校電子黒板整備事業

担当

教育総務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	大型テレビを電子黒板として活用し、子どもたちに授業に対する興味・関心を持たせ、集中力を高められるようなインパクトのある授業を実現するため、電子黒板ユニットを整備する。
事業の対象 対象数	小・中学校の設定必要台数（小学校）通常学級＋特別支援学級＋特別教室用4台（1校につき） （中学校）通常学級＋特別支援学級＋特別教室用5台（1校につき） 小中学校学級数（小学校）400学級（中学校）203
事業の内容	市立小中学校33校への大型テレビ、電子黒板ユニットの整備 ※電子黒板用大型テレビ総数 626台（小489台、中137台） ※電子黒板ユニット総数 381台（小289台、中92台）

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	7,875 千円	4,712 千円	4,620 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
電子黒板ユニット設置必要台数（小学校）	539台	513台	516台	
電子黒板ユニット設置必要台数（中学校）	258台	255台	254台	
大型テレビ設置台数（小学校）	487台	487台	489台	
大型テレビ設置台数（中学校）	117台	117台	137台	
電子黒板ユニット設置台数（小学校）	128台 (157台)	66台 (223台)	66台 (289台)	()内はユニット総数
電子黒板ユニット設置台数（中学校）	22台 (48台)	22台 (70台)	22台 (92台)	()内はユニット総数
電子黒板ユニット設置率（小学校）	29.1%	43.4%	56.0%	ユニット設置総数／設置必要台数
電子黒板ユニット設置率（中学校）	18.6%	27.4%	36.2%	ユニット設置総数／設置必要台数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	小中学校ではデジタル教科書が多くの科目で導入され、電子黒板を授業で活発に利用している。また、小学校にはタブレットが導入されており、電子黒板との連携したデジタル授業が小学校で研究されてきており、デジタル教材を使用した授業が徐々に増えてきている。今後、大型テレビをすべての小中学校に配備し、デジタル教科書の活用を一層図れるような環境を整える必要がある。
本年度の特色・改善点等	教科書や教材等のデジタル化が普及・促進しており、子どもたちの学力や情報処理能力の向上を図るため、電子黒板ユニットの配置は必要不可欠であると考え。今年度は前年度同様、小学校では1校につき3台ずつ、中学校では1校につき2台ずつ設置することができた。設定率100%に向けて必要最低限には設置台数を増加することはできた。今後は、中学校への電子黒板ユニット設置率を増加させていく必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標		平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
大型テレビ設置率	小学校	94.7%	100%	100%
	中学校	53.9%	100%	100%

事業番号 40	児童生徒安全推進事業	担当	学校保健課
---------	------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校管理下における児童生徒の安全確保を図るとともに、健康教育向上に資する。
事業の対象 対象数	小・中学校児童生徒（平成25年5月1日現在） 小学校の児童 12,238人 中学校の生徒 6,382人
事業の内容	学校管理下における児童生徒の事故に備え、教職員への応急手当（心肺蘇生法）講習を行うとともに、事故等に対し、その医療費等を補償する。また、児童生徒の登下校等の安全確保のため、防犯ブザーを貸与する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	20,802 千円	20,567 千円	24,082 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
新規防犯ブザー貸与数	2,150人	2,160人	2,210人	市内小学校22校の新1年生に配布
スポーツ振興センター 災害共済加入負担金	17,965千円	17,650千円	17,448千円	
全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	—	—	100%	心肺蘇生法講習等を指導する応急手当普及員の資格を持つ教職員が在籍する学校（平成25年度より配置）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校管理下における児童生徒の安全確保のため、心肺蘇生法講習会（プール開始前に教職員に対し実施）、防犯ブザーの貸与（登下校時の犯罪抑止）、タクシー借上料（緊急時の病院への搬送）の事業を行っている。また、学校内の不審者対応として、ネットランチャーを更新し、各小・中学校に配備した。これらの事業により、大きな事故発生や犯罪の防止につながり、効果があったと思われる。</p> <p>また、学校管理下で起きた事故や病気については、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度より、事故発生から治癒まで負担した医療費を給付している。さらに、児童生徒に賠償責任がある場合にも保険加入しているため、保護者の負担軽減になっている。さらに、大規模災害時の安全対策として、平成23年度末に改訂した上尾市学校安全マニュアル（防災編）をもとに、平成24年度に上尾市立小・中学校一斉避難訓練を行い、学校・地域・教育委員会の連携を図った。</p>
	<p>本年度の特色・改善点等</p> <p>心肺蘇生法講習会の形態を変更し、応急手当普及員の資格を持った教職員が、自校において講師となり、他の職員に心肺蘇生法の研修を実施する。なお、応急手当普及員不在などの学校には、アドバイザーとして消防職員の派遣をお願いしている。今後、応急手当普及員の在籍率を100%維持できるよう、事業を進めていく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	100%	100%	100%

事業番号 41 学校安全パトロールカー事業

担当 学校保健課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市内各中学校11校に、学校防犯パトロールカーを配備し、教職員、PTA、事務区などと連携し、地域防犯パトロールを実施し、登下校の安全と地域の犯罪抑止力を期するもの。
事業の対象 対象数	小・中学校児童生徒（平成25年5月1日現在） 小学校の児童 12,238人 中学校の生徒 6,382人
事業の内容	各中学校校区単位に青色回転灯とスピーカーを装備した白黒ツトンの巡回用パトロールカーを配備し、学校・PTA・事務区等の協力のもと、学校内パトロールを実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	3,388 千円	3,355 千円	3,208 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
月あたりパトロール回数	15.2回	15.6回	15.3回	
登下校時の交通事故件数	15回	13回	4回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校・家庭・地域が連携をして活動する「学校安全パトロールカー事業」も今年度で6年が経過し、地域の実態に合わせ、組織的に取り組むことが定着してきた。学校だけでは補えないパトロール活動に対し、保護者や地域の方々が積極的に参加していただける状況が整ってきているので、年々交通事故・不審者の数が減少している。子供たちが安全に登下校を行えるのも、この事業を中心とした地域の見守り活動によるものである。今後も、「地域の子供たちを地域で守る」の具体的な取り組みとして着実に浸透させていく。</p> <p>平成25年度の成果として、事故件数が大幅に減少した。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>警察からの防犯速報を各学校に情報提供することで犯罪・不審者の防止の抑止力につながった。運転者登録・パトロール実施者証取得者の増加に伴い、より効率的な運用が必要である。また、車両修繕費の保険で適応できない部分も検討が必要である。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	登下校の交通事故件数	4件	0件	0件

事業番号 42	通学路安全対策事業	担当	学校保健課
---------	-----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	他市での登下校中の交通事故が相次ぎ、市として通学路の安全確保に集中的に取り組むことを目的とする。
事業の対象 対象数	平成25年度 14か所の対策を実施
事業の内容	市PTA連合会からの通学路危険箇所改善要望を基本とし、市が実施すべき改善内容のうち、必要性緊急性が高い箇所の改善対策を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	— 千円	— 千円	8,264 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
危険箇所改善要望箇所数	160箇所	168箇所	164箇所	小学校通学路に関する改善要望箇所数
学校管理下での児童の交通事故件数	5件	7件	1件	児童が学校管理下内で交通事故にあった件数
安全対策実施箇所数	—	—	14箇所	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>他市での登下校中の交通事故があり、平成24年6月市議会定例会において、通学路の改善要望の進捗についてなど通学路の安全対策に関する一般質問が出されるなど、通学路の安全対策は、緊急かつ集中的に取り組む必要がある。</p> <p>そのため、関係各課により改善に取り組むために調整会議で検討重ね、市PTA連合会からの通学路改善要望をもとに、改善箇所を抽出し、市が行うべき改善対策を学校保健課の事業として平成25年度から通学路安全対策事業を実施している。</p> <p>このことにより、通学路危険箇所の改善が確実に進んでいる。</p> <p>なお、検討を重ねる中で、平成26年度以降の通学路安全対策の取り組み方法について、さらに調整が必要なことが明らかになった。</p>
	<p>本年度の特色・改善点等</p> <p>改善箇所の抽出方法を見直し、関係各課による専門的な知識を活かした改善箇所の選定を行うこととした。</p> <p>また、計画的、かつ集中的に事業に取り組んでいることから、国の補助金を活用することとしている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	学校管理下での児童の交通事故件数	1件	0件	0件

事業番号 43

入学準備金・奨学金貸付事業

担当

教育総務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	進学を意欲を有する者で経済的な理由により就学困難なもののために、入学準備金又は奨学金の貸付けを行い、教育の振興を図る。
事業の対象 対象数	市内に引き続き1年以上居住し市税を完納している世帯の保護者（入学準備金）、子女（奨学金）
事業の内容	<p>入学準備金 ①高等学校（特別支援学校含む）・高等専門学校・専修学校高等課程 公立…20万円 私立…30万円</p> <p>②短期大学・大学・専修学校専門課程 公立…30万円 私立…50万円</p> <p>奨学金 ①高等学校（特別支援学校含む）・高等専門学校・専修学校高等課程 月額1万円 ②短期大学・大学・専修学校専門課程 月額2万円</p>

●事業費決算額の推移

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
8,404千円	5,980千円	3,080千円	5,183千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
貸付件数	11人	11人	17人	新規・継続貸付人数
高校進学率	98.1%	98.2%	98.9%	高校等進学者／市内中学校卒業生

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>入学準備金・奨学金の貸付けは、独立行政法人日本学生支援機構や埼玉県をはじめ複数の制度があり、各自治体においても独自の制度を設けている。多様な貸付制度の中から利用者が自身の経済状況等を踏まえ、貸付条件や返還条件等を検討し、最も適した制度を選択できる状況を用意することで、経済的理由による就学困難者の救済に寄与することから、本事業の役割は大きい。</p> <p>平成22年度から高校授業料の無償化が開始されたが、毎年度、入学準備金・奨学金の貸付件数は合わせて10件以上の実績がある。経済的支援は数値目標が設定しにくく、貸付件数等の増減をもって評価することは困難であるが、利用希望者もいることから事業を継続する。経済的理由で進学を断念することがないよう、必要とする者に制度を周知していく。</p> <p>入学準備金・奨学金の貸付額は、対象者の学業に有効に機能することが大前提であり、その返済においても、保護者又は学生自身が安易に滞納することがないよう、納付状況を注視しながら、適切な納付促進や滞納の解消に向け、働きかけていくものとする。</p>
----------	--

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
—	—	—	—

事業番号 44 事業番号 47	小・中学校就学援助費補助事業 準要保護児童生徒給食費援助事業	担当	学務課・ 学校保健課
--------------------	---	----	---------------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	経済的理由により就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対し、就学に必要な費用を支給することにより、児童生徒の就学に係る経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。
事業の対象 対象数	対象者 就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者 対象となる児童生徒（平成25年度 児童971人、生徒647人）
事業の内容	経済的理由により就学が困難と認められる市立小中学校在籍児童生徒等の保護者に対して、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の就学に必要な経費の一部を援助する。

●事業費決算額の推移

年度	事業名	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	小中学校就学援助補助事業	46,131千円	47,820千円	49,279千円
	準要保護児童生徒給食費補助事業	64,944千円	66,613千円	68,624千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
就学援助申請人数	1,589人	1,615人	1,693人	認定人数+不認定人数
就学援助認定割合	95.7%	97.8%	95.6%	認定人数/申請人数
就学援助申請割合	8.3%	8.6%	9.1%	申請人数/市内全児童生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	長引く景気の低迷、ひとり親世帯の増加等により経済的に困窮する世帯が増えている中、就学援助制度により、生活保護世帯が対象となる要保護に準じる程度に困窮した保護者を援助することで、憲法第26条の「すべての国民が教育を受ける権利」や教育基本法第4条の「教育の機会均等」を保障し、経済的理由による教育格差の無い円滑な義務教育の実施を実現することができている。市内小・中学校に在籍する児童生徒に対して就学援助申請の案内を配布する等の十分な周知が図られ、適正に事務が進められており、上尾市教育振興基本計画の施策6「就学支援の充実」を推進するために必要な事業となっている。
本年度の特色・改善点等	平成25年度の就学援助の認定者及び認定割合も前年度より増加し、経済的に困難と判断される家庭が増えている中、平成25年8月から生活保護基準の見直しが行われ、就学援助制度への影響が懸念されている。本年度、就学援助認定基準等の見直しの検討を行い、平成26年度は影響が及ばないように認定基準の維持を行った。今後、認定基準等の見直しを検討する中で、他市町村との均衡も保ちつつ、財政状況を勘案するとともに、引き続き、増加する経済的な理由で就学が困難な家庭に援助ができるよう検討していく。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	就学援助認定割合	95.6%	96.0%	96.5%

事業番号 45 小中学校特別支援教育就学奨励事業

担当 学務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	教育の機会均等の趣旨にのっとり、特別支援学級への就学の事情を鑑みて、その保護者の経済的負担を軽減し、もって特別支援教育の推進に寄与する。	
事業の対象 対象数	小学生：受給者101人（対象者108人）	中学生：受給者69人（対象者81人）
事業の内容	市内小・中学校の特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の対象となる経費の一部を援助する。	

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	5,361 千円	5,150 千円	5,484 千円

●評価指標

指標名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
奨励費申請書の配布・回収	小学校	100%	100%	100%	回収数／配布数（在籍者数）×100
	中学校	97%	100%	100%	
奨励費受給者の割合	小学校	94%	90%	94%	受給数／在籍者数×100
	中学校	86%	93%	85%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	障害のある児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するための事業であり、在籍者のほぼ9割に支給することができた。障害のある児童生徒が就学する上での事情を鑑み、保護者の負担を軽減することは、教育機会均等の考えからも、その必要性は高い。また、特別支援教育の推進のためには必要な事業である。
本年度の特色・改善点等	学校と円滑かつ速やかに連絡を取り合い、国の基準に基づいて効率的に事務を執行している。平成25年度から、一定の条件に該当する通常学級の児童生徒にも支給対象者が拡大されたため、該当する児童生徒を把握し、申請を受けた上で支給を行った。平成26年度においても、継続して適切な事務遂行を行う必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
奨励費受給者の割合（小学校）	94%	94%	95%
奨励費受給者の割合（中学校）	85%	91%	92%

事業番号 46	要保護児童生徒医療費援助事業	担当	学校保健課
---------	----------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	経済的な理由により、就学困難な児童生徒の保護者に対して、学校病（伝染性または学習に支障を生じる恐れのある疾病で、学校保健安全法施行第8条で定めるもの）について医療費の援助を行う。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校に通う要保護児童・生徒のうち学校病の治療を必要とする者 平成25年度実績 31人（うち2名、H24年度要保護児童生徒未請求分）
事業の内容	生活保護受給者（要保護）に対し、学校保健安全法施行令第8条で定めた学校病に係る医療費を援助する。 （国庫補助事業）

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	225 千円	197 千円	507 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
医療券交付人数	52人	54人	69人	要保護児童のみ対象
医療券使用人数	15人（3人）	16人（1人）	31人（2人）	（ ）内は前年度未請求分
医療券使用人数割合	29.0%	29.6%	44.9%	医療券使用人数/医療券交付人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	要保護児童・生徒の学校病（伝染性または、学習に支障を生じる恐れのある疾病で、学校保健安全法施行第8条で定めるもの）については、医療券を発行し治療を促している。各学期ごとに医療券の使用状況を学校へ確認したことや、治癒になるまで医療券を発行して治療を継続するよう促したことにより使用人数が増えた。今後も継続して支援していく必要がある。
本年度の特色・改善点等	学校（養護教諭）と円滑に、かつ速やかに連絡をとり合い、事務を執行している。 医療券の請求が、次年度にならないよう医療機関への周知も行う必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	医療券使用人数割合	44.9%	50.0%	55.0%

基本目標Ⅳ

学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

事業番号35(再掲) 元気な学校をつくる地域連携推進事業

施策2 家庭教育の充実

事業番号48 家庭教育推進事業

事業番号 48	家庭教育推進事業	担当	生涯学習課
---------	----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子育て中の親に対し、子どもが生活のために必要な習慣を身につけ、自立性を育むための家庭教育に取り組めるよう、学習機会や情報について、学校等や地域と家庭の連携を図りながら提供する。
事業の対象 対象数	・幼児～中学生の子どもを持つ保護者と小中学校PTA会員 ・市内幼稚園保護者会・上尾市PTA連合会
事業の内容	家庭教育推進のため、家庭教育をテーマにした講演会の開催などの啓発事業を行う。家庭教育講演会は市PTA連合会の研究大会の講演会と合同で実施。また、市PTA連合会に市PTA連合会で定める「家庭教育行動指針」を啓発する事業を委託。また、市内幼稚園の保護者会にも家庭教育に関する講座等の企画・開催を委託している。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	450 千円	490 千円	490 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
家庭教育講演会開催数	1回	1回	1回	
家庭教育に関する講座等委託団体数	4団体	6団体	5団体	
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,426人	1,552人	1,333人	委託団体開催講座・家庭教育講演会の参加者数の合計

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度については、市PTA連合会と共催で家庭教育講演会、幼稚園保護者会5団体に委嘱して家庭教育に関する講座を実施した。家庭の教育力の低下が指摘される中、子育て中の親に対する家庭教育に関する学習機会の提供を効果的、効率的に行うことができた。</p> <p>また、市PTA連合会に委託して「家庭教育行動指針」の啓発事業を行った。「あいさつをしよう」「こどもをほめよう」「会話をしよう」という行動を呼びかけるこの事業は、実際に子育てを行っている世代の団体である市PTA連合会が自ら企画制作しており、団体が主体的に取り組んでいるという点においても効果的に啓発することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>「家庭教育行動指針」の啓発は、本年度は家庭で目にとめてもらえるよう、カレンダーとして利用できるリーフレットを作成した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,333人	1,500人	1,500人

基本目標V

生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実

事業番号49 生涯学習指導者活動推進事業【再V-3】

施策2 生涯学習施設の整備

事業番号50 学校施設開放(生涯学習)事業

施策3 生涯学習機会の提供

事業番号49(再掲) 生涯学習指導者活動推進事業

事業番号51 成人式事業

事業番号52 子ども大学推進事業

事業番号53 公民館講座事業

施策4 人権教育の推進

事業番号54 人権教育推進事業(生涯学習課所管分)

事業番号55 人権教育集会所運営事業

施策5 図書館運営の充実

事業番号21(再掲) 図書館資料整備事業

事業番号25(再掲) 子どもの読書活動支援センター運営事業

事業番号56 ブックスタート事業

事業番号 49	生涯学習指導者活動推進事業	担当	生涯学習課
---------	---------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅴ生涯にわたる豊かな学びのサポート		
施策	施策1 生涯学習体制の充実	施策3 生涯学習機会の提供	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学んだ成果の活用、市民の学びたい事業の実施を行うため、生涯学習指導者の活動の支援を行う。
事業の対象 対象数	市民、上尾市まなびすと指導者バンク活動推進会議会員 75人・生涯学習推進員 8人
事業の内容	市民講座を上尾市まなびすと指導者バンク活動推進会議（上尾市まなびすと指導者バンクに登録している有志で構成された団体）に委託し、学校開放（特別教室）を利用し開催し、様々な分野の学習機会を市民に提供している。また、生涯学習推進員があげおふるさと学園を市と協働で企画・運営している。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	444 千円	431 千円	1,165 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
市民講座（実施講座数）	28講座	51講座	37講座	
市民講座（参加者数）	464人	617人	429人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市民自らが生涯学習指導者となり、学校開放施設を活用して市民講座を開講するこの事業は、まなびすと指導者バンク活動推進会議に委託して実施した。その結果、市民の生涯学習活動で学んだ成果を活かして、市民の多様な学習ニーズに応える多くの事業を実施することができた。
本年度の特色・改善点等	講座テーマによっては、受講希望者が講座開催要件の5名に満たないため開講に至らない講座が多く、前年度に対し講座数・参加者数共に昨年度に比べて減少する結果となった。今後は講座の企画内容についての検討が必要である。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	市民講座（実施講座数）	37講座	45講座	50講座

事業番号 50

学校施設開放（生涯学習）事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民の学びの場、また、余暇活動の充実を図る場として、学校の特別教室を活動拠点施設として活用してもらうため、地域に開放する。
事業の対象 対象数	市内に在住・在勤・在学の方で構成された施設利用登録をしている生涯学習団体。 登録団体数 88団体
事業の内容	平日の夜間及び土日に、平方東小学校・芝川小学校・富士見小学校の特別教室の一部を地域に開放する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,248千円	1,754千円	1,593千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
利用団体登録	42団体	71団体	88団体	
利用件数	409件	672件	759件	
利用者数（延べ人数）	4,445人	7,676人	7,677人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>生涯学習や社会教育の場の確保を目的として、学校の特別教室の一部を無料で開放する事業である。平成25年度は、利用団体や利用件数が昨年度と比べて増加しており、市民の生涯学習・社会教育の場として、着実に役割を果たしてきている。</p> <p>また、開放施設を利用して、まなびすと指導者バンク活動推進会議に委託した市民講座を開催しており、市民の自発的な学習活動を推進する拠点としても役割を果たしている。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>富士見小学校の利用は増加しているが、芝川小学校の利用は伸び悩んでおり、市民への周知に重点を置く必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
利用団体登録数	88団体	90団体	90団体
利用件数	759件	800件	800件

事業番号 51	成人式事業	担当	生涯学習課
---------	-------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	20歳を迎えた、あるいは迎える若者が成人としての自覚を高められるよう、20歳を祝う成人式を実施する。
事業の対象 対象数	平成5年4月2日から平成6年4月1日までに出生した市内在住の人。また、現在は市外に居住しているものの、中学校卒業時に上尾市内に在住していた人。対象者2,247名（男性1,159名 女性1,088名 平成25年11月1日時点）
事業の内容	アトラクションと式典の2部構成で実施し、新成人の前途を祝福する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,370 千円	991 千円	1,049 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
成人式対象者	2,144	2,099	2,247	
成人式参加者	1,593	1,533	1,600	
参加率（%）	74.30%	73.03%	71.21%	対象者/参加者×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>成人式は、新成人の門出を祝福し、成人としての自覚を高めるための事業として実施している。</p> <p>公募及び市内各中学校から推薦された新成人（各校2名ずつ）で構成される成人代表者会議が主体となって、式典の進行、アトラクションの企画を行っており、成人としての自覚や責任を持って成人式の運営が行われている。このことは、参加する新成人にも効果が波及している。</p>
本年度の特色・改善点等	平成25年度の成人式は、成人式参加者による式典の妨害や混乱等もなく、穏やかに行われた。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	成人式参加率	71.21%	73.00%	74.00%

事業番号 52 子ども大学推進事業

担当 生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地域の大学や企業、市町村が連携し、子どもたちが自発的に好奇心をもって取り組むことができる体験型の学習事業を展開することにより、子どもたちに「科学する心」、「思いやりの心」、「開かれた心」さらには「コミュニケーション能力」の醸成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市・伊奈町・桶川市に在住の小学校4年生から6年生 合計90名（上尾30名）
事業の内容	上尾市・伊奈町・桶川市・聖学院大学・日本薬科大学・NPO法人マナビバが連携し、大学教授や各専門家が講師となり、ものごとの原理やしぐみを追及する「はてな学」、地域を知り郷土を愛する「ふるさと学」、自分を見つめ人生や将来について考える「生き方学」の3つの分野に分かれ、子どもたちに講義・実験を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	0千円	0千円	60千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
応募者数	129人	94人	69人	
参加者数	60人	62人	69人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾市・伊奈町・桶川市の3市町から計69名が参加した。</p> <p>聖学院大学では地域のバリアフリーについて、ボランティアと手話について、日本薬科大学ではドクダミやサケの白子と言った身近なものを使った実験を行うなど、各大学の特色を生かした授業を提供することができた。また、地域に関して学ぶ「ふるさと学」では、伊奈町のニューシヤトルの駅を見学し、地域に根差した学習の提供ができた。</p> <p>また、最終日には全体を通しての振り返りの時間と発表会を設け、講義の一貫性を作ることができ、参加者の満足度が向上した。</p>
本年度の特色・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ・県主催の交流・連携事業「子ども大学特別講義」に子ども大学あげお・いな・おけがわから6名が参加し、他の子ども大学生と交流を行った。 ・応募者が多いことから、広報の量を制限したところ、応募者全員の参加が可能となった。しかし、周知が十分になされていないという課題があり、今後は広報の方法の検討が必要である。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	応募者数	69人	100人	100人

事業番号 53	公民館講座事業	担当	生涯学習課
---------	---------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	各種の講座事業などを行うことによって、市民の教養や健康増進などの向上を図るとともに、地域における自主的・主体的な生涯学習を推進する。
事業の対象 対象数	市民の年齢や性別を問わず、広く市民を対象とする。
事業の内容	生涯学習の場の提供として、6公民館で講座事業を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,937 千円	3,414 千円	3,361 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
講座数	136講座	130講座	136講座	公民館まつりを除く
講座参加者数	10,104人	10,549人	11,427人	公民館まつりを除く

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>社会教育法に基づく社会教育機関として、上尾・上平・平方・原市・大石・大谷の6つの公民館があり、上尾市の生涯学習や社会教育を行う拠点として、基幹的な役割を担っている。公民館事業として講座等の事業を実施し、平成25年度には全公民館で136講座11,427人の参加を得ており、市民の多様な学習ニーズに対応して、堅調な事業運営を行うことができた。</p> <p>また、各公民館で公民館まつり等を実施し、学びの成果の発表の場を提供することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>上尾公民館で昨年度から実施している講座・「伝統文化に親しむ」については、いけばなや茶道など日本の伝統文化について、その歴史と初歩的な体験をセットにした講座で、特色のある事業実施している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	講座参加者数（延べ人数）	11,427人	11,000人	11,000人

A

事業番号 54

人権教育推進事業（生涯学習課所管分）

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民を対象に、差別意識の解消に向けた人権教育・啓発を充実し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。また、小中学校においても「やさしい心を育む」・「他人の痛みに共感する力を育む」という2つの視点を持ち、人権を大切なものとして認めあえるような啓発活動の推進を図る。
事業の対象 対象数	・市民 ・市内小中学校の児童生徒 18,617人
事業の内容	上尾市人権教育推進協議会の開催及び、北足立北部地区人権教育推進協議会や各種団体が開催する研修会・会議等への参加。 市内小中学校児童生徒の人権標語コンクールの実施。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	985 千円	991 千円	1,037 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
人権標語作品応募点数	18,705点	18,867点	19,203点	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	【人権問題研修会】
	職員に向けての研修会では「差別の現実学ぶ」ということをテーマに、差別をより身近なものとして実感し、職員として高い人権意識の必要性を自覚できるよう、差別を受けている当事者や差別の解消に取り組む方を講師としている。また、市民に向けての研修会では、講師や参加者同士の対話が生まれるよう工夫し、参加者が人権問題を身近な問題として主体的に考えることができるよう実施できた。
	【人権標語コンクール】
	子どもの頃から「人権感覚」をはぐくむことを目的に全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施した。平成25年度は市内全児童生徒数を超える点数の応募があり、多くの児童・生徒に対して人権意識の高揚を図ることが出来た。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	人権標語作品応募数	19,203点	19,000点	19,000点

事業番号 55	人権教育集会所運営事業	担当	生涯学習課
---------	-------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	人権教育推進プランを基にして、人権教育推進の拠点施設として、人権意識の普及啓発を行う。
事業の対象 対象数	市民全般
事業の内容	原市集会所・畔吉集会所の主催事業の実施

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	1,573 千円	1,825 千円	1,685 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
人権教育集会所主催事業参加者数	491人	614人	711人	
人権教育集会所利用者数	26,869人	26,774人	25,491人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>人権教育集会所の主催事業は、利用者間のふれあいを通し偏見差別の払拭を目指し、人権意識及び文化的教養の向上のために実施され、平成25年度は原市集会所で21事業403人、畔吉集会所で16事業308人の健康、歴史、料理、親子教室など多様な事業を実施することができた。</p> <p>また、両集会所で、展示・実演発表などのイベントを中心とした集会所まつりを実施した。平成25年度は1,200人を超える市民の参加があり、地域及び利用者間の交流を深めることができた。</p> <p>集会所利用者全員を対象に、人権問題指導者研修会を実施し、平成25年度は566人の参加が得て、人権問題を自身の問題としてとらえ、偏見や差別を許さない実践力を身につけて、これらの人が核となり地域社会に広げることとに貢献できた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>原市集会所では、隣接する原市南保育所との交流事業を積極的に行い、異世代間の交流を生み出すことができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定 A	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
	人権教育集会所利用者数	25,491人	27,000人	27,000人

事業番号 56 **ブックスタート事業**担当 **図書館**

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地域の子育て支援のため、市内で生まれた新生児（保護者）を対象に、親子で絵本に親しみ、豊かな情操をはぐくむことを目的に事業を行う。
事業の対象 対象数	新生児（4か月児健康診対象者） <u>1,659</u> 人
事業の内容	4か月児健康診査を受診した、新生児（保護者）を対象に絵本と絵本リストが入った「ブックスタート・バック」を渡す。

●事業費決算額の推移

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
3,024千円	3,024千円	2,877千円	2,617千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明	
絵本配布回数（健康診査実施回数）	24回	23回	24回		
配布率	98.2%	99.8%	99.8%	配布人数／対象者	
0歳～6歳 図書館利用者数	1,698人	2,351人	2,432人		
児童書・紙芝居貸出点数	児童書	153,654点	152,198点	149,001点	
	紙芝居	3,573点	4,140点	4,572点	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>ブックスタートは平成20年度から実施しており、早い時期からの読書に親しむ環境づくりの一助となっている。受診率の高い4か月児健診時を利用して、バック（絵本2冊・あかちゃんえほんリスト・おはなしかいパンフ）を手渡す。職員とボランティアが渡し忘れがないよう配慮することで、毎年ほぼ100%に近い配布率を達成している。一人ひとりの赤ちゃんに読み聞かせをして回ることで、保護者に自分の子どもが絵本に興味をもつ姿を見てもらい、絵本はふれあいの一つの方法であると実感してもらうとともに早くから絵本に親しませることの重要性を認識してもらう。また、手あそびの紹介もしているため、このブックスタートがきっかけで、図書館の「あかちゃんおはなしかい」に参加するようになったケースが見られるようになった。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>平成25年7月から、健康推進課の4か月児健診会場が変更になり、それに伴い、従来のえほんの読み聞かせの他に、健診会場での待ち時間に保護者からの読書相談などに応じたり、手あそびを披露し、あかちゃんおはなしかいのアピール等を引き続き行う。またブックスタート後のフォローアップとして、保護者向けに啓発講座を年1回行うほか、ブックスタート期の赤ちゃんを対象にした「あかちゃんおはなしかい」を月1回開催し、上尾の子どもたちが誕生から読書に親しむ環境をつくる。</p>

次年度以降の目標設定

評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	0歳～6歳 図書館利用者	2,432人	2,493人	2,555人

基本目標Ⅵ

文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進

事業番号57	文化芸術振興事業
事業番号58	美術展覧会事業
事業番号59	市民音楽祭事業

施策2 生涯学習施設の整備

事業番号60	文化財調査・保存事業
事業番号61	埋蔵文化財調査事業
事業番号62	文化財保護啓発事業
事業番号63	歴史資料調査事業

事業番号 57

文化芸術振興事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援する。また発表の場を提供して市民が豊かな文化の享受と発信ができるような環境づくりに努める。
事業の対象 対象数	文化団体連合会と、その加盟団体12団体 市内の文化芸術団体、個人
事業の内容	文化団体連合会への補助金の交付 社会教育指導員を配置し、市内の文化芸術団体等の活動支援

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,135 千円	2,109 千円	2,082 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体	
文化芸術祭参加者数	3,000人	3,000人	3,000人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>文化団体連合会は、市内で活動する各種の文化芸術団体が加盟する団体である。会の運営は主にそれぞれの分野における代表団体が行い、自立性の高い取り組みがなされている平成25年度で29回目となる「上尾市文化芸術祭」では、様々な文化団体が一堂に会して展示や公演等を実施し、団体間の連携や交流が行われたほか、市民に対して文化芸術に触れる機会を提供することができた。</p> <p>また、市民の文化芸術に関する事業について、名義後援という形で企画・運営団体に対し支援を行うことができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>文化団体連合会に加盟・非加盟に関係なく、市民の芸術活動に対して幅広く支援するべく、新しい支援方法を検討する必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体

事業番号 58	美術展覧会事業	担当	生涯学習課
---------	---------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	美術家協会との共催により広く市民の美術活動の発表の場として、公募により美術展を開催し、市民の創作活動の奨励及び芸術活動への意識を高める。
事業の対象 対象数	市美術展覧会出品者数 522人
事業の内容	市美術展覧会を開催し、美術の創作活動を行う市民の発表の場を提供する。優秀作品には表彰を行い、さらなる創作活動の励みとする。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	1,210 千円	1,261 千円	1,387 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
作品出品数	503点	545点	561点	
入場者数	2,571人	2,360人	2,342人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>市民ギャラリー、市役所ギャラリーでは、団体や個人の美術展が数多く開催されており、市民の美術活動については、堅調であるといえる。本事業については、広く市民から作品を募集する公募展であり、優秀作品を顕彰するシステムは、市民の美術創作活動の活性化のに大きく寄与している。</p> <p>また、本事業の審査及び運営の多くの部分を担う上尾市美術家協会は、本事業を基本的な事業と位置付けながらも、独自の事業（美術家協会展、街角美術館など）も実施するなど、本事業をきっかけにして、上尾市域の文化芸術活動の活性化を推進していただいている。</p>
----------	--

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標			
A	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度	
	作品出品数	561点	570点	570点
	入場者数	2,342人	2,400人	2,400人

事業番号 59

市民音楽祭事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民による音楽活動団体に発表の場を提供し、広く音楽活動の普及を図ると共に、実行委員会形式で実施し参加団体間の交流を図る。
事業の対象 対象数	市内で活動する音楽団体
事業の内容	合唱祭、邦楽祭、吹奏楽・器楽祭の3部門で開催。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	540 千円	544 千円	505 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
参加団体数	49団体	50団体	50団体	・3部門合計参加申込団体数
入場者数	1,771人	1,989人	1,557人	・3部門合計入場者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度で40回を数え、市民の音楽グループの発表の場として定着している事業である。参加した音楽グループにより実行委員会を組織しているが、3部門とも堅調な事業実施状況であり、参加団体間の交流が活発であり、特に吹奏楽については、学生と社会人の団体の交流が、それぞれの活動の活性化につながっている。</p> <p>ただし、平成25年度邦楽祭は、実行委員会での準備を重ねてきたが、実施日当日が記録的な大雪となり、急きょ中止となった。また、その翌日実施の吹奏楽・器楽祭は、開催はできたが入場者数はやや少なくなった。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>市制施行55周年事業として、市民音楽祭周知のための駅前コンサートを10月に実施した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
参加団体数（3部門合計）	50団体	50団体	50団体
入場者数（3部門合計）	1,557人	1,900人	1,900人

事業番号 60	文化財調査・保存事業	担当	生涯学習課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護		
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法や上尾市文化財保護条例に基づいて文化財の保存と活用を図り、市民の文化的向上を図る。
事業の対象 対象数	市内の国・県・市指定・登録の文化財及び未指定・未登録の文化財
事業の内容	未指定及び未登録の文化財の基礎調査。指定・登録文化財の維持管理やそのための交付金の交付及び修理・修繕のための補助金の交付。文化財周知のため説明板や標識の設置管理を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,003 千円	4,093 千円	3,014 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	117件	117件	120件	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度は、新たに登録無形民俗文化財2件と登録有形民俗文化財1件の合計3件の登録を行った。特に、無形民俗文化財については継承者の減少や高齢化により、その存続が危ぶまれている。市の文化財として登録することは、保持団体の活性化が期待できる。</p> <p>文化財の保存・管理事業として、文化財修繕1事業、文化財修繕の補助事業1事業、6件の文化財の説明板・標柱の改修事業、指定無形民俗文化財7件への維持交付金の交付等を行い、文化財の保存・管理の支援をすることができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>本年度は、中平塚の祭りばやし、中分の大山灯籠行事、弁財の浅間塚の3件の文化財について登録することができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	市指定・登録文化財の数	120件	124件	124件

事業番号 61 埋蔵文化財調査事業

担当 生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財を保護するため、範囲確認や記録保存の調査を実施する。
事業の対象 対象数	埋蔵文化財埋蔵地 周知の埋蔵文化財包蔵地 420か所
事業の内容	周知の埋蔵文化財包蔵地で土木工事等の計画が示された際、工事主体者より申請を受けて試掘・範囲確認調査を実施し、保存すべき遺構・遺物の有無を確認する。遺構・遺物が確認され、土木工事等の計画変更が困難である場合、発掘調査を実施し、調査報告書を刊行して記録保存する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	3,762千円	3,609千円	4,022千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
—	—	—	—	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>埋蔵文化財包蔵地内で住宅建設等の土木工事等を実施する場合、発掘調査が必要であるが、その範囲を確認するために試掘調査を実施する必要があるが、平成25年度には70件の試掘調査を実施し、希望通り調査を実施することができた。</p> <p>また、試掘調査の結果、発掘調査が必要であった2件について、発掘調査を実施した際に、工事の時期に影響を与えることなく調査を実施することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>景気回復等の影響により、試掘調査の件数は多くなってきている。また、平成22年以降2年ぶりに発掘調査を実施した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	—	—	—	—

事業番号 62	文化財保護啓発事業	担当	生涯学習課
---------	-----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法、上尾市文化財保護条例の趣旨に基づき、市民に対して文化財の活用を図り、その保存継承のための意識啓発と文化財保護に対する理解を深めるためにセミナーや展示会を実施する。
事業の対象 対象数	市民 平成25年度実績 2,372人
事業の内容	あげお歴史セミナー・上尾の文化財展・市制施行55周年記念事業「上尾の歴史クイズラリーあるある文化財探検隊」の開催

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	23 千円	42 千円	57 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
文化財保護啓発事業 延べ日数	15日	43日	25日	
文化財保護事業参加 延べ人数	977人	3,533人	2,372人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>地域の文化財を活用して講座・展示会・見学会等を実施し、市民が地域の文化や歴史の理解を深める支援を行った。</p> <p>歴史セミナーは、講座と現地見学を組み合わせ実施、展示会は、尾山台団地自治会や地域振興公社との共催で、尾山台団地、自然学習館、コミュニティセンターの各会場で実施、市制施行55周年記念事業の「上尾歴史クイズラリー」は主として小学生を参加対象として実施した見学会というように、多様な内容の事業を実施することができた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>市制施行55周年記念事業として実施した「上尾の歴史クイズラリーあるある文化財探検隊」は、主に小学生を参加対象とし、次世代を担う子どもたちに地域の文化や歴史を伝えることができた。</p> <p>※1 これまでの調査成果の展示を繰り返しているため、新たな展示物の調査事業も必要となる。平成26年度以降は開催回数を縮小し文化財等の調査期間とする。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	文化財保護事業参加延べ人数	2,372人	※1 1,000人	※1 1,000人

事業番号 63	歴史資料調査事業	担当	生涯学習課
---------	----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市史刊行事業やその後の調査で収集した歴史資料について、保存と活用を図る。
事業の対象 対象数	歴史的価値のある公文書、諸家文書
事業の内容	歴史的価値のある公文書の収集。文書目録の刊行（『原市町役場文書目録（下）』）。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	3,815 千円	2,608 千円	2,747 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
文書目録の発行	1冊 (5,776点) 上平村役場文書 目録（下）	1冊 (9,050点) 原市町役場文書 目録（上）	1冊 (10,005点) 原市町役場文書 目録（下）	毎年度1文書刊行 ※括弧書きは掲載点数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市史編さん事業で収集した歴史資料について、保存・活用を図るための事業を実施している。平成25年度については、原市町役場文書目録（下）について計画通り刊行することができた。
本年度の特色・改善点等	原市町役場文書目録の発行と同時に、旧大谷農協文書の整理に着手し、平成27年度からの文書目録刊行の計画を立てた。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	文書目録の刊行	1冊	1冊	1冊

基本目標Ⅶ

健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ振興計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

事業番号64 学校施設開放(スポーツ振興)事業

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

事業番号65 スポーツ大会・教室等開催事業 【再Ⅶ-5】

事業番号66 子どもの体力向上地域連携事業

施策4 スポーツ指導者の育成

事業番号67 スポーツ活動推進事業

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

事業番号65(再掲) スポーツ大会・教室等開催事業

事業番号 64 学校施設開放（スポーツ振興）事業

担当 スポーツ振興課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校施設開放（校庭・体育館）の利用にあたり、随時、施設・備品等の修繕を行い、利用者の安全を確保する。
事業の対象 対象数	市内在住・在勤・在学の人（25年度実績） 校庭（小学校22校・中学校11校）209,929人 体育館（小学校22校・中学校11校）152,413人 夜間照明付き校庭開放（東小）820人 総計363,162人
事業の内容	学校施設（体育館、校庭）の開放のために、修繕、備品の交換、補充や固定テント等の設置等を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	2,885千円	3,937千円	5,350千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
学校開放登録団体数	552団体	536団体	551団体	学校開放利用団体名簿
学校開放施設利用者数	323,000人	417,161人	363,162人	学校開放月例利用報告書

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校施設の利用にあたり、学校開放運営委員会が市内各小中学校で組織され運営されている。身近なスポーツ施設として学校施設開放の利用者が増えている中、平成25年度は耐震工事等により利用できない期間もあったが、各学校開放運営委員会が協力し合い、利用者のニーズに対応した。</p> <p>また、東小学校夜間照明施設等の経年劣化が原因である設備修繕を行い、社会体育トイレについても、各学校開放運営委員会の報告を受け、随時修繕等の対応を行った。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>各学校開放委員会に対し要望アンケートを実施し、社会体育トイレの設備修繕等、利用者の意見も考慮し、設備修繕を検討していく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
B	学校開放施設利用者数	363,162人	417,000人	418,000人

事業番号 65	スポーツ大会・教室等開催事業	担当	スポーツ振興課
---------	----------------	----	---------

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進		
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実	施策5	スポーツ・レクリエーション活動の支援

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	様々な大会を開催し、生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図る。またそれらの大会を通じ、心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与する。		
事業の対象 対象数	(25年度実績) ○いきいきライフ大運動会 828人 ○市民体育祭 約5,000人 ○上尾シティマラソン 9,672人 ○市民駅伝競走大会 0人(中止のため)		
事業の内容	生涯スポーツ及びスポーツ・レクリエーションの振興を図るために、各種大会を実施する。		

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	23,191 千円	24,008 千円	18,571 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
大会の開催日数	3日	4日	3日	
上尾シティマラソン 参加者数	8,805人	9,374人	9,672人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度上尾市民駅伝競走大会は、積雪及び凍結の影響のため中止となったが、その他各種大会については、上尾市市制施行・体育協会創立55周年記念事業としてスポーツ推進委員及び体育協会の協力を得て、企画・運営ができた。</p> <p>上尾シティマラソンについては、市最大のスポーツイベントとして全国各地から多くの参加者を迎え開催した。また、上尾市をシティセールスする大会でもある。</p> <p>大会運営にあたっては、体育協会加盟団体をはじめ、市内中学・高校・大学等ボランティアスタッフ含め約1000人の協力を得て大会を実施できた。</p> <p>スポーツステップアップ講座を実施し、スポーツ推進委員以外の方にも指導者養成が図られた。また、高齢者対象に軽体操やレクリエーションゲーム等を行う長生きスポーツ教室等も定着してきており、好評であった。</p>
	<p>本年度の特色・改善点等</p> <p>H25年4月からリニューアルオープンした上尾市民体育館でいきいきライフ大運動会や講座・教室を開催。</p> <p>上尾シティマラソンハーフの部男子大学生1位・2位の選手及びコーチをニューヨークシティマラソンハーフ大会へ招待している。</p> <p>※H25年度決算額は、スポーツ推進委員関連の予算(5,081千円)をスポーツ活動推進事業にしたため、H24年度と比較し減となっている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	上尾シティマラソン参加者数	9,672人	9,700人	10,000人

事業番号 66 子どもの体力向上地域連携事業

担当 スポーツ振興課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	昭和60年頃に比べ子どもの体力の低下が認められる中、運動する子どもと運動しない子どもの二極化が顕著に現れている。そこで子どもが運動や遊びを通じて体を動かす場と機会を提供し、運動する習慣や意欲を養い、体力の向上を図ることを目的とする。
事業の対象 対象数	市内の小学校児童から中学校生徒まで
事業の内容	教室、大会の開催やげんきチャレンジの実施

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	0 千円	0 千円	196 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
小学生ドッジボール大会	—	—	898人	参加児童数（5・6年生）
中学生バレーボール教室	—	—	146人	参加生徒数
上尾市なわとび大会	—	—	2,041人	参加児童生徒数（延べ人数）
ランニング教室	—	—	200人	参加人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成25年度からの新たな事業として「子どもの体力向上地域連携事業」に取り組んだ。</p> <p>小学生ドッジボール大会については、新体力テストの結果として、課題とされている投げる力を向上させることを目標とした。</p> <p>中学生バレーボール教室では、参加生徒の体力測定を行うことで、次年度以降もデータの収集と分析を行っていく。</p> <p>上尾市なわとび大会は、小学3年生からの参加を呼びかけていることもあり、多くの児童生徒がなわとび大会に取り組むことが出来た。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>小学校低学年も参加できる教室などを開催する必要がある。</p> <p>げんきに楽しく体力向上を図れるよう、「げんきチャレンジ」を実施する。</p> <p>※「げんきチャレンジ」とは、身体を動かす遊び等を通じて、運動を楽しむきっかけをつくり、運動に親しむ習慣や意欲を養い、体力の向上を目指します。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	大会・教室回数	4回	5回	5回

事業番号 67	スポーツ活動推進事業	担当	スポーツ振興課
---------	------------	----	---------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民への生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図ることを目的としたスポーツ推進委員連絡協議会の活動を支援し、スポーツ活動の推進を図る。
事業の対象 対象数	スポーツ推進委員自主事業（スポーツ推進委員数48人、定員50人）
事業の内容	地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員等の資質向上を図るため、研修や講習会を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	0 千円	0 千円	5,081 千円

●評価指標

指標名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	10日	9日	13日	市、県、地区、関東、全国、自主事業
スポーツ推進委員研修参加人数	153人	149人	171人	延べ参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>スポーツ推進委員は地域スポーツの推進を担い各々の資質向上を図るため、スポーツ推進委員内部での自主的な研修をはじめ、北地区、県、関東地区で行われる研修会に参加している。また、市で主催するスポーツステップアップ講座等を受講し、地域の指導者として活躍しており、また、市が主催する大会に積極的に協力し、大会運営を進行する上で重要な存在となっている。</p> <p>長生きスポーツ教室は、公民館事業として定着しており、スポーツ推進委員は講師として、身体を動かす機会が少ない高齢者を対象に軽スポーツ、レクリエーション等を指導し、スポーツの楽しさを伝えながら参加者の健康の保持や体力増進を図った。</p>
	<p>本年度の特色・改善点等</p> <p>AED講習会では、心肺蘇生法及びAED操作方法を習得し、スポーツレクリエーション活動における救命措置の必要性・重要性の理解を図った。</p> <p>※スポーツ活動推進事業は、スポーツ推進委員の活動を支援・推進するもので、平成25年度から新たな事業とした。この予算は、平成24年度までスポーツ大会・教室等開催事業に含まれていた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成25年度実績	平成26年度	平成27年度
A	スポーツ推進委員研修日数	13日	13日	13日
	スポーツ推進委員研修参加人数	171人	200人	200人

平成26年度（平成25年度実施事業対象）
教育委員会の事務に関する点検評価 報告書

発行 上尾市教育委員会
〒362-8501
埼玉県上尾市本町三丁目1番1号
電話 048(775)5111(代表)

編集 上尾市教育委員会事務局
教育総務部 教育総務課
電話 048(775)9469
FAX 048(776)2250
E-Mail s721000@city.ageo.lg.jp



夢・感動教育 あげお